

平成13年度
市民意識調査
報告書

平成14年2月

加古川市

目 次

．調査の概要	
1．調査の目的	3
2．調査項目	3
3．調査設計	3
4．回収結果	3
5．報告書の見方	5
6．調査の精度	5
．回答者の属性	7
．調査結果の分析	
1．市に対する全体評価	15
1 - 1．住みやすさ評価	15
1 - 2．定住意向	17
2．生活環境および市政全般について	19
2 - 1．生活環境評価	19
3．市の将来像	26
1．暮らしてみたいと思う「まち」	26
4．文化について	29
4 - 1．文化に対するイメージ	29
4 - 2．「加古川の文化」からの連想	32
4 - 3．加古川の文化振興のため行政に望むこと	35
4 - 4．文化活動に積極的に参加できるように必要なこと	38
4 - 5．市内施設での文化的催しの鑑賞について	41
5．公園について	46
5 - 1．公園の利用頻度	46
5 - 2．公園についての希望	48
5 - 3．「公園ボランティア」の参加意向	51
5 - 4．公園ボランティアでできると思うこと	53
5 - 5．公園ボランティア活動の障害	56
5 - 6．公園全般に関しての感想	58
6．男女の役割や考え方について	62
6 - 1．「男女共同参画社会」の認知度	62
6 - 2．男女平等の現状認識	63
6 - 3．男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件	68
7．市の行財政改革について	70
7 - 1．市役所（職員）に対する印象	70
7 - 2．市民サービスの水準と市民の負担の関係について	73
7 - 3．市役所の仕事の民間委託について	75
7 - 4．市の行財政改革の取り組みについて	78
8．広域的なまちづくりについて	85
8 - 1．広域的なまちづくり推進のために必要な取り組み	85

9 . 住民満足度の分析	87
9 - 1 . 生活環境および市政全般に対する住民の満足度と重要度	87
9 - 2 . 住民のニーズ	90
9 - 3 . 住民のニーズと住みやすさとの関係	94
10 . 自由意見のとりまとめ	114
. 資料	
1 . 調査票	119

は じ め に

市民意識調査報告書の発行にあたりごあいさつを申し上げます。

平素、皆様方には加古川市政各般にわたり、格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、この度、市民意識調査を実施いたしましたところ、多数のご回答をいただき深く感謝申し上げます。

さて、地方分権が本格化する中、その趣旨をふまえ、地域の実情に沿った、よりきめ細かな対応を図るため、本市は今春4月から「特例市」へ移行いたします。このことにより今後一層地域に密着した魅力あるまちづくりを行えるものと考えております。

しかしながら、まちづくりは行政のみで進めるものではなく、市民の皆様と「共に考え」、「共に責任を分かち合い」、「共に働く」協働のもとに取り組んでいくことが重要であります。

そこで、市民の皆様が日々の暮らしの中で、市政についてどのように考え、何を望んでおられるかを的確に把握・分析し、施策に反映していくため、この市民意識調査を実施いたしました。ご回答いただいた貴重なご意見ご提案は十分に検討し、今後の市政運営の基礎資料として活用させていただきたいと考えております。

皆様方には、これからも本市のまちづくりになお一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年2月

加古川市長 木下正一

1. 調査の目的

市民の生活実態や生活環境に関する意識、市政に対する要望など、多様化する市民ニーズを把握して、今後の市政運営の基礎資料を得ようとするものである。

2. 調査項目

- | | |
|------------------------|--------------------|
| (1) 市に対する全体評価 | (6) 男女の役割・考え方 |
| (2) 生活環境評価 | (7) 市の行財政改革に対する考え方 |
| (3) 市の将来像 | (8) 広域的なまちづくり |
| (4) 文化に対するイメージ・要望 | (9) フェースシート |
| (5) 公園の現状・公園でのボランティア活動 | (10) 市への意見、要望 |

3. 調査設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 加古川市全域 |
| (2) 調査対象 | 平成13年6月1日現在、住民基本台帳登載者及び外国人登録者で満20歳以上の
人 |
| (3) 標本数 | 5,000サンプル |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送配付および郵送回収法 |
| (6) 調査期間 | 平成13年7月5日(木)～7月19日(木) |

4. 回収結果

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 発送数 | 5,000 |
| (2) 実質発送数(発送数 - 返戻数) | 4,967 |
| (3) 有効回収数(回収した調査票から、記入のない調査票を除いた数) | 1,819 |
| (4) 有効回収率(有効回収数 ÷ 実質発送数 × 100) | 36.6% |

【表1 居住地区別回収状況（人口は20歳以上）】

	人口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
合計	208,290	5,000	33	4,967	1,819	36.6
加古川町	42,797	1,028	7	1,021	369	36.1
神野町	6,683	157	-	157	57	36.3
新神野	4,273	99	-	99	45	45.5
西条山手	769	17	-	17	8	47.1
山手	2,943	72	-	72	25	34.7
野口町	28,032	675	10	665	228	34.3
平岡町	39,406	949	1	948	351	37.0
尾上町	21,688	514	7	507	183	36.1
別府町	13,404	324	2	322	101	31.4
八幡町	3,707	90	-	90	34	37.8
平荘町	4,405	108	-	108	35	32.4
上荘町	4,852	117	-	117	39	33.3
東神吉町	11,994	291	1	290	119	41.0
西神吉町	7,779	186	2	184	71	38.6
米田町	4,826	113	2	111	58	52.3
志方町	10,732	260	1	259	89	34.4
地区不明	-	-	-	-	7	-

生活圈構成図



【表2 年齢別回収状況（人口は20歳以上）】

	人口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
合計	208,290	5,000	33	4,967	1,819	36.6
20歳代	40,590	971	1	970	227	23.4
30歳代	36,985	891	11	880	293	33.3
40歳代	34,172	813	10	803	293	36.5
50歳代	43,702	1,047	8	1,039	435	41.9
60歳代	28,664	665	3	662	329	49.7
70歳以上	24,177	613	-	613	237	38.7
年齢不明	-	-	-	-	5	-

5. 報告書の見方

(1) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数(件数)として算出した。従って、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。

なお、本文中、表やグラフに次にあげるような表示がある場合、複数回答を依頼した質問である。

- ・ M A % (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- ・ 2 L A % (2 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- ・ 3 L A % (3 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- ・ 5 L A % (5 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを5つ以内で選択する場合

(2) グラフ中の各項目横に記入された()内の数値は、その項目における回答者数を表している。

(3) 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。

(4) 図表として示した分析の軸には、「無回答」を省いた。

(5) 回答選択肢は図表及び文章中において簡略化した。

6. 調査の精度

この調査は標本調査であり、今回得られた分析結果から加古川市全体としての意見を推定することができる。この場合、標本誤差は次の式により近似値を求めることができる。(ただし、信頼度95%とする)

$$E = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \cdot \frac{P(1 - P)}{n}}$$

E = 標本誤差

N = 母集団数(20歳以上の市民 208,290人)

n = 基数(1,819人)

P = 回答比率(%)

たとえば、回答者数(1,819人)を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%であったとすると、母集団(20歳以上の市民全体)における回答比率は、47.7~52.3%の間であると推定される。表3-1から3-3までは、それぞれ年齢別、居住地区別、性別の標本誤差をまとめたものである。なお、信頼度95%というのは、同じ方法で100回調査を実施すれば、95回は母集団の真

の値から、上式で求められた誤差の範囲内に入ることである。

【表3 - 1 標本誤差 (E) 早見表 (年齢別)】

回答比率 基数	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50%
全 体 (1819)	±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
20 歳 代 (227)	±3.9%	±5.2%	±6.0%	±6.4%	±6.5%
30 歳 代 (293)	±3.4%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.7%
40 歳 代 (293)	±3.4%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.7%
50 歳 代 (435)	±2.8%	±3.8%	±4.3%	±4.6%	±4.7%
60 歳 代 (329)	±3.2%	±4.3%	±4.9%	±5.3%	±5.4%
70 歳 以 上 (237)	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.4%

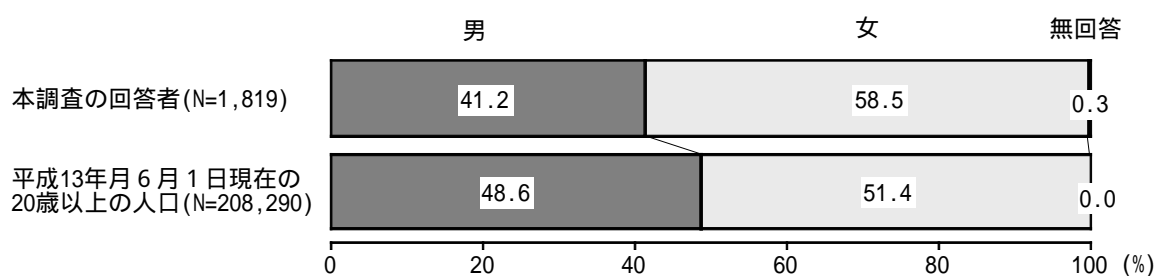
【表3 - 2 標本誤差 (E) 早見表 (居住地区別)】

回答比率 基数	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50%
全 体 (1819)	±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
加 古 川 (369)	±3.1%	±4.1%	±4.7%	±5.0%	±5.1%
加古川北 (169)	±4.5%	±6.0%	±6.9%	±7.4%	±7.5%
野 口 (228)	±3.9%	±5.2%	±5.9%	±6.4%	±6.5%
平 岡 (351)	±3.1%	±4.2%	±4.8%	±5.1%	±5.2%
浜 の 宮 (284)	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
両 荘 (74)	±6.8%	±9.1%	±10.4%	±11.2%	±11.4%
加古川西 (248)	±3.7%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.2%
志 方 (89)	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.2%	±10.4%

【表3 - 3 標本誤差 (E) 早見表 (性別)】

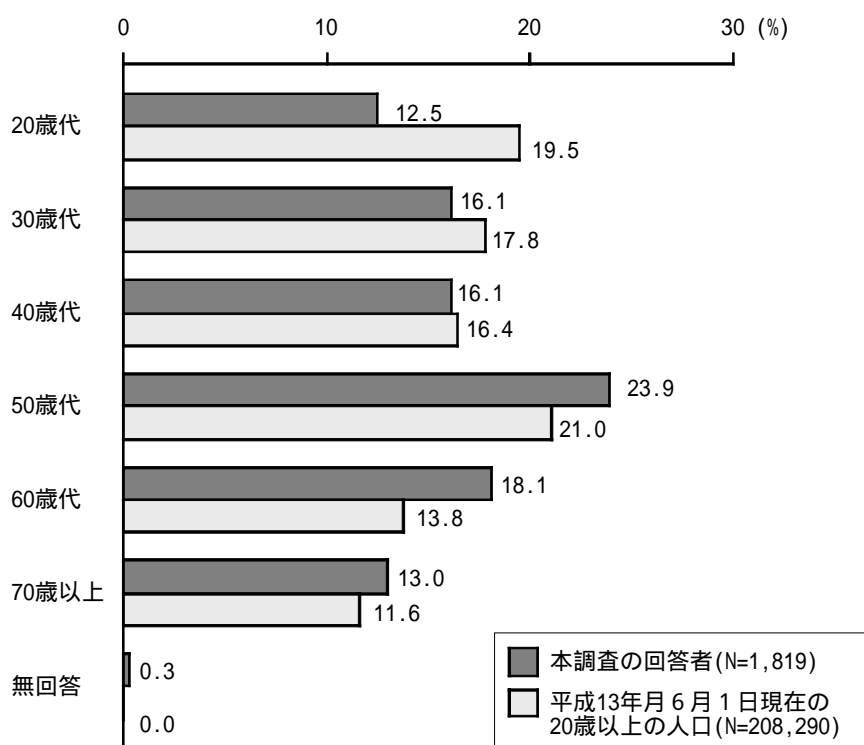
回答比率 基数	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50%
全 体 (1819)	±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
男 性 (750)	±2.1%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.6%
女 性 (1063)	±1.8%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.0%

1. 性別



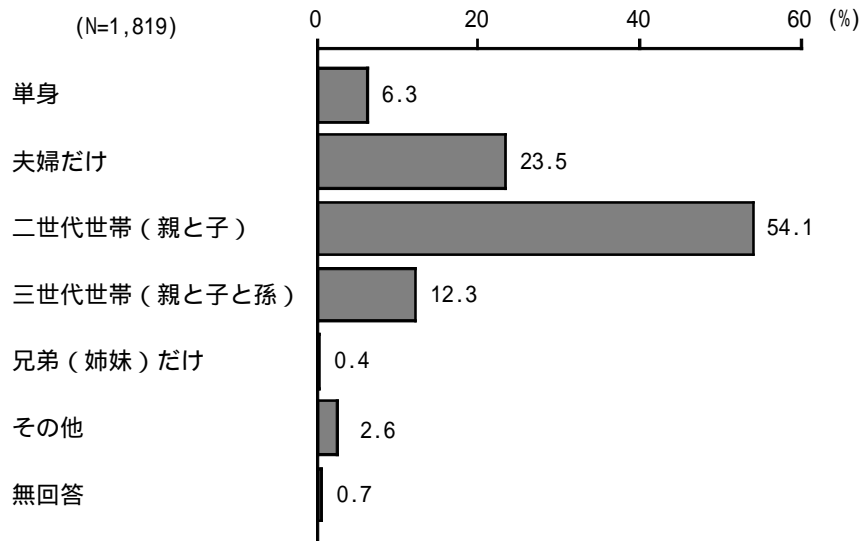
本調査の回答者は、「男性」が約4割、「女性」が約6割となっており、女性の回答比率が男性よりも高くなっている。

2. 年齢



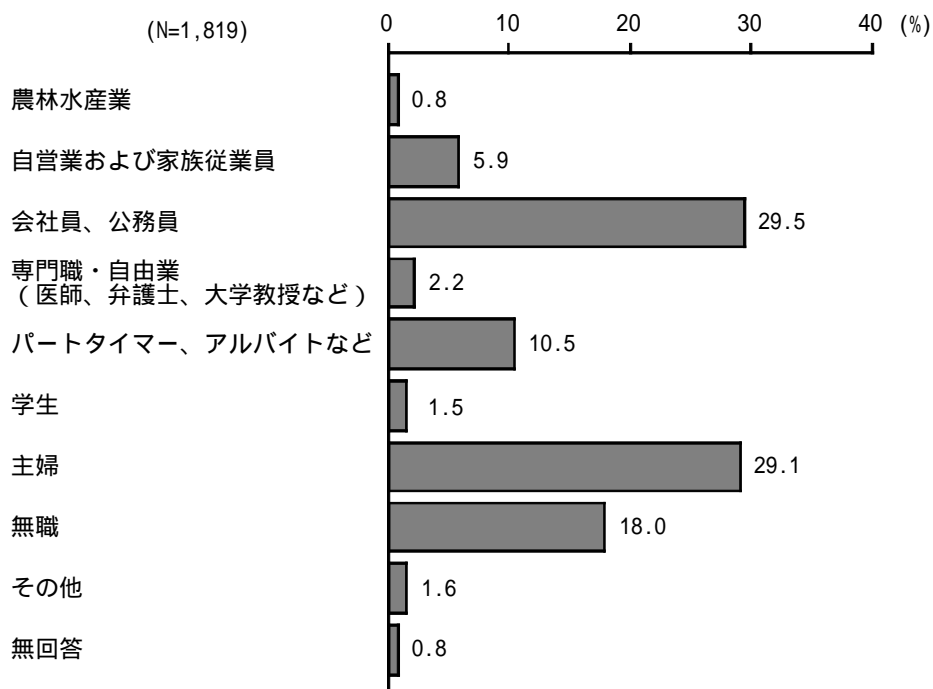
50歳代の回答率が23.9%と最も高く、20歳代および70歳以上の回答率が約13.0%と低くなっている。

3. 家族構成



「二世帯世帯(親と子)」が 54.1%と半数以上を占めており、次いで「夫婦だけ」23.5%となっている。

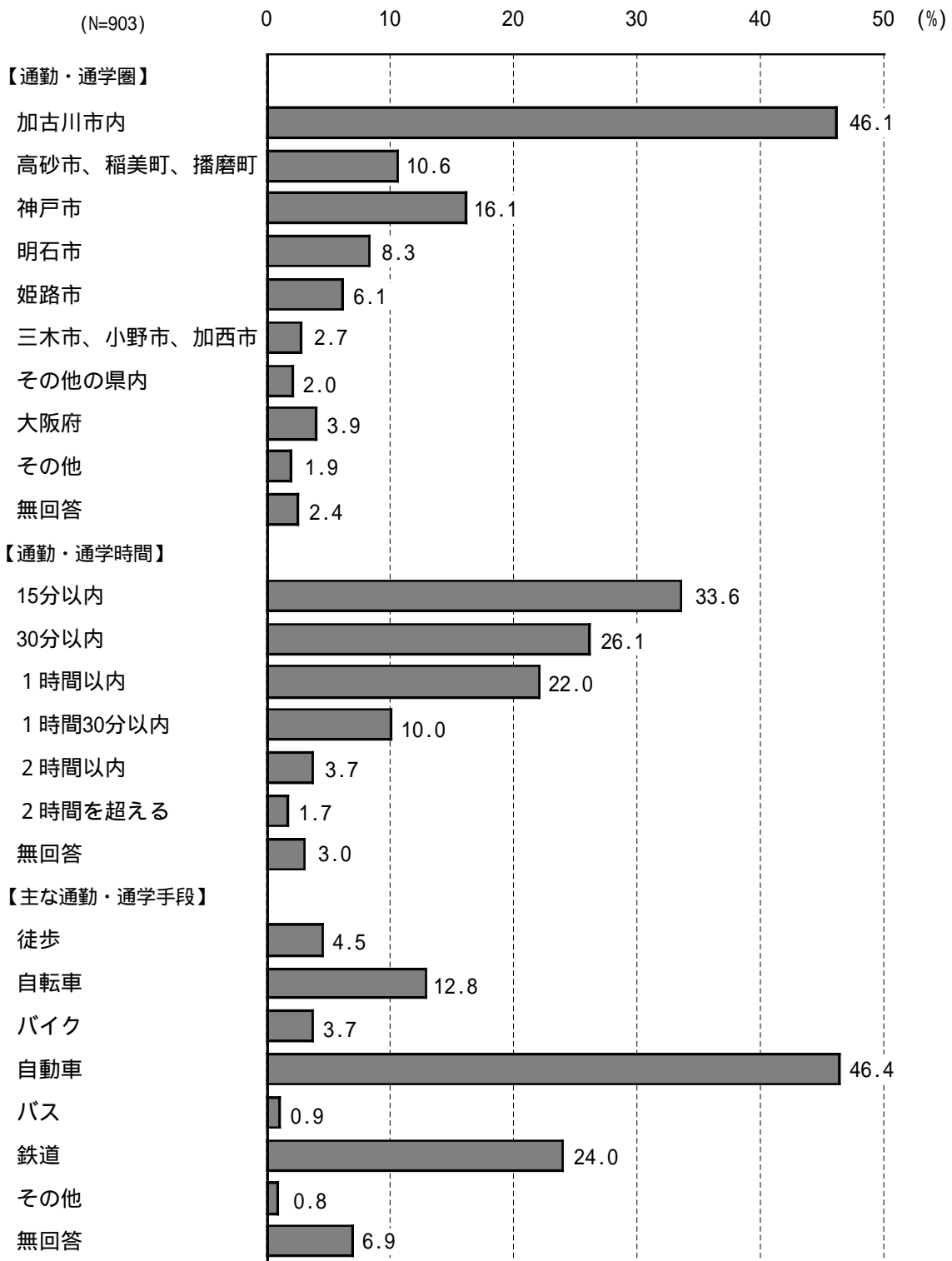
4. 職業



「会社員、公務員」29.5%、「主婦」29.1%が多くなっている。なお、「無職」は 18.0%と約 2 割となっている。

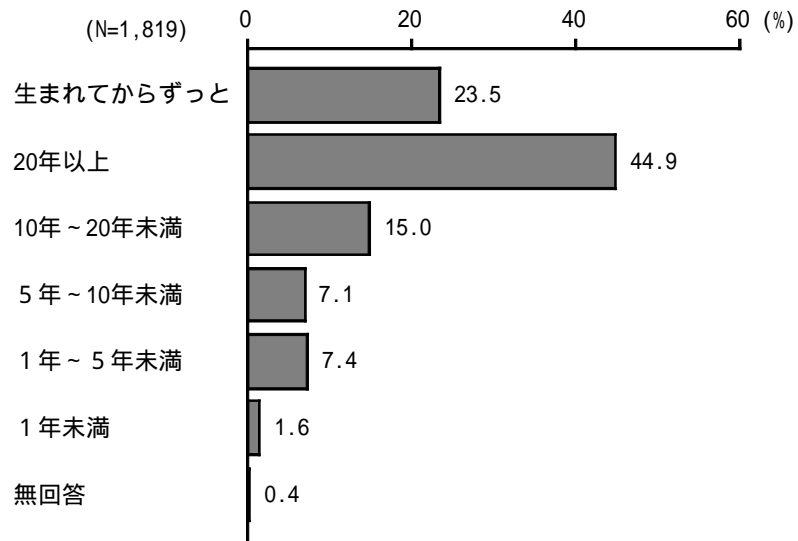
5. 通勤・通学状況

【通勤・通学圏、所要時間および交通手段】



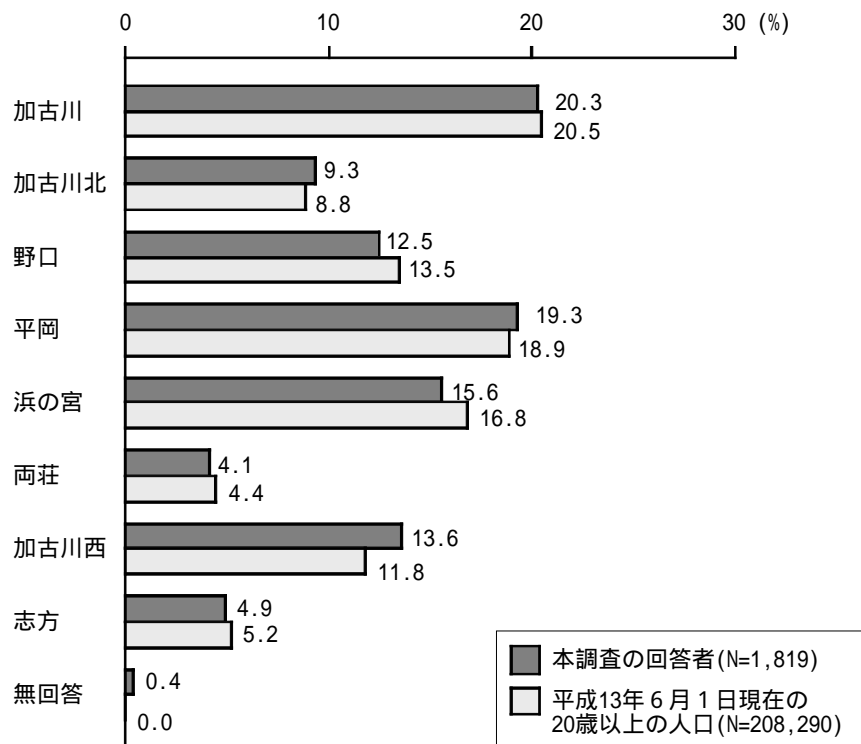
通勤・通学圏は「加古川市内」が46.1%と最も多く、通勤・通学時間は「15分以内」が33.6%、次いで「30分以内」が26.1%となっており、全体の約6割が30分以内となっている。主な通勤・通学手段は「自動車」が46.4%と半数近くを占めており、次いで「鉄道」24.0%となっている。

6. 居住年数



居住年数は「20年以上」が44.9%と最も多く、次いで「生まれてからずっと」23.5%となっている。

7. 居住地区（生活圏）



各居住地区における回答比率は、各居住地区の人口比率とほぼ同じ比率である。

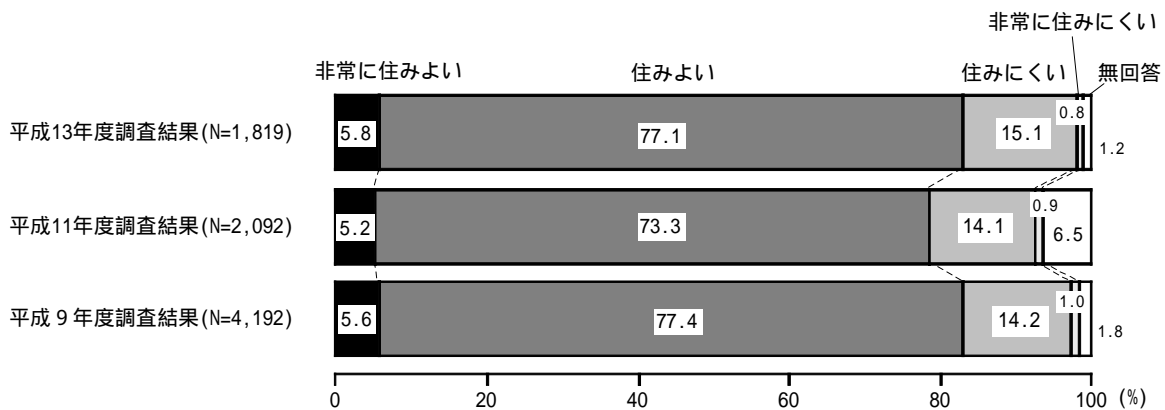
1. 市に対する全体評価

1 - 1. 住みやすさ評価

全体の約8割が市を住みよいと評価

問1. あなたは、加古川市が住みよい所であると思いますか。それとも住みにくい所であると思いますか。(は1つだけ)

【図1 - 1 住みやすさ評価(年度別)】



加古川市に対する住みやすさの評価は、「住みよい」が77.1%と最も多く、「非常に住みよい」5.8%を合わせると(以下、『住みよい』とする)全体の82.9%が加古川市を住みよいまちであると評価している。

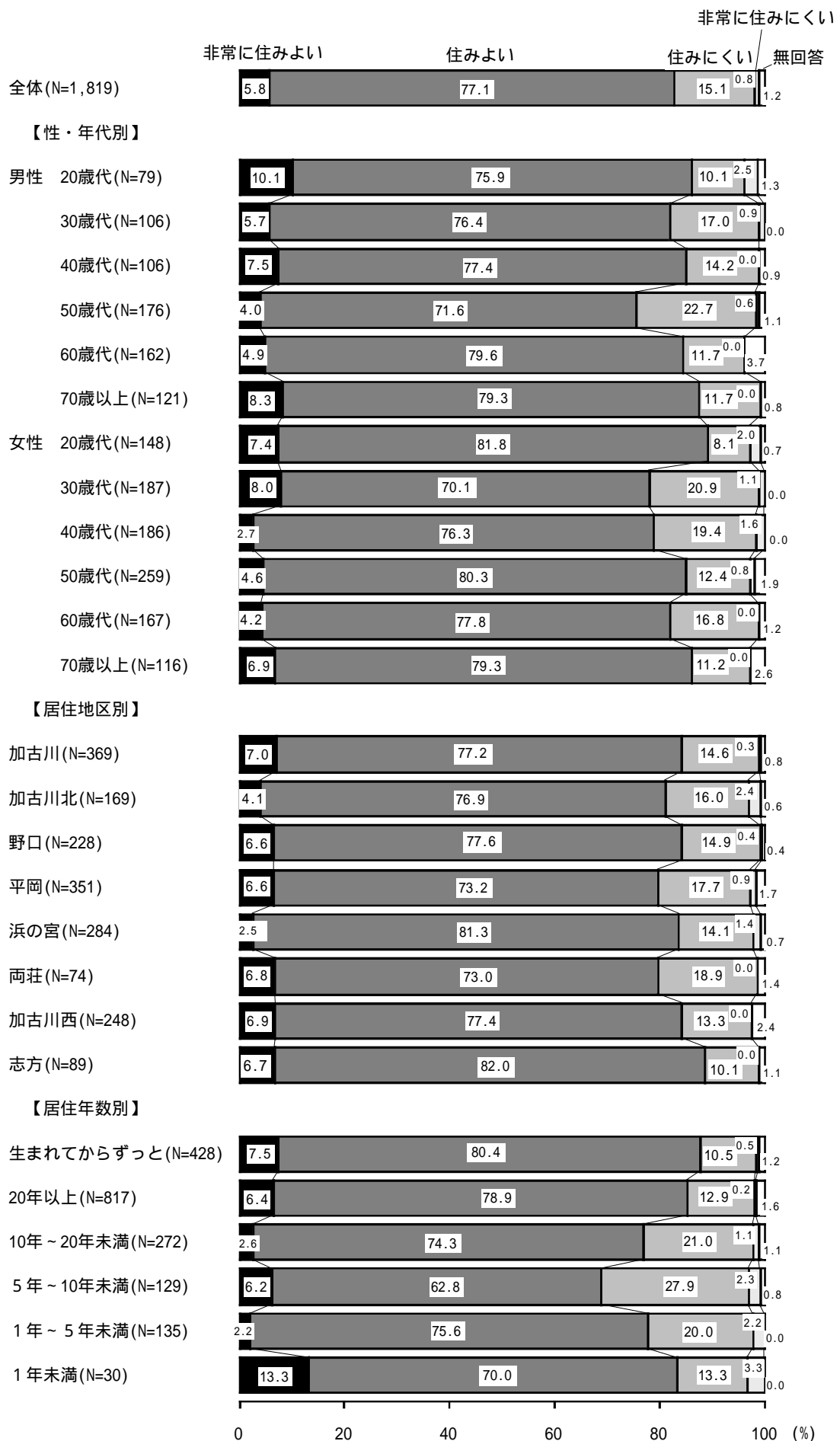
また、過去3年間の調査結果と比較すると、『住みよい』とする人の割合は平成11年度調査の78.5%より4.4ポイント高くなっている。(図1 - 1)

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『住みよい』とする人の割合が8割から9割を占め、男性では70歳以上で87.6%、女性では20歳代で89.2%と最も高くなっている。一方、『住みにくい』とする人の割合(「非常に住みにくい」「住みにくい」を合わせた値)は、男性では50歳代で23.3%、女性では30歳代で22.0%と最も高くなっている。(図1 - 1 - 1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても『住みよい』とする人の割合が8割から9割を占め、志方地区で88.7%と最も高くなっている。一方、『住みにくい』とする人の割合は、両荘、平岡、加古川北地区で約19%と他の地区に比べて高くなっている。(図1 - 1 - 1)

居住年数別にみると、いずれも『住みよい』とする人の割合が7割から9割を占め、生まれてからずっとという人で87.9%と最も高くなっている。一方、『住みにくい』とする人の割合は5年~10年未満の人で30.2%と最も高く、1年未満~20年未満の人の方が20年以上の人より住みにくいと感じている人が多くなっている。(図1 - 1 - 1)

【図1 - 1 - 1 性・年代別、居住地区別、居住年数別 住みやすさ評価】

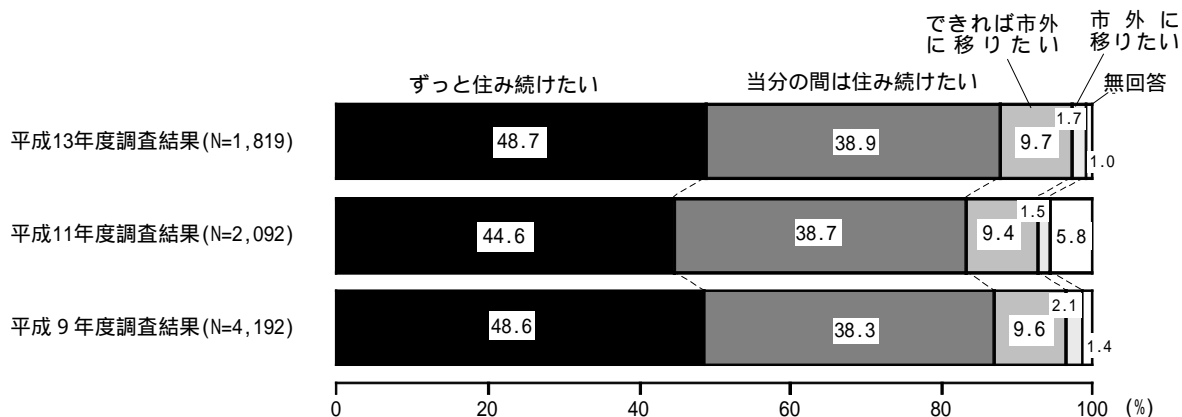


1 - 2 . 定住意向

全体の約9割が市への定住意向をもっている

問2 . あなたは、これからも加古川市に住み続けたいと思いますか。(は1つだけ)

【図1 - 2 定住意向(年度別)】



加古川市への定住意向については、「ずっと住み続けたい」が48.7%と最も多く、「当分の間は住み続けたい」38.9%を合わせると(以下、『住み続けたい』とする)全体の87.6%が市への定住意向をもっている。

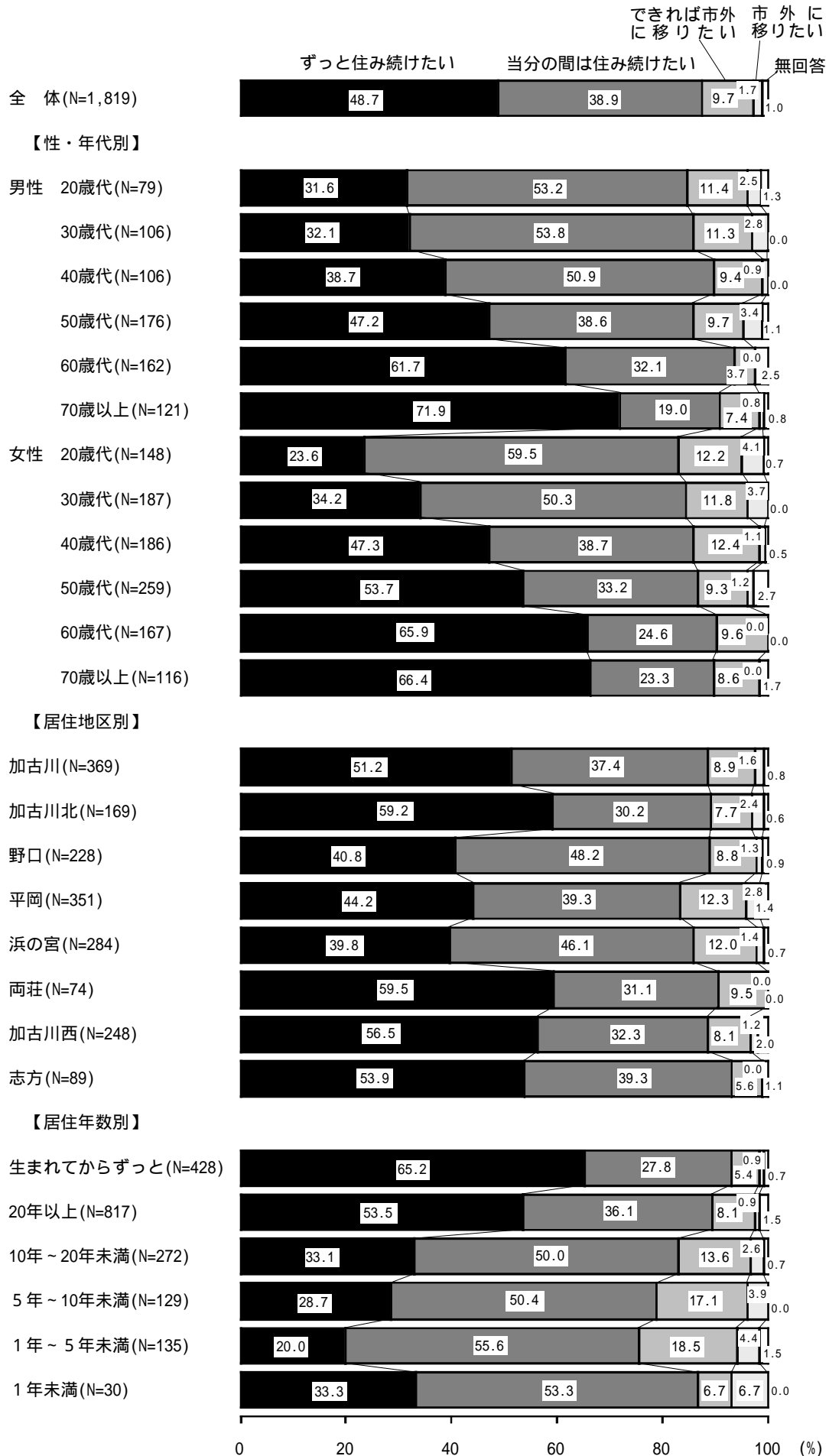
また、過去3年間の調査結果と比較すると、住み続けたい人の割合は平成11年度調査の83.3%より4.3ポイント高くなっている。(図1 - 2)

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『住み続けたい』とする人の割合が8割から9割を占め、男女ともに60歳代の割合(男性:93.8%、女性:90.5%)が最も高く、同回答の割合は、男女とも年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。一方、『市外に移りたい』とする人(「市外に移りたい」「できれば市外に移りたい」を合わせた値)の割合は、男性では30歳代が14.1%、女性では20歳代が16.3%と最も高く、同回答の割合は、男女とも年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。(図1 - 2 - 1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても『住み続けたい』とする人の割合が9割前後を占め、特に志方、両荘地区で9割強と高くなっている。一方、『市外に移りたい』とする人の割合は、平岡、浜の宮地区で他の地区に比べて高くなっている。(図1 - 2 - 1)

居住年数別にみると、いずれも『住み続けたい』とする人の割合が8割から9割を占め、生まれてからずっとという人で93.0%と最も高くなっている。一方、『市外に移りたい』とする人の割合は、1年~10年未満の人で2割強と高く、居住年数が長いほど定住意向が強い傾向がある。(図1 - 2 - 1)

【図 1 - 2 - 1 性・年代別、居住地区別、居住年数別 定住意向】



2．生活環境および市政全般について

2 - 1．生活環境評価

満足度が最も高いのは「日常の買物の利便性」(61.2%)で、不満度が最も高いのは「バスの利便性」(52.5%)。重要度が最も高いのは「ごみの収集、処理対策」(71.4%)

問2．あなたは、次の項目についてどの程度満足していますか。また、どの程度重要だと思いますか。それぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んでください。(は1つずつ)

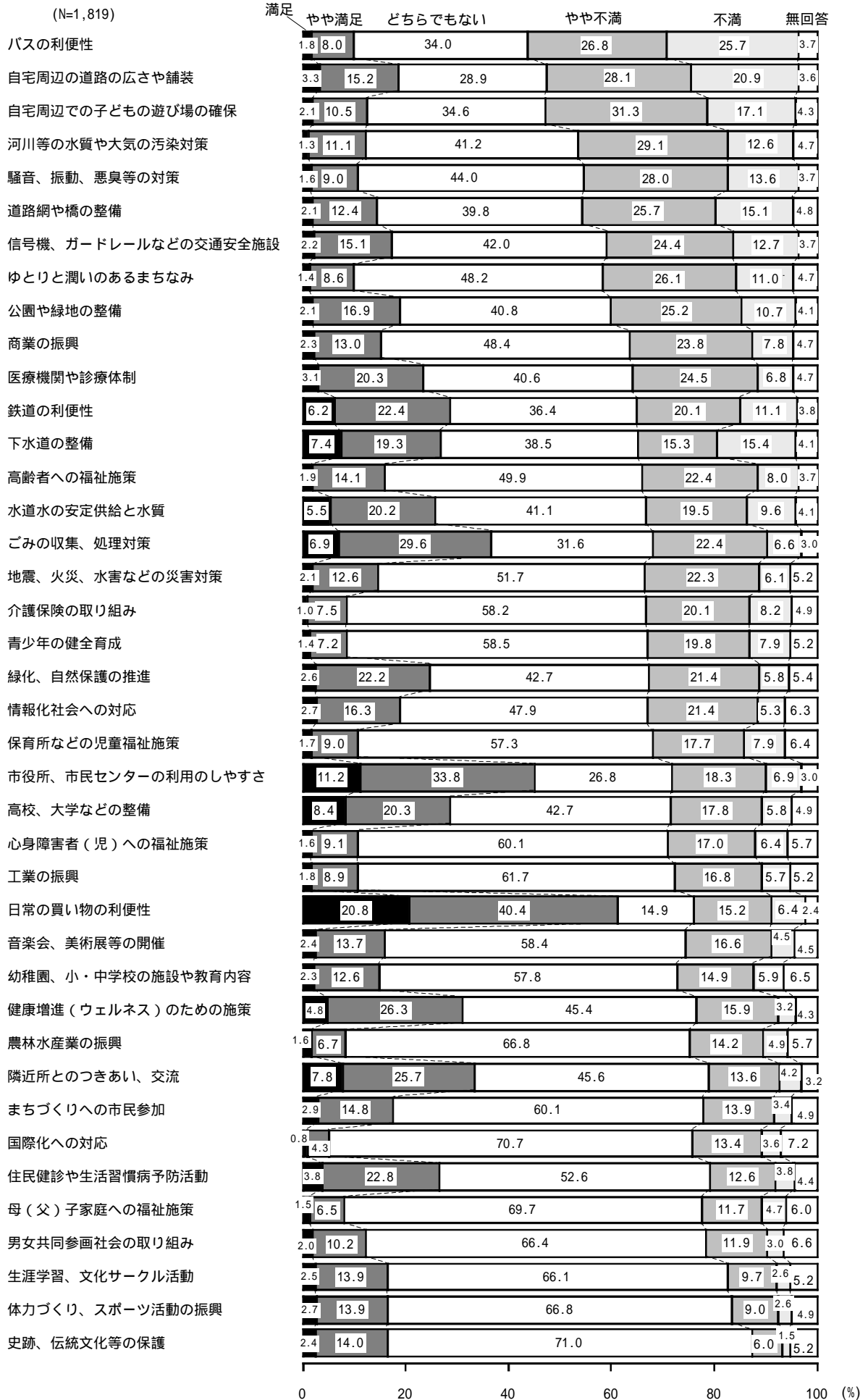
日常生活に関わる様々な生活環境および市政全般についての40項目に関して、現状にどの程度満足しているか、あるいはどの程度重要視しているかを図にまとめたものが図2 - 1 - 1と図2 - 1 - 4である。また、満足度が低い(「不満」、「やや不満」を合わせた値が高い)項目のうち、上位5項目を性・年齢別にまとめたのが表2 - 1 - 2、居住地区別にまとめたのが表2 - 1 - 3で、重要度が高い(「特に重要である」、「重要である」を合わせた値が高い)項目のうち、上位5項目を性・年齢別にまとめたのが表2 - 1 - 5、居住地区別にまとめたのが表2 - 1 - 6である。

まず、満足度についてみると、全体では「日常の買い物の利便性」が61.2%と最も高く、次いで「市役所、市民センターの利用のしやすさ」45.0%、「ごみの収集、処理対策」36.5%、「隣近所とのつきあい、交流」33.5%、「健康増進(ウェルネス)のための施策」31.1%が続く。

次に、満足度の低い項目について、市全体では、「バスの利便性」52.5%、「自宅周辺の道路の広さや舗装」49.0%、「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」48.4%、「河川等の水質や大気汚染対策」41.7%が上位5項目である。

次に、重要度についてみると、全体では「ごみの収集、処理対策」が71.4%と最も高く、続いて重要度の高い順に「河川等の水質や大気汚染対策」69.5%、「医療機関や診療体制」64.9%、「水道水の安定供給と水質」64.8%、「地震、火災、水害などの災害対策」64.5%となっている。

【図2-1-1 生活環境評価（満足度）】



【表 2 - 1 - 2 性・年齢別 生活環境評価（満足度が低い、上位 5 項目）】

(%)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体	N=1,819	バスの利便性 52.5	自宅周辺の道路の広さ や舗装 49.0	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 48.4	河川等の水質や大気 の汚染対策 41.7	騒音、振動、悪臭等 の対策 41.6
男 性	20歳代 N=79	河川等の水質や大気 の汚染対策 59.5	自宅周辺の道路の広さ や舗装 58.2	騒音、振動、悪臭等 の対策 53.2	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 48.1	道路網や橋の整備 46.8
	30歳代 N=106	自宅周辺の道路の広さ や舗装 55.7	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 52.8	道路網や橋の整備 51.9	騒音、振動、悪臭等 の対策 44.3	
				バスの利便性 44.3		
	40歳代 N=106	自宅周辺の道路の広さ や舗装 59.4	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 53.8	道路網や橋の整備 50.9	河川等の水質や大気 の汚染対策 44.3	
				バスの利便性 44.3		
	50歳代 N=176	バスの利便性 56.8	自宅周辺の道路の広さ や舗装 48.3	道路網や橋の整備 46.6	河川等の水質や大気 の汚染対策 45.5	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 42.0
				騒音、振動、悪臭等 の対策 43.2		
60歳代 N=162	自宅周辺の道路の広さ や舗装 46.9	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 44.4	騒音、振動、悪臭等 の対策 43.2	道路網や橋の整備 42.0	河川等の水質や大気 の汚染対策 40.1	
70歳以上 N=121	バスの利便性 43.0	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 36.4	自宅周辺の道路の広さ や舗装 34.7	ゆとりと潤いのあるま ちなみ 29.8	騒音、振動、悪臭等 の対策 28.9	
女 性	20歳代 N=148	バスの利便性 62.8	自宅周辺の道路の広さ や舗装 56.1	河川等の水質や大気 の汚染対策 54.7	騒音、振動、悪臭等 の対策 47.3	
			自宅周辺での子ども の遊び場の確保 56.1			
	30歳代 N=187	バスの利便性 61.5	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 56.7	自宅周辺の道路の広さ や舗装 51.9	保育所などの児童福祉 施策 50.8	騒音、振動、悪臭等 の対策 47.6
			自宅周辺での子ども の遊び場の確保 55.4			
	40歳代 N=186	バスの利便性 57.0	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 55.4	自宅周辺の道路の広さ や舗装 54.8	道路網や橋の整備 45.7	信号機、ガードレール などの交通安全施設 44.6
				自宅周辺の道路の広さ や舗装 49.4		
50歳代 N=259	バスの利便性 54.8	自宅周辺の道路の広さ や舗装 49.4	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 48.3	道路網や橋の整備 43.6	河川等の水質や大気 の汚染対策 43.2	
			自宅周辺の道路の広さ や舗装 44.9			
60歳代 N=167	バスの利便性 55.7	自宅周辺の道路の広さ や舗装 44.9	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 44.3	介護保険の取り組み 38.3	鉄道の利便性 37.7	
70歳以上 N=116	バスの利便性 45.7	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 39.7	騒音、振動、悪臭等 の対策 36.2	鉄道の利便性 33.6	自宅周辺の道路の広さ や舗装 30.2	
			介護保険の取り組み 30.2			

*「満足度が低い」というのは、「不満」「やや不満」の2回答を合わせた値が高いことをいう。

満足度の低い項目について、性・年齢別にみると、女性では、いずれの年代においても「バスの利便性」が1位であるが、男性では年齢によって異なり、20歳代では「河川等の水質や大気の汚染対策」が、30～40歳代および60歳代では「自宅周辺の道路の広さや舗装」が、50歳代および70歳以上では「バスの利便性」が1位となっている。(表 2 - 1 - 2)

【表 2 - 1 - 3 居住地区別 生活環境評価（満足度が低い、上位 5 項目）】

	(%)				
	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体 N=1,819	バスの利便性 52.5	自宅周辺の道路の広さ や舗装 49.0	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 48.4	河川等の水質や大気 の汚染対策 41.7	騒音、振動、悪臭等 の対策 41.6
加古川 N=369	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 51.8	自宅周辺の道路の広さ や舗装 46.1	騒音、振動、悪臭等 の対策 43.6	道路網や橋の整備 43.4	バスの利便性 42.8
加古川北 N=169	バスの利便性 60.4	鉄道の利便性 56.2	自宅周辺の道路の広さ や舗装 49.1	道路網や橋の整備 46.7	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 39.1
野口 N=228	自宅周辺の道路の広さ や舗装 57.9	バスの利便性 49.6	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 46.5	道路網や橋の整備 45.6	河川等の水質や大気 の汚染対策 43.9
平岡 N=351	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 54.7	自宅周辺の道路の広さ や舗装 53.0	バスの利便性 50.4	河川等の水質や大気 の汚染対策 46.4	騒音、振動、悪臭等 の対策 46.2
浜の宮 N=284	バスの利便性 64.4	河川等の水質や大気 の汚染対策 53.2	騒音、振動、悪臭等 の対策 52.1	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 50.0	公園や緑地の整備 41.5
両荘 N=74	下水道の整備 56.8	バスの利便性 52.7	日常の買い物の利便性 51.4	商業の振興 45.9	鉄道の利便性 44.6
加古川西 N=248	下水道の整備 57.7	バスの利便性 50.8	自宅周辺の道路の広さ や舗装 48.4	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 45.6	水道水の安定供給と水 質 37.1
志方 N=89	下水道の整備 61.8	バスの利便性 60.7	自宅周辺の道路の広さ や舗装 59.6	自宅周辺での子ども の遊び場の確保 49.4	鉄道の利便性 44.9

居住地区別にみると、加古川北、浜の宮地区では「バスの利便性」が、野口地区では「自宅周辺の道路の広さや舗装」が、加古川、平岡地区では「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」が、両荘、加古川西、志方地区では「下水道の整備」がそれぞれ 1 位となっている。(表 2 - 1 - 3)

【図2-1-4 生活環境評価(重要度)】



【表 2 - 1 - 5 性・年代別 生活環境評価（重要度が高い、上位 5 項目）】

(%)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体	N=1,819	ごみの収集、処理対策 71.4	河川等の水質や大気 の汚染対策 69.5	医療機関や診療体制 64.9	水道水の安定供給と水 質 64.8	地震、火災、水害など の災害対策 64.5
男 性	20歳代 N=79	河川等の水質や大気 の汚染対策 78.5	地震、火災、水害など の災害対策 73.4	騒音、振動、悪臭等 の対策 69.6	ごみの収集、処理対策 68.4	日常の買い物の利便性 65.8
	30歳代 N=106	ごみの収集、処理対策 / 河川等の水質や大気 の汚染対策 83.0	83.0	騒音、振動、悪臭等 の対策 81.1	医療機関や診療体制 79.2	水道水の安定供給と水 質 76.4
	40歳代 N=106	河川等の水質や大気 の汚染対策 80.2	ごみの収集、処理対策 77.4	地震、火災、水害などの災害対策 74.5		
				医療機関や診療体制 74.5		
				水道水の安定供給と水 質 74.5		
	50歳代 N=176	河川等の水質や大気 の汚染対策 68.8	地震、火災、水害など の災害対策 67.6	ごみの収集、処理対策 67.6	下水道の整備 63.6	医療機関や診療体制 62.5
60歳代 N=162	ごみの収集、処理対策 74.7	水道水の安定供給と水 質 71.6	河川等の水質や大気 の汚染対策 67.3		地震、火災、水害など の災害対策 66.7	
			下水道の整備 67.3			
70歳以上 N=121	ごみの収集、処理対策 67.8	水道水の安定供給と水 質 62.8	医療機関や診療体制 62.0	下水道の整備 60.3	住民健診や生活習慣病 予防活動 59.5	
女 性	20歳代 N=148	河川等の水質や大気 の汚染対策 88.5	地震、火災、水害など の災害対策 86.5	ごみの収集、処理対策 80.4	騒音、振動、悪臭等 の対策 79.1	水道水の安定供給と水 質 77.0
	30歳代 N=187	河川等の水質や大気 の汚染対策 75.9	地震、火災、水害など の災害対策 75.4	ごみの収集、処理対策 74.9	医療機関や診療体制 72.7	騒音、振動、悪臭等 の対策 70.6
	40歳代 N=186	ごみの収集、処理対策 80.1	河川等の水質や大気 の汚染対策 72.6	医療機関や診療体制 71.5	水道水の安定供給と水 質 66.7	保育所などの児童福祉 施策 70.6
						地震、火災、水害など の災害対策 65.6
	50歳代 N=259	ごみの収集、処理対策 72.2	河川等の水質や大気 の汚染対策 69.9	高齢者への福祉施策 63.7		医療機関や診療体制 62.9
				水道水の安定供給と水 質 63.7		
60歳代 N=167	ごみの収集、処理対策 58.1	水道水の安定供給と水 質 56.9	高齢者への福祉施策 55.1	河川等の水質や大気 の汚染対策 53.9	医療機関や診療体制 53.3	
70歳以上 N=116	ごみの収集、処理対策 48.3	騒音、振動、悪臭等 の対策 44.0		河川等の水質や大気 の汚染対策 42.2	医療機関や診療体制 41.4	
		高齢者への福祉施策 44.0				

* 「重要度が高い」というのは、「特に重要である」「重要度が高い」の 2 回答を合わせた値が高いことをいう。

重要度の高い項目について、性・年代別にみると、男性では、20～50 歳代で「河川等の水質や大気の大気汚染対策」が、60 歳代以上で「ごみの収集、処理対策」が 1 位を占めるが（30 歳代は両回答同率）、女性では、20～30 歳代で「河川等の水質や大気の大気汚染対策」が、40 歳代以上で「ごみの収集、処理対策」が 1 位を占めており、40～50 歳代で男女の意見が異なっている。（表 2 - 1 - 5）

【表 2 - 1 - 6 居住地区別 生活環境評価（重要度が高い、上位 5 項目）】

	(%)				
	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体 N=1,819	ごみの収集、処理対策 71.4	河川等の水質や大気の 汚染対策 69.5	医療機関や診療体制 64.9	水道水の安定供給と水 質 64.8	地震、火災、水害など の災害対策 64.5
加古川 N=369	ごみの収集、処理対策 71.8	河川等の水質や大気の 汚染対策 68.8	医療機関や診療体制 68.0	騒音、振動、悪臭等 の対策 66.4	高齢者への福祉施策 65.9
加古川北 N=169	ごみの収集、処理対策 71.6	河川等の水質や大気の 汚染対策 70.4	34. 下水道の整備 69.8	医療機関や診療体制 69.2	地震、火災、水害など の災害対策 67.5
野口 N=228	ごみの収集、処理対策 70.2	日常の買い物 の利便性 65.4		河川等の水質や大 気 の 汚 染 対 策 64.9	地震、火災、水害など の災害対策 62.3
		水道水の安定供給と水 質 65.4			高齢者への福祉施策 62.3
平岡 N=351	河川等の水質や大気の 汚染対策 71.8	ごみの収集、処理対策 71.2	水道水の安定供給と水 質 70.4	地震、火災、水害など の災害対策 67.8	騒音、振動、悪臭等 の対策 65.2
浜の宮 N=284	ごみの収集、処理対策 74.6	河川等の水質や大気の 汚染対策 72.5	騒音、振動、悪臭等 の対策 64.8	医療機関や診療体制 64.4	地震、火災、水害など の災害対策 63.7
両荘 N=74	ごみの収集、処理対策 70.3	河川等の水質や大気の 汚染対策 68.9	34. 下水道の整備 66.2	高齢者への福祉施策 64.9	緑化、自然保護の推 進 58.1
加古川西 N=248	ごみの収集、処理対策 71.8	河川等の水質や大気の 汚染対策 71.4	医療機関や診療体制 69.0	水道水の安定供給と水 質 68.1	下水道の整備 67.7
志方 N=89	医療機関や診療体制 62.9	ごみの収集、処理対策 61.8	河川等の水質や大 気 の 汚 染 対 策 59.6		地震、火災、水害など の災害対策 57.3
			下水道の整備 59.6		緑化、自然保護の推 進 57.3

居住地区別にみると、平岡地区では「河川等の水質や大気の汚染対策」が、志方地区では「医療機関や診療体制」が 1 位となっており、それ以外の地区では「ごみの収集、処理対策」が 1 位となっている。(表 2 - 1 - 6)

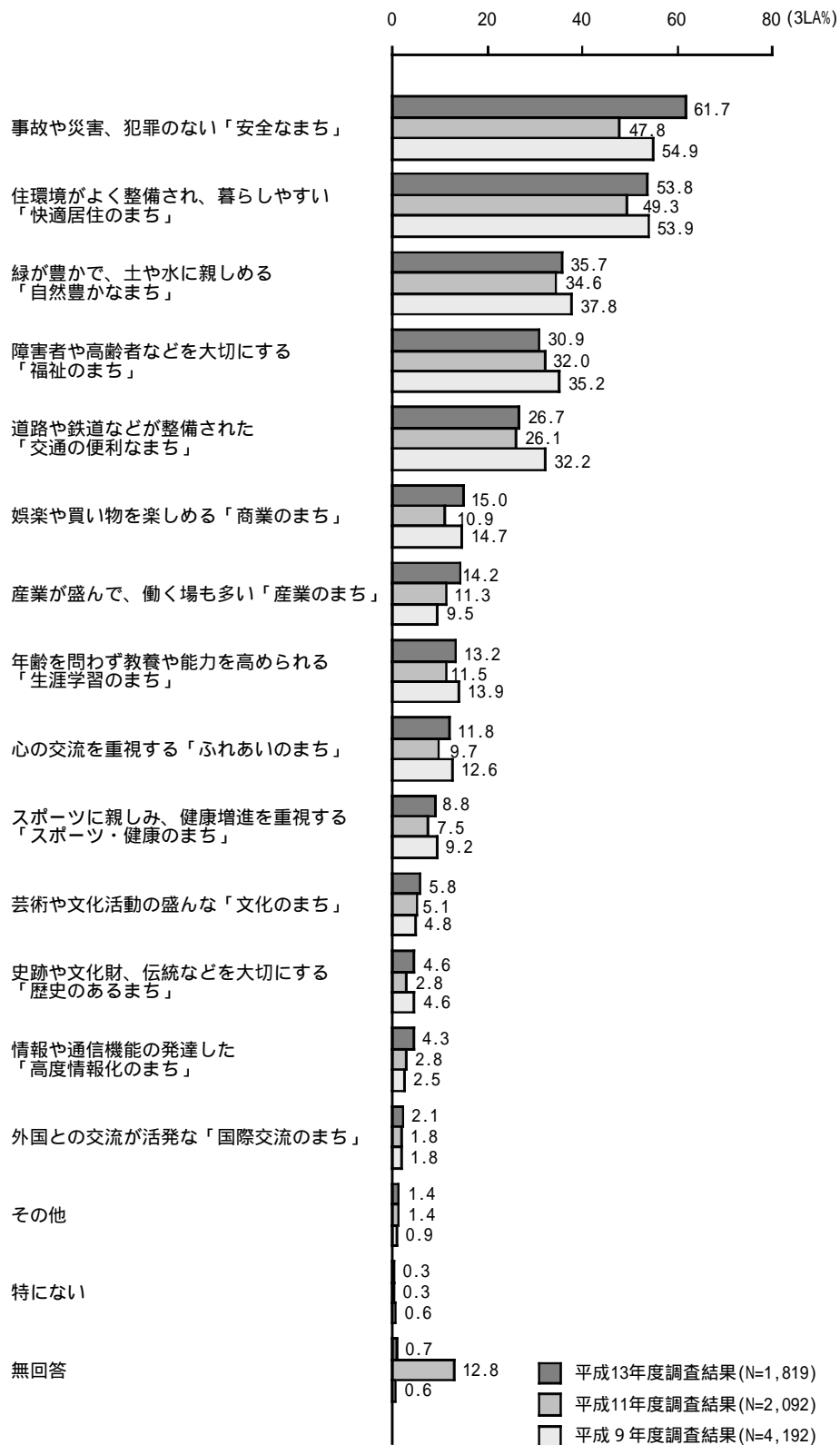
3. 市の将来像

1. 暮らしてみたいと思う「まち」

「安全なまち」「快適居住のまち」に住むことを望む人が過半数を占める

問4. あなたは、次にあげるまちの中でどのようなまちに暮らしたいですか。(は3つまで)

【図3-1 暮らしてみたいと思う「まち」(年度別)】

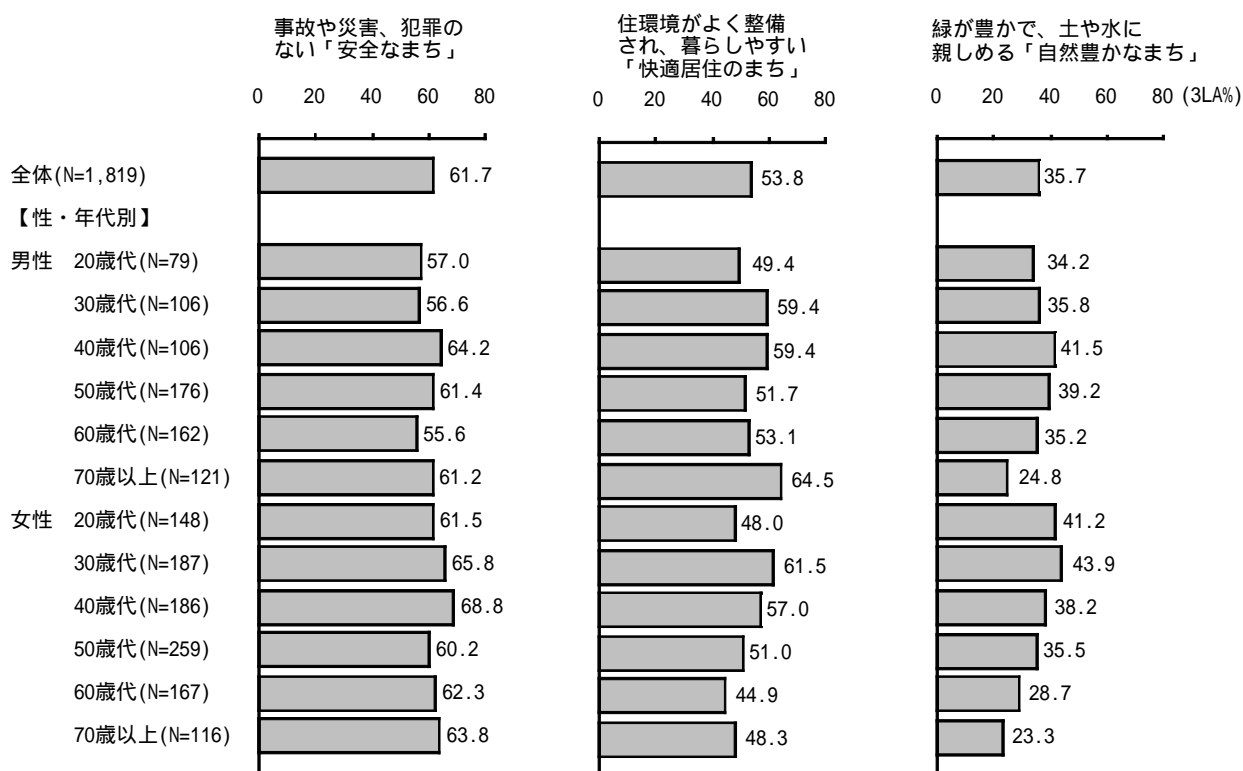


暮らしてみたいと思う「まち」については、「安全なまち」が 61.7%と最も多く、次いで「快適居住のまち」53.8%、「自然豊かなまち」35.7%、「福祉のまち」30.9%、「交通の便利なまち」26.7%となっている。

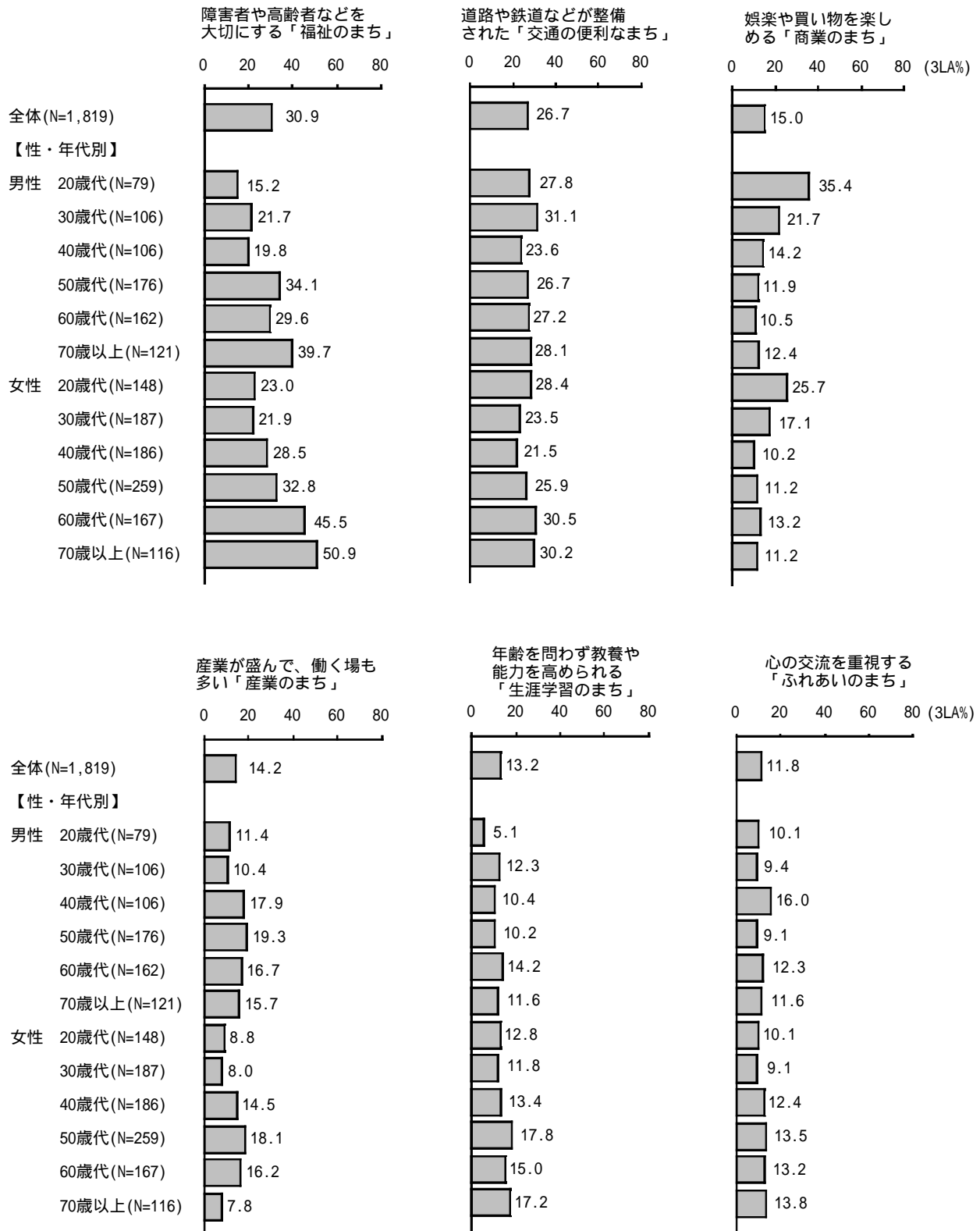
また、過去3年間の調査結果と比較すると、「福祉のまち」(-1.1%)(()内の数字は、平成11年度調査結果との比較率)以外の項目については前回調査に比べて全て増加しており、特に「安全なまち」の増加率は13.9ポイントと大きい。(図3-1)

回答の多かった上位9項目を性・年代別にみると、「福祉のまち」については、年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。「商業のまち」については、男女とも20歳代の割合が最も高く、同回答の割合は年代が上がるにつれて低くなっている。(図3-1-1-1、2)

【図3-1-1-1 性・年代別 暮らしてみたいと思うまち(上位9項目:1位~3位)】



【図3 - 1 - 1 - 2 性・年代別 暮らしてみたいと思うまち（上位9項目：4位～9位）】



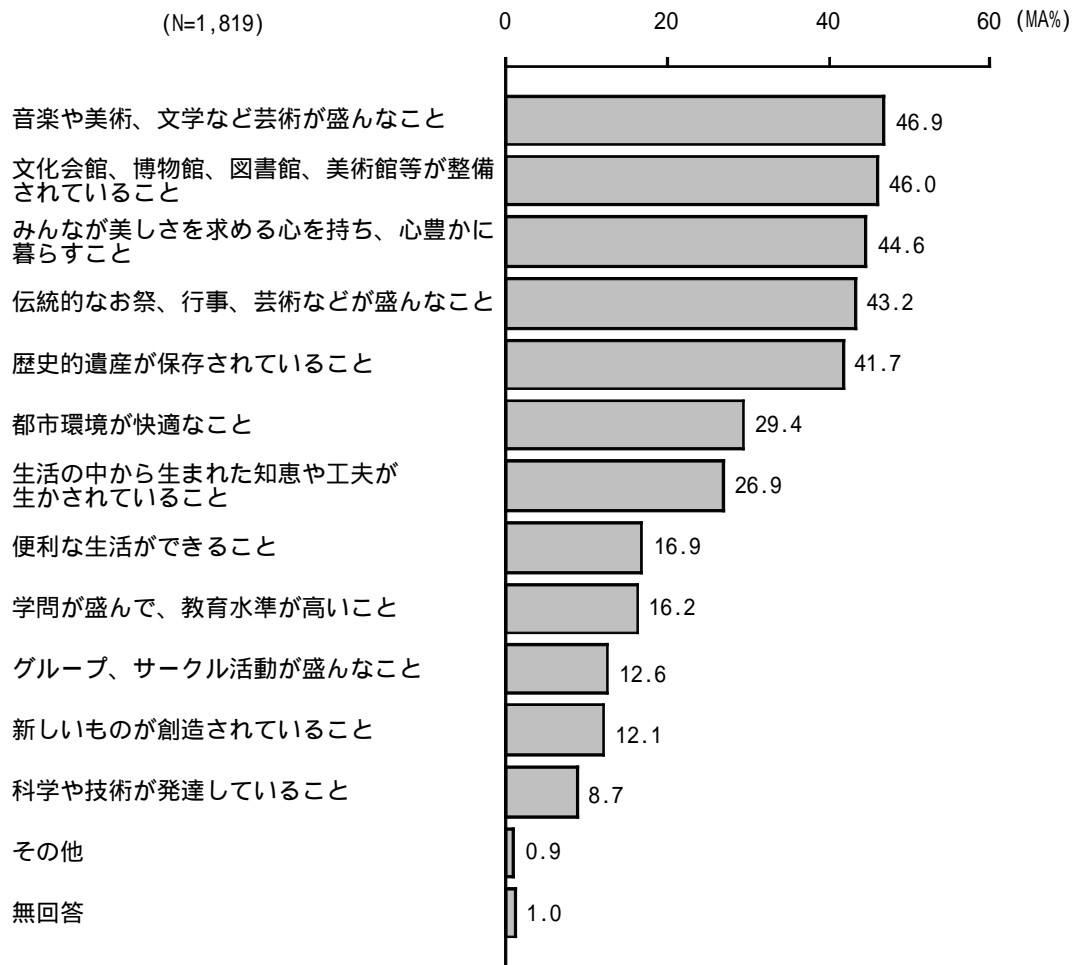
4 . 文化について

4 - 1 . 文化に対するイメージ

「文化」については、芸術が盛んであったり、文化施設が整備されていることをイメージする人が約 46%

問5 . あなたは、「文化」という言葉に対して、どのようなイメージをお持ちですか（はいくつでも）

【図4 - 1 文化に対するイメージ】



「文化」という言葉に対するイメージについては、「音楽や美術、文学など芸術が盛んなこと」46.9%、「文化会館、博物館、図書館、美術館等が整備されていること」46.0%、「みんなが美しさを求める心を持ち、心豊かに暮らすこと」44.6%、「伝統的なお祭、行事、芸術などが盛んなこと」43.2%、「歴史的遺産が保存されていること」41.7%が多くなっている。(図4 - 1)

性・年代別にみると、男性の場合、20～40歳代では「伝統的なお祭、行事、芸術などが盛んなこと」が、50歳代以上では「みんなが美しさを求める心を持ち、心豊かに暮らすこと」が最も多くなっている。一方、女性の場合、20歳代では「伝統的なお祭、行事、芸術などが盛んなこと」が、30～50歳代では「音楽や美術、文学など芸術が盛んなこと」が、60歳代以上では「みんなが美しさを求める心を持ち、心豊かに暮らすこと」が最も多くなっており、30～50歳代で男女の意見が異なっている。なお、「歴史的遺産が保存されていること」は全体で41.7%であるのに対し、

20 歳代で男性 48.1% (3 位)、女性 56.8% (2 位) と他の年代に比べて高くなっている。(表 4 - 1 - 1)

【表 4 - 1 - 1 性・年代別 文化に対するイメージ】

(MA%)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全体 N=1,819		音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 46.9	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 46.0	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 44.6	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 43.2	歴史的遺産が保存され ていること 41.7
男 性	20歳代 N=79	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 58.2	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 49.4	歴史的遺産が保存され ていること 48.1	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 32.9	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 25.3
	30歳代 N=106	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 46.2	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 43.4	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 43.4	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 38.7	歴史的遺産が保存され ていること 36.8
	40歳代 N=106	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 44.3	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 40.6	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 39.6	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 39.6	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 31.1
	50歳代 N=176	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 46.6	都市環境が快適なこと 42.0	歴史的遺産が保存され ていること 41.5	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 40.9	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 35.2
	60歳代 N=162	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 54.9	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 53.7	都市環境が快適なこと 42.6	歴史的遺産が保存され ていること 40.7	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 38.3
	70歳以上 N=121	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 57.9	都市環境が快適なこと 50.4	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 47.1	歴史的遺産が保存され ていること 40.5	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 33.1
女 性	20歳代 N=148	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 57.4	歴史的遺産が保存され ていること 56.8	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 52.0	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 43.9	生活の中から生まれた 知恵や工夫が生かされ ていること 25.7
	30歳代 N=187	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 62.6	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 53.5	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 48.7	歴史的遺産が保存され ていること 35.3	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 29.4
	40歳代 N=186	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 67.7	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 52.7	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 50.0	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 43.5	歴史的遺産が保存され ていること 41.4
	50歳代 N=259	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 52.5	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 48.6	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 44.8	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 44.4	歴史的遺産が保存され ていること 41.7
	60歳代 N=167	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 56.9	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 50.9	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 44.3	歴史的遺産が保存され ていること 38.9	都市環境が快適なこと 34.1
	70歳以上 N=116	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 59.5	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 51.7	都市環境が快適なこと 43.1	歴史的遺産が保存され ていること 42.2	便利な生活ができるこ と 39.7

【表4 - 1 - 2 居住地区別 文化に対するイメージ】

(MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 46.9	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 46.0	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 44.6	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 43.2	歴史的遺産が保存され ていること 41.7
加古川 N=369	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 46.3	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 46.1	歴史的遺産が保存されていること 45.8	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 45.8	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 45.3
加古川北 N=169	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 51.5	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 50.9	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 47.9	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 47.3	歴史的遺産が保存され ていること 40.8
野口 N=228	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 45.6	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 43.0	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 42.5	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 42.1	歴史的遺産が保存され ていること 41.2
平岡 N=351	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 47.0	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 45.3	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 41.6	歴史的遺産が保存され ていること 41.0	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 40.2
浜の宮 N=284	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 50.4	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 47.2	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 45.1	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 39.1	歴史的遺産が保存され ていること 37.7
両荘 N=74	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 48.6	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 43.2	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 39.2	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 36.5	生活の中から生まれた 知恵や工夫が生かされ ていること 31.1
加古川西 N=248	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 51.2	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 47.2	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 47.2	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 46.0	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 42.7
志方 N=89	音楽や美術、文学など 芸術が盛んなこと 50.6	伝統的なお祭、行事、 芸術などが盛んなこと 42.7	みんなが美しさを求め る心を持ち、心豊かに 暮らすこと 41.6	文化会館、博物館、図 書館、美術館等が整備 されていること 38.2	歴史的遺産が保存され ていること 38.2

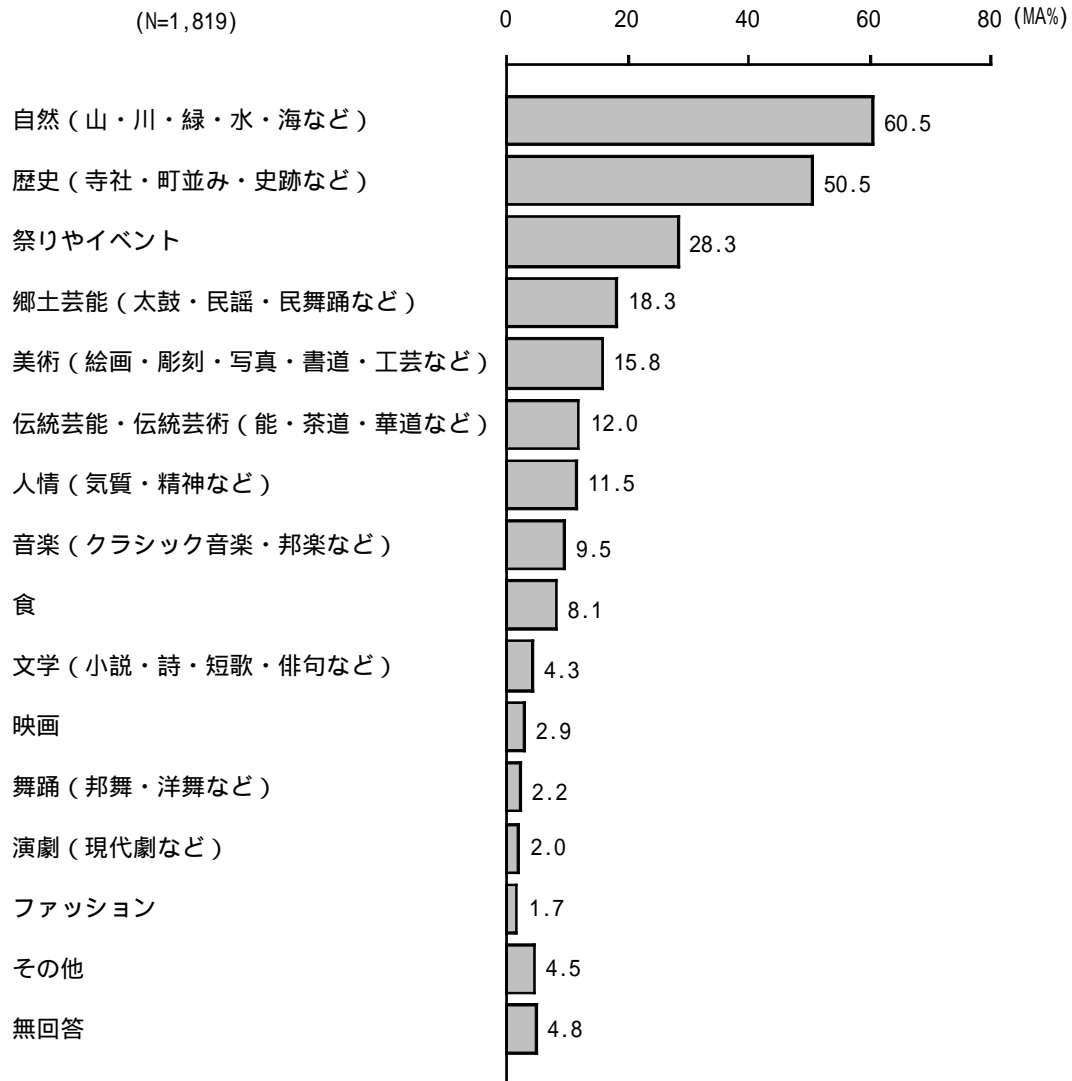
居住地区別にみると、浜の宮、志方地区では「音楽や美術、文学など芸術が盛んなこと」が、平岡、加古川西地区では「文化会館、博物館、図書館、美術館等が整備されていること」が、加古川、加古川北、野口地区では「みんなが美しさを求める心を持ち、心豊かに暮らすこと」が、両荘地区では「伝統的なお祭、行事、芸術などが盛んなこと」がそれぞれ最も多く、地区ごとに意見は異なっている。なお、両荘地区では「生活の中から生まれた知恵や工夫が生かされていること」が5位に入っている。(表4 - 1 - 2)

4 - 2 .「加古川の文化」からの連想

「加古川の文化」 = 「自然」「歴史」を連想する人が過半数を占める

問6 . あなたは、「加古川の文化」という場合、どのようなものを思い浮かべますか (はいくつでも)

【図4 - 2 「加古川の文化」からの連想】



「加古川の文化」から連想することについては、「自然」60.5%、「歴史」50.5%が多くなっており、以下「祭りやイベント」28.3%、「郷土芸能」18.3%、「美術」15.8%と続いている。(図4 - 2)

【表4 - 2 - 1 性・年代別 「加古川の文化」からの連想】

(MA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819		自然(山・川・緑・水・海など) 60.5	歴史(寺社・町並み・史跡など) 50.5	祭りやイベント 28.3	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 18.3	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 15.8
男 性	20歳代 N=79	自然(山・川・緑・水・海など) 53.2	歴史(寺社・町並み・史跡など) 39.2	祭りやイベント 29.1	食 16.5	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 12.7 人情(気質・精神など) 12.7
	30歳代 N=106	自然(山・川・緑・水・海など) 50.9	歴史(寺社・町並み・史跡など) 47.2	祭りやイベント 19.8	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 7.5	食 6.6 音楽(クラシック音楽・邦楽など) 6.6
	40歳代 N=106	自然(山・川・緑・水・海など) 56.6	歴史(寺社・町並み・史跡など) 42.5	祭りやイベント 27.4	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 13.2	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 12.3
	50歳代 N=176	自然(山・川・緑・水・海など) 67.6	歴史(寺社・町並み・史跡など) 48.3	祭りやイベント 29.5	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 18.2	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 11.4
	60歳代 N=162	自然(山・川・緑・水・海など) 67.3	歴史(寺社・町並み・史跡など) 59.3	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 28.4	祭りやイベント 26.5	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 21.0
	70歳以上 N=121	自然(山・川・緑・水・海など) 66.9	歴史(寺社・町並み・史跡など) 49.6	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 32.2	祭りやイベント 28.1	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 24.8
女 性	20歳代 N=148	自然(山・川・緑・水・海など) 53.4	歴史(寺社・町並み・史跡など) 46.6	祭りやイベント 29.7	食 10.8	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 9.5
	30歳代 N=187	自然(山・川・緑・水・海など) 56.1	歴史(寺社・町並み・史跡など) 48.7	祭りやイベント 31.6	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 9.6	伝統芸能・伝統芸術(能・茶道・華道など) 8.0
	40歳代 N=186	歴史(寺社・町並み・史跡など) 55.4	自然(山・川・緑・水・海など) 53.8	祭りやイベント 27.4	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 16.1	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 9.7
	50歳代 N=259	自然(山・川・緑・水・海など) 64.1	歴史(寺社・町並み・史跡など) 54.1	祭りやイベント 29.3	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 23.2	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 18.5
	60歳代 N=167	自然(山・川・緑・水・海など) 67.7	歴史(寺社・町並み・史跡など) 55.1	郷土芸能(太鼓・民謡・民舞踊など) 25.1 美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 25.1	祭りやイベント 24.6	
	70歳以上 N=116	自然(山・川・緑・水・海など) 56.9	歴史(寺社・町並み・史跡など) 48.3	美術(絵画・彫刻・写真・書道・工芸など) 33.6 祭りやイベント 33.6	伝統芸能・伝統芸術(能・茶道・華道など) 24.1	

性・年代別にみると、40歳代の女性で「歴史」が1位、「自然」が2位であるのを除くと、男女ともに、いずれの年代においても「自然」が1位、「歴史」が2位となっている。なお、特徴的な項目としては、20歳代では、男女とも「食」が4位に入っている。(表4 - 2 - 1)

【表4 - 2 - 2 居住地区別 「加古川の文化」からの連想】

(MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819	自然(山・川・緑・ 水・海など) 60.5	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 50.5	祭りやイベント 28.3	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 18.3	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 15.8
加古川 N=369	自然(山・川・緑・ 水・海など) 57.2	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 52.6	祭りやイベント 26.8	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 18.4	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 17.3
加古川北 N=169	自然(山・川・緑・ 水・海など) 63.3	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 47.9	祭りやイベント 29.6	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 20.7	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 17.8
野口 N=228	自然(山・川・緑・ 水・海など) 58.8	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 52.2	祭りやイベント 28.5	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 21.5	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 14.5
平岡 N=351	自然(山・川・緑・ 水・海など) 56.4	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 46.7	祭りやイベント 25.6	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 15.1	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 13.7
浜の宮 N=284	自然(山・川・緑・ 水・海など) 57.4	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 56.7	祭りやイベント 27.1	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 13.7	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 13.0
両荘 N=74	自然(山・川・緑・ 水・海など) 63.5	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 52.7	祭りやイベント 35.1	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 31.1	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 24.3
加古川西 N=248	自然(山・川・緑・ 水・海など) 70.6	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 48.4	祭りやイベント 30.2	美術(絵画・彫刻・写 真・書道・工芸など) 18.5	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 16.9
志方 N=89	自然(山・川・緑・ 水・海など) 68.5	歴史(寺社・町並み・ 史跡など) 42.7	祭りやイベント 31.5	郷土芸能(太鼓・民 謡・民舞踊など) 24.7	人情(気質・精神な ど) 21.3

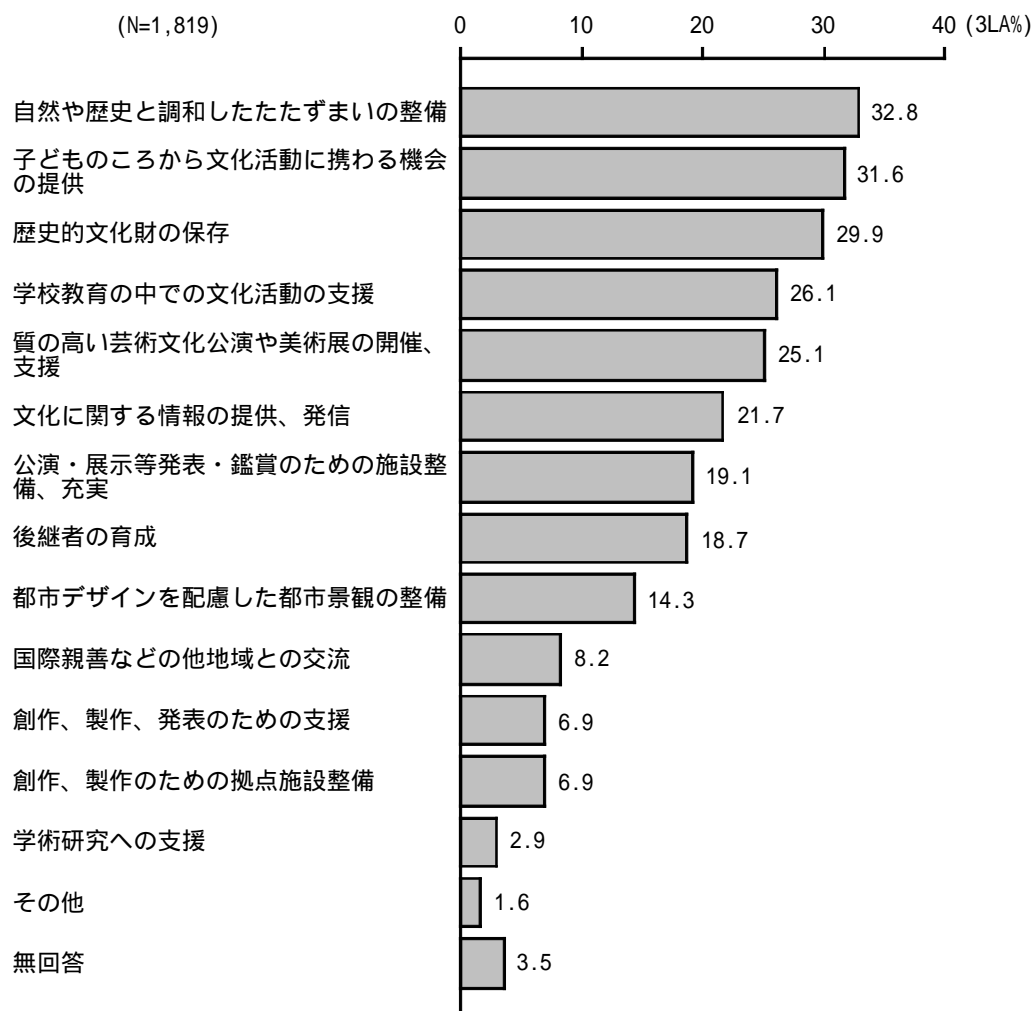
居住地区別にみると、いずれの地区においても「自然」「歴史」が上位2位を占めており、前者については加古川西地区で70.6%と最も高くなっている。(表4 - 2 - 2)

4 - 3 . 加古川の文化振興のため行政に望むこと

今後の文化振興のために「自然や歴史と調和したたたずまいの整備」を望む声が約3割

問7 .あなたが、今後の加古川の文化振興を図るために、行政に望まれることは何ですか(は3つまで)

【図4 - 3 加古川の文化振興のため行政に望むこと】



今後の加古川の文化振興を図るために行政に望むことについては、「自然や歴史と調和したたたずまいの整備」32.8%が最も多く、前問(p.32)で「自然」「歴史」が上位2位を占めているのを反映している。次いで「子どもころから文化活動に携わる機会の提供」31.6%、「歴史的文化財の保存」29.9%、「学校教育の中での文化活動の支援」26.1%、「質の高い芸術文化公演や美術展の開催、支援」25.1%、「文化に関する情報の提供、発信」21.7%となっている。(図4 - 3)

性・年代別にみると、男性の場合、20～50歳代では「自然や歴史と調和したたたずまいの整備」が、60歳代では「歴史的文化財の保存」が、70歳以上では「学校教育の中での文化活動の支援」が最も多くなっている。一方、女性の場合、20歳代および50歳代では「自然や歴史と調和したたたずまいの整備」が、30歳代では「子どもころから文化活動に携わる機会の提供」が、40歳代および60歳代以上では「質の高い芸術文化公演や美術展の開催、支援」が最も多くなってお

り、男女とも年代ごとに意見が異なっている。(表4-3-1)

【表4-3-1 性・年代別 加古川の文化振興のため行政に望むこと】

(3LA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819		自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.8	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 31.6	歴史的文化財の保存 29.9	学校教育の中での文化 活動の支援 26.1	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 25.1
男 性	20歳代 N=79	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.9	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 29.1	学校教育の中での文化 活動の支援 26.6	歴史的文化財の保存 25.3	後継者の育成 24.1
	30歳代 N=106	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.1	学校教育の中での文化 活動の支援 30.2	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 27.4	歴史的文化財の保存 23.6	都市デザインを配慮し た都市景観の整備 22.6
	40歳代 N=106	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 36.8	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 34.9	学校教育の中での文化 活動の支援 34.0	歴史的文化財の保存 27.4	文化に関する情報の提 供、発信 24.5
	50歳代 N=176	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 43.8	歴史的文化財の保存 36.9	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 27.3	文化に関する情報の提 供、発信 25.6	学校教育の中での文化 活動の支援 25.0
	60歳代 N=162	歴史的文化財の保存 34.6	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 30.2	文化に関する情報の提 供、発信 29.0	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 26.5	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 24.7
	70歳以上 N=121	学校教育の中での文化 活動の支援 30.6	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 28.9	歴史的文化財の保存 28.1	文化に関する情報の提 供、発信 25.6	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 24.8
女 性	20歳代 N=148	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 35.1	学校教育の中での文化 活動の支援 32.4	子どもころから文化活動に携わる機会の提供 歴史的文化財の保存 30.4	30.4	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 18.9
	30歳代 N=187	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 39.6	学校教育の中での文化 活動の支援 32.1	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 28.9	歴史的文化財の保存 28.3	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 22.5
	40歳代 N=186	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 34.4	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 33.9	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.3	学校教育の中での文化活動の支援 歴史的文化財の保存 29.0	29.0
	50歳代 N=259	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 38.6	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 34.7	歴史的文化財の保存 30.5	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 30.1	公演・展示等発表・鑑 賞のための施設整備、 充実 21.2
	60歳代 N=167	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 35.9	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 33.5	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 31.7	歴史的文化財の保存 28.1	後継者の育成 25.7
	70歳以上 N=116	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 32.8	歴史的文化財の保存 31.0	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 29.3	公演・展示等発表・鑑 賞のための施設整備、充 実 後継者の育成 26.7	26.7

【表4 - 3 - 2 居住地区別 加古川の文化振興のため行政に望むこと】

(3LA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.8	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 31.6	歴史的文化財の保存 29.9	学校教育の中での文化 活動の支援 26.1	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 25.1
加古川 N=369	歴史的文化財の保存 32.8	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 30.6	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 30.4	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 27.9	学校教育の中での文化 活動の支援 26.8
加古川北 N=169	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 36.7	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 32.5	歴史的文化財の保存 29.6	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 28.4	文化に関する情報の提 供、発信 24.3
野口 N=228	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 40.8	歴史的文化財の保存 29.4	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 26.3	学校教育の中での文化 活動の支援 25.4	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 24.1
平岡 N=351	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 33.6	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 31.9	学校教育の中での文化 活動の支援 25.9	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 25.6	歴史的文化財の保存 25.6
浜の宮 N=284	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 37.0	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 35.2	学校教育の中での文化 活動の支援 28.9	歴史的文化財の保存 27.5	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 23.6
両荘 N=74	歴史的文化財の保存 32.4	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 27.0	学校教育の中での文化 活動の支援 27.0	後継者の育成 25.7	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 24.3
加古川西 N=248	歴史的文化財の保存 33.5	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 30.2	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 30.2	質の高い芸術文化公演 や美術展の開催、支援 23.8	学校教育の中での文化 活動の支援 23.0
志方 N=89	歴史的文化財の保存 34.8	学校教育の中での文化 活動の支援 31.5	子どもころから文化 活動に携わる機会の提 供 29.2	自然や歴史と調和した たたずまいの整備 23.6	後継者の育成 23.6

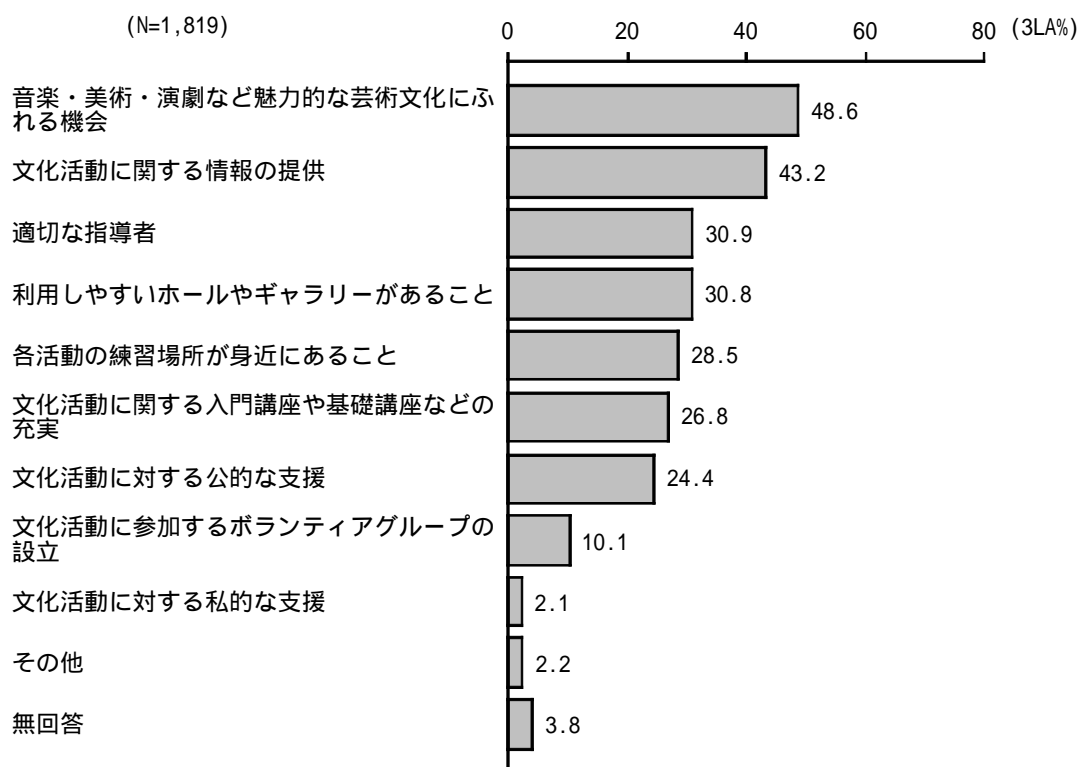
居住地区別にみると、野口、平岡地区では「自然や歴史と調和したたたずまいの整備」が、加古川北、浜の宮地区では「子どもころから文化活動に携わる機会の提供」が、加古川、両荘、加古川西、志方地区では「歴史的文化財の保存」が最も多くなっている。(表4 - 3 - 2)

4 - 4 . 文化活動に積極的に参加できるように必要なこと

文化活動に積極的に参加できるようにするには、「魅力的な芸術文化にふれる機会」が必要であると
する人が約5割

問8 . あなたが、文化活動にもっと積極的に参加できるようになるには何が必要だと思いますか（ は3つまで ）。

【図4 - 4 文化活動に積極的に参加できるように必要なこと】

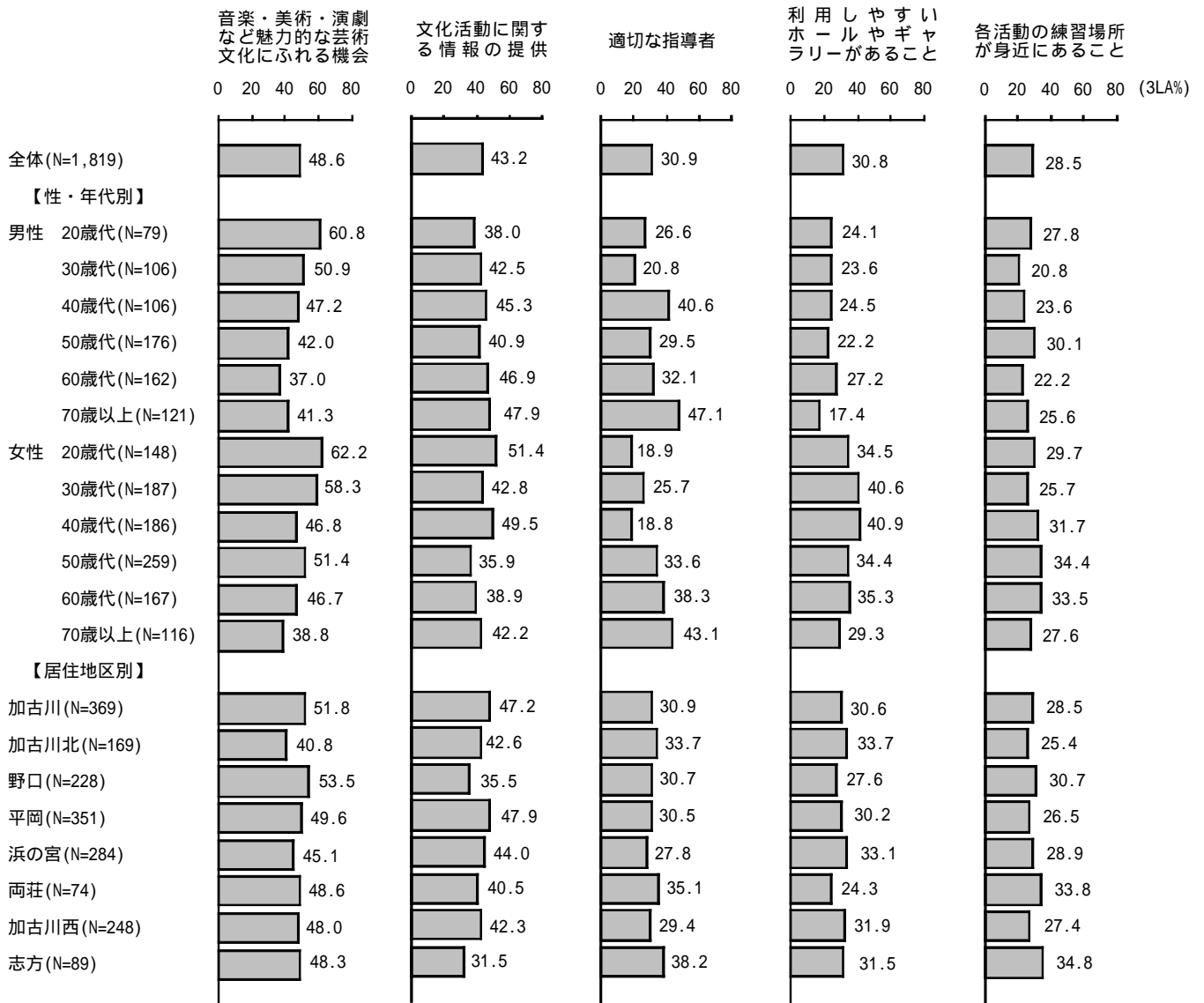


文化活動に積極的に参加できるように必要なことについては、「音楽・美術・演劇など魅力的な芸術文化にふれる機会」48.6%が最も多く、次いで「文化活動に関する情報の提供」43.2%、「適切な指導者」30.9%、「利用しやすいホールやギャラリーがあること」30.8%となっている。（図4 - 4）

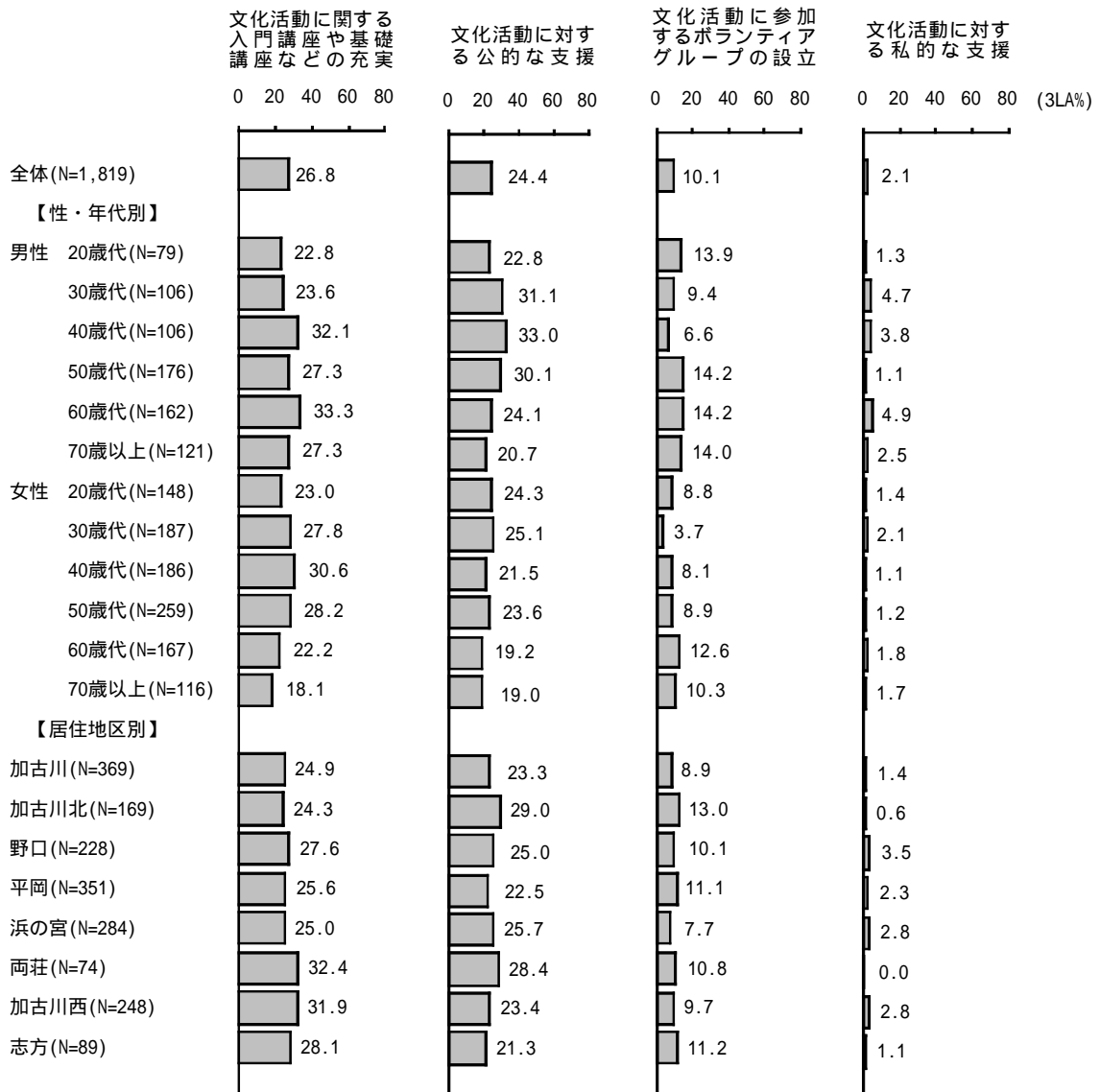
性・年代別にみると、順位は前後するものの上位2項目は、男女ともに、20～60歳代では「音楽・美術・演劇など魅力的な芸術文化にふれる機会」「文化活動に関する情報の提供」、70歳以上では「文化活動に関する情報の提供」「適切な指導者」となっている。なお「利用しやすいホールやギャラリーがあること」については、いずれの年齢においても女性の割合が男性の割合より高くなっている。（図4 - 4 - 1 - 1、2）

居住地区別にみると、加古川北地区では「文化活動に関する情報の提供」が最も多いが、それ以外の地区では「音楽・美術・演劇など魅力的な芸術文化にふれる機会」が最も多く、後者については野口、加古川地区で5割強を占めている。（図4 - 4 - 1 - 1、2）

【図4-4-1-1 性・年代別、居住地区別
文化活動に積極的に参加するために必要なこと(1位～5位)】



【図4-4-1-2 性・年代別、居住地区別
文化活動に積極的に参加するために必要なこと(6位～9位)】

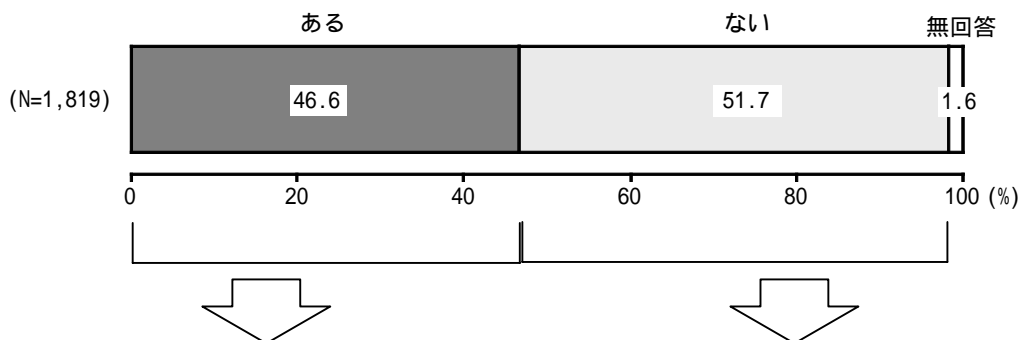


4 - 5 . 市内施設での文化的催しの鑑賞について

過去1年間での市内施設での文化的催しの鑑賞経験者は5割弱

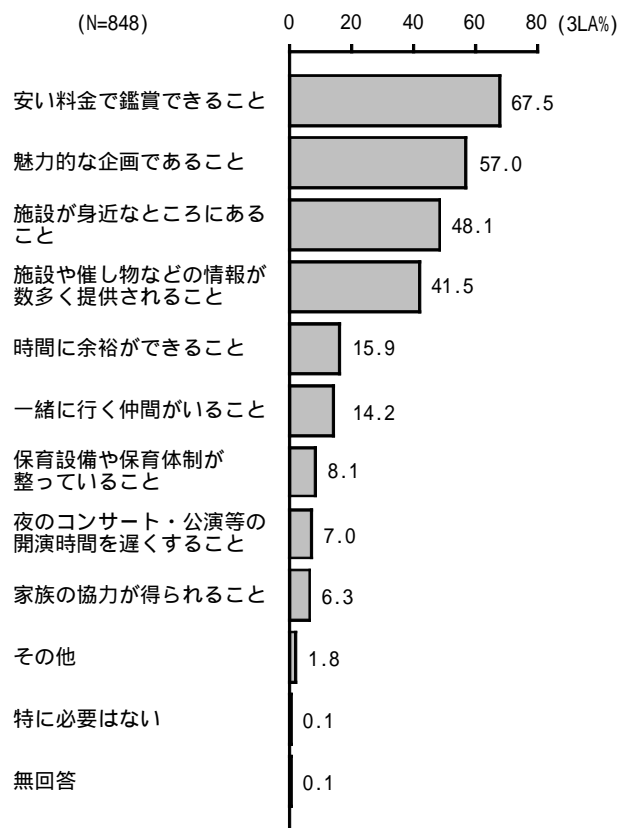
問9 . あなたは、過去1年間に市内にある施設（市民会館・ウェルネスパーク音楽ホール・総合文化センター・松風ギャラリー）の文化的な催しを鑑賞したことがありますか。

【図4 - 5 過去1年間での市内施設での文化的催しの鑑賞経験】



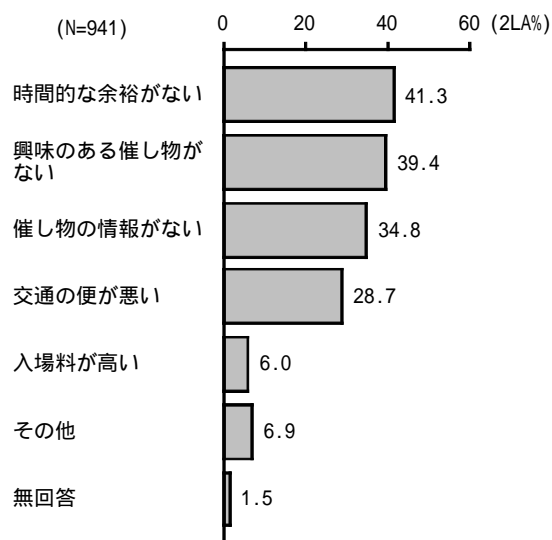
問9 - 1 . あなたが、今後より多くの文化的な催しを鑑賞するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか（は3つまで）。

【図4 - 5 - 1 より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件】



問9 - 2 . 市内にある施設を利用できなかった理由は何ですか（は2つまで）。

【図4 - 5 - 2 市内の施設を利用しなかった理由】

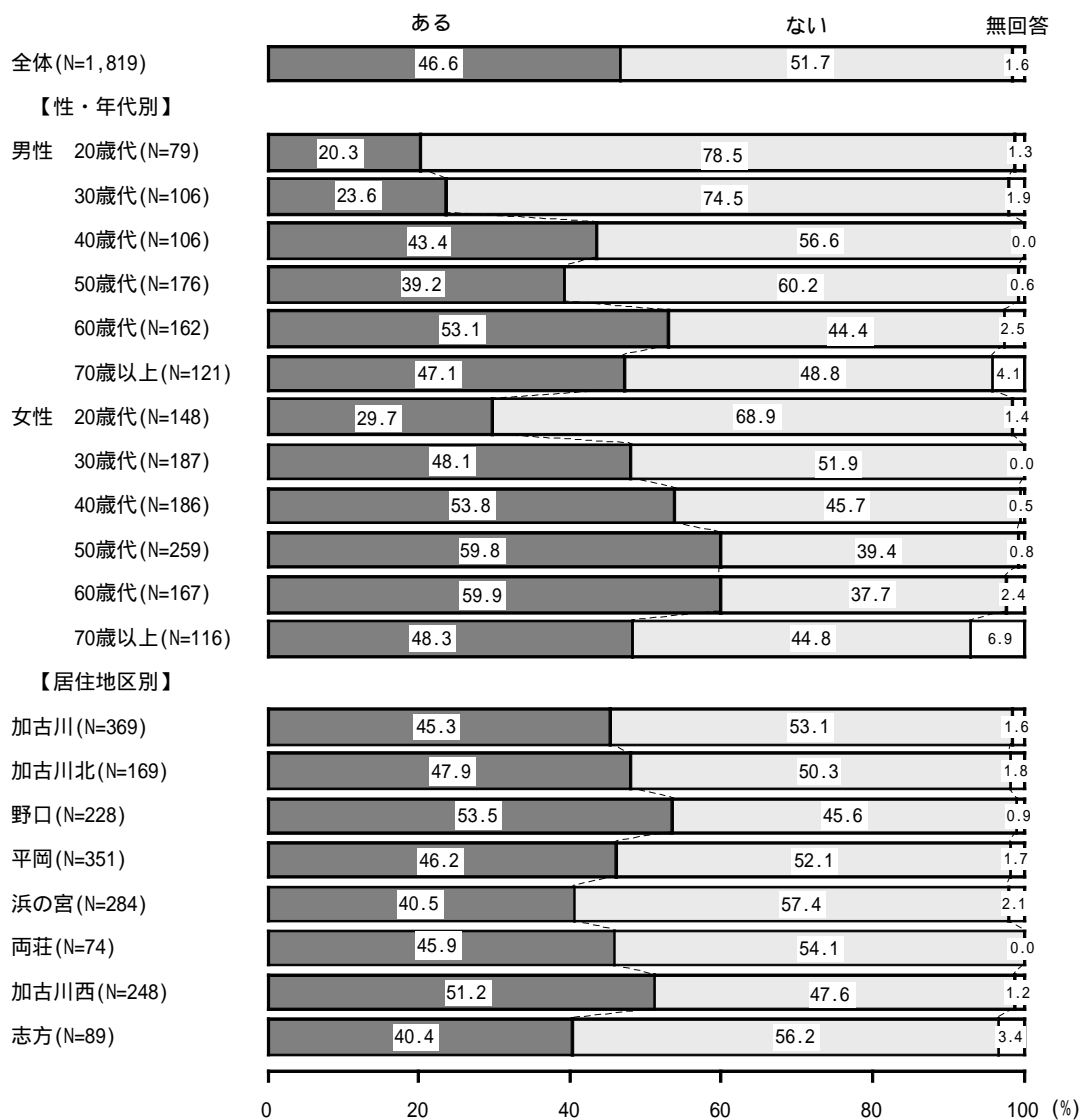


過去1年間に、市内施設での文化的催しを鑑賞したことが「ある」人が46.6%を占め、「ない」人の51.7%より5.1ポイント少なくなっている。(図4-5)

鑑賞経験のある人(848人)に、今後より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件をたずねたところ、「安い料金で鑑賞できること」が67.5%と最も多く、次いで「魅力的な企画であること」57.0%、「施設が身近なところにあること」48.1%、「施設や催し物などの情報が数多く提供されること」41.5%となっている。(図4-5-1)

また、鑑賞経験のない人(941人)に市内の施設を利用しなかった理由をたずねたところ、「時間的な余裕がない」が41.3%と最も多く、次いで「興味のある催し物がない」39.4%、「催し物の情報がない」34.8%、「交通の便が悪い」28.7%となっている。(図4-5-2)

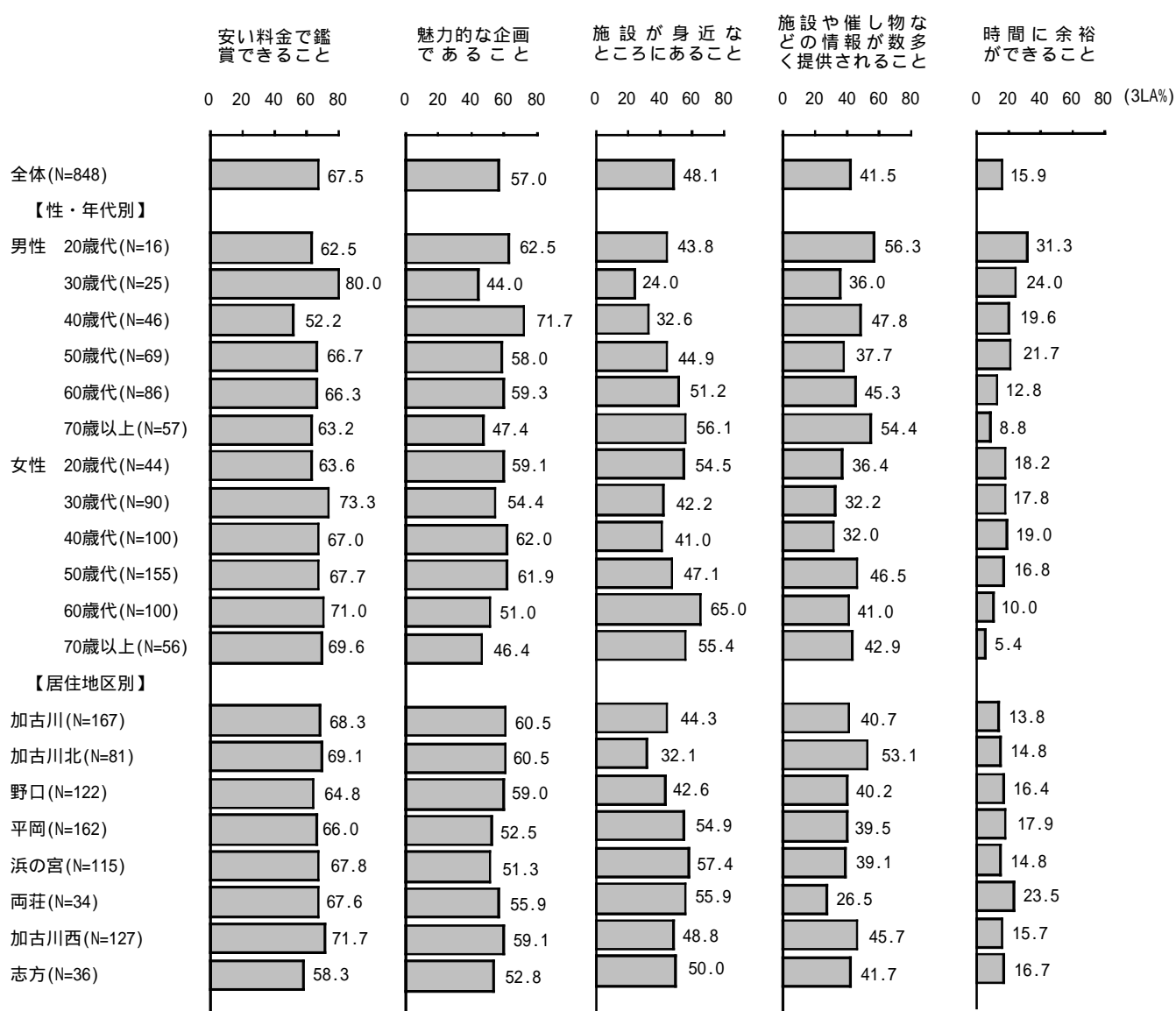
【図4-5-3 性・年代別、居住地区別 過去1年間での市内施設での文化的催しの鑑賞経験】



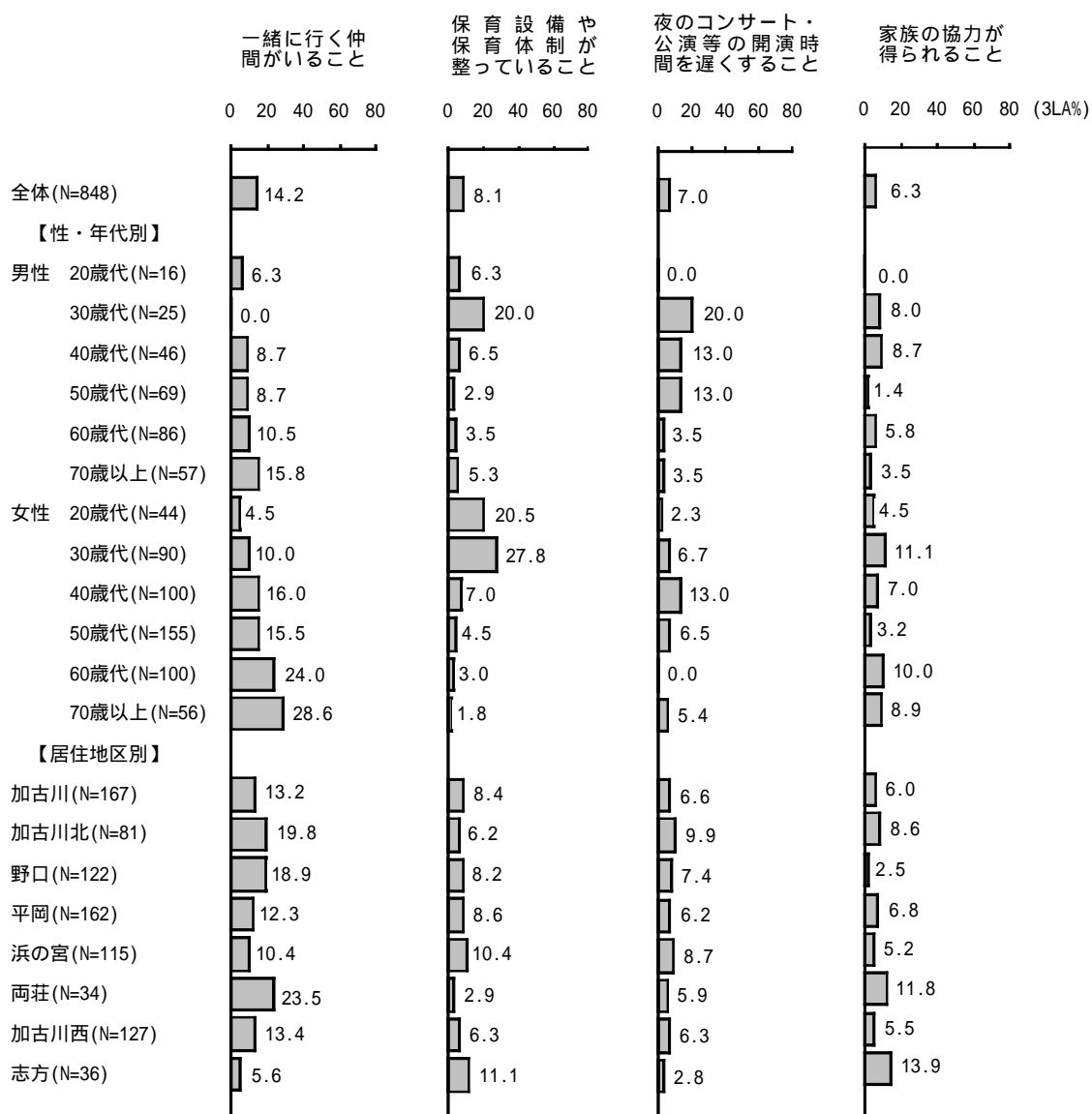
過去1年間での市内施設での文化的催しの鑑賞経験について、性・年代別にみると、男性の場合、60歳代では「ある」が「ない」より多いが、他の年代については「ない」が「ある」より多くなっている。一方、女性の場合は、20～30歳代では「ない」が「ある」より多いが、40歳代以上では「ある」が「ない」より多くなっている。なお鑑賞率は、男女ともに、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、また、いずれの年代においても女性の割合が男性より高くなっている。(図4-5-3)

居住地区別にみると、野口、加古川西地区では「ある」が「ない」より多いが、それ以外の地区では「ない」が「ある」より多くなっている。(図4-5-3)

【図4-5-4-1 性・年代別、居住地区別
より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件(1位～5位)】



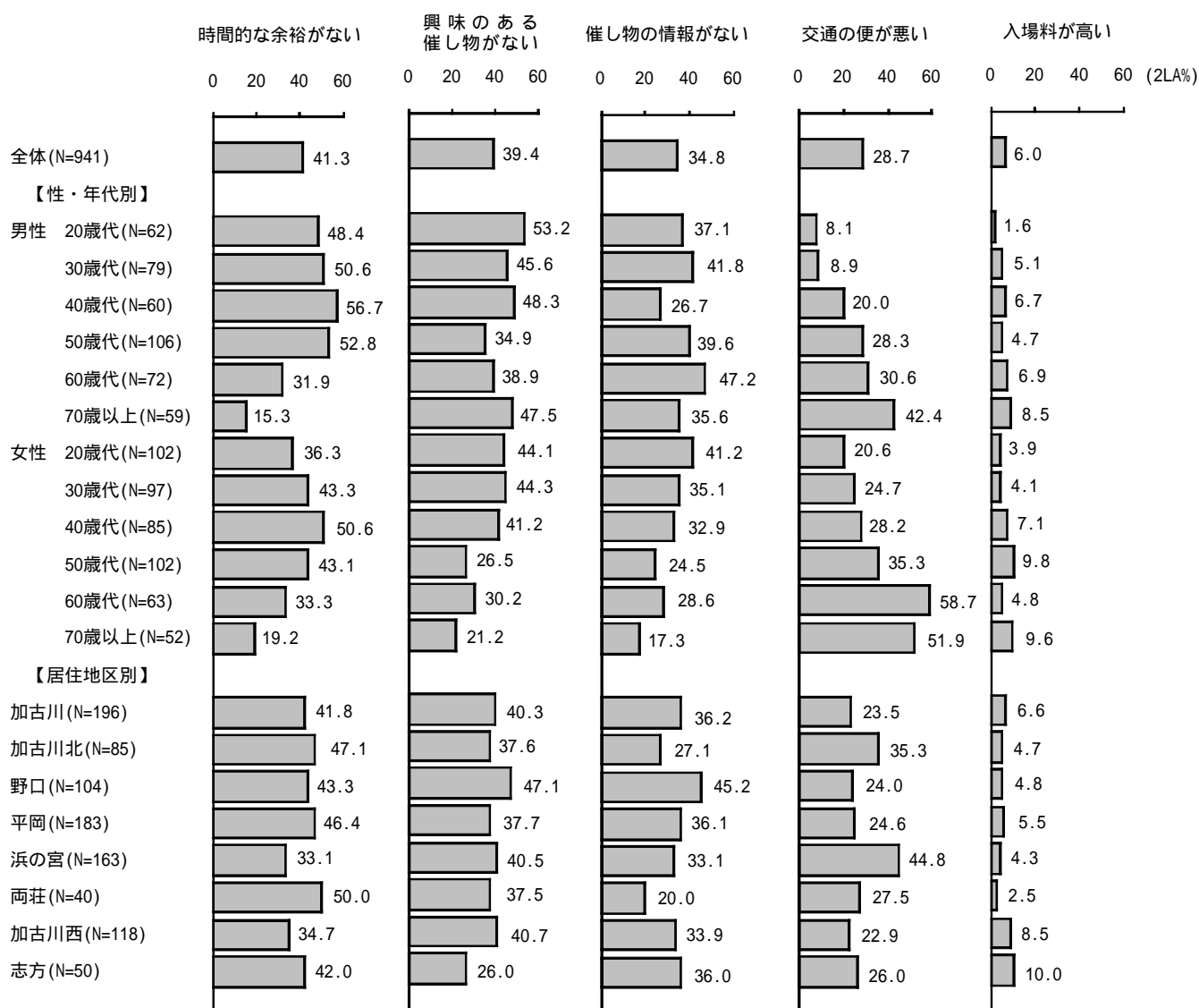
【図4-5-4-2 性・年代別、居住地区別
より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件(6位～9位)】



今後より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件について、性・年代別にみると、40歳代の男性で「魅力的な企画であること」が最も多いのを除くと、男女とも、いずれの年代においても「安い料金で鑑賞できること」が最も多く(20歳代男性については「魅力的な企画であること」と同率)、後者の割合は、男女とも30歳代(男性:80.0%、女性:73.3%)で最も高くなっている。また特徴的な項目としては、「施設が身近なところにあること」は全体で48.1%であるのに対し、60歳代以上の男女で5割以上、「時間に余裕ができること」は全体で15.9%であるのに対し、20～50歳代男性で2割から3割、「保育設備や保育体制が整っていること」は全体で8.1%であるのに対し、20歳代女性および30歳代の男女で2割以上と、他の年代に比べて高くなっている。(図4-5-4-1、2)

居住地区別にみると、いずれの地区においても「安い料金で鑑賞できること」が最も多く、加古川西地区で71.7%と最も高くなっている。なお加古川北地区では、「施設や催し物などの情報が数多く提供されること」が53.1%と他の地区に比べて高くなっている。(図4-5-4-1、2)

【図4 - 5 - 5 性・年代別、居住地区別 市内の施設を利用しなかった理由】



市内の施設を利用しなかった理由について、性・年代別にみると、男性の場合、20歳代および70歳以上では「興味のある催し物がない」が、30～50歳代では「時間的な余裕がない」が、60歳代では「催し物の情報がない」が最も多くなっている。一方、女性の場合、20～30歳代では「興味のある催し物がない」が、40～50歳代では「時間的な余裕がない」が、60歳代以上では「交通の便が悪い」が最も多く、30歳代および60歳以上で男女の意見が異なっている。なお「交通の便が悪い」については、20～30歳代で男性は1割未満、女性は約2割と差が大きくなっている。(図4 - 5 - 5)

居住地区別にみると、野口、加古川西地区では「興味のある催し物がない」が、浜の宮地区では「交通の便が悪い」がそれぞれ最も多く、それ以外の地区では「時間的な余裕がない」が最も多くなっている。なお「催し物の情報がない」については、全体で34.8%であるのに対し野口地区で45.2%と高くなっている。(図4 - 5 - 5)

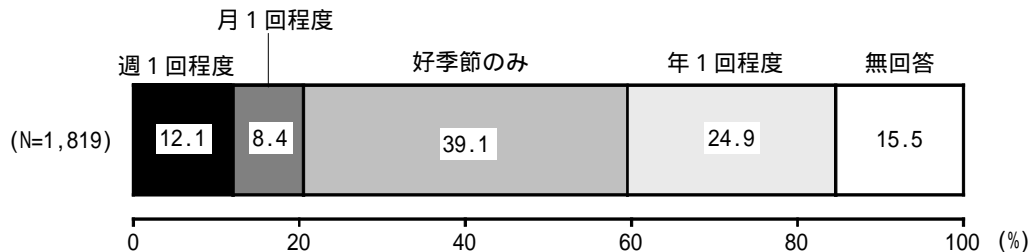
5 . 公園について

5 - 1 . 公園の利用頻度

公園の利用頻度は「好季節のみ」が4割

問10 . あなたは、公園を利用していますか(は1つだけ)

【図5 - 1 公園の利用頻度】

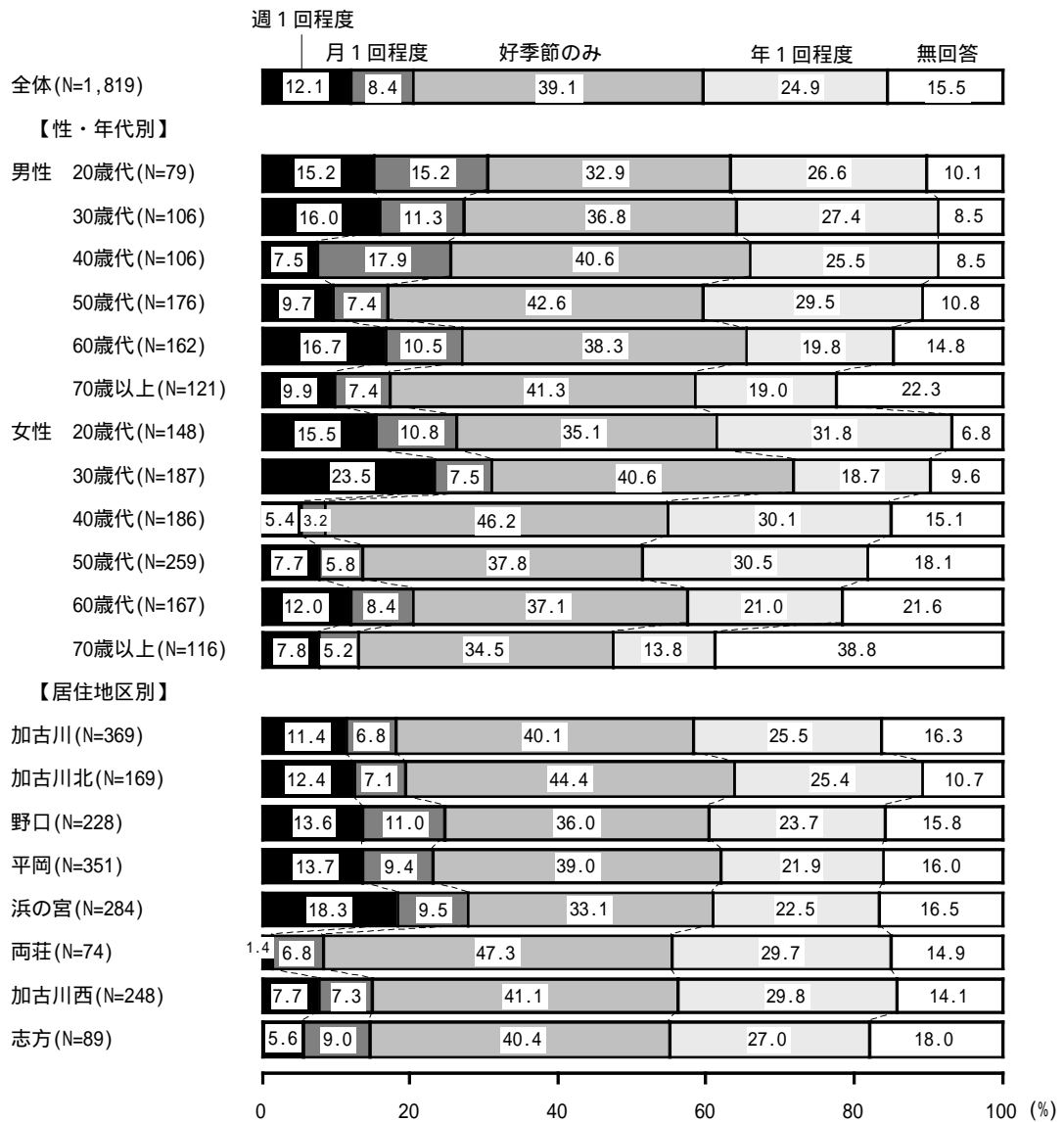


公園の利用頻度については、「好季節のみ」が39.1%と最も多く、次いで「年1回程度」24.9%となっており、利用頻度は低い。なお「週1回程度」は12.1%、「月1回程度」は8.4%となっている。(図5 - 1)

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「好季節のみ」が最も多く、40歳代女性で46.2%と最も高くなっている。なお、「週1回程度」は全体で12.1%であるのに対し、30歳代で男性16.0%、女性23.5%、60歳代男性で16.7%と高くなっており、「月1回程度」は全体で8.4%であるのに対し、20~40歳代の男性で1割から2割と高くなっている。(図5 - 1 - 1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても全体の傾向と同様である。なお、「週1回程度」は浜の宮地区で18.3%、「月1回程度」は野口地区で11.0%と最も高くなっている。(図5 - 1 - 1)

【図5 - 1 - 1 性・年代別、居住地区別 公園の利用頻度】

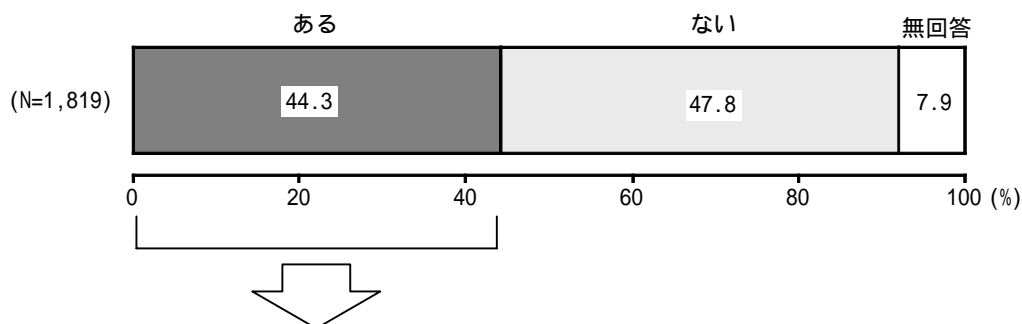


5 - 2 . 公園についての希望

公園についての希望が「ある」人は4割強

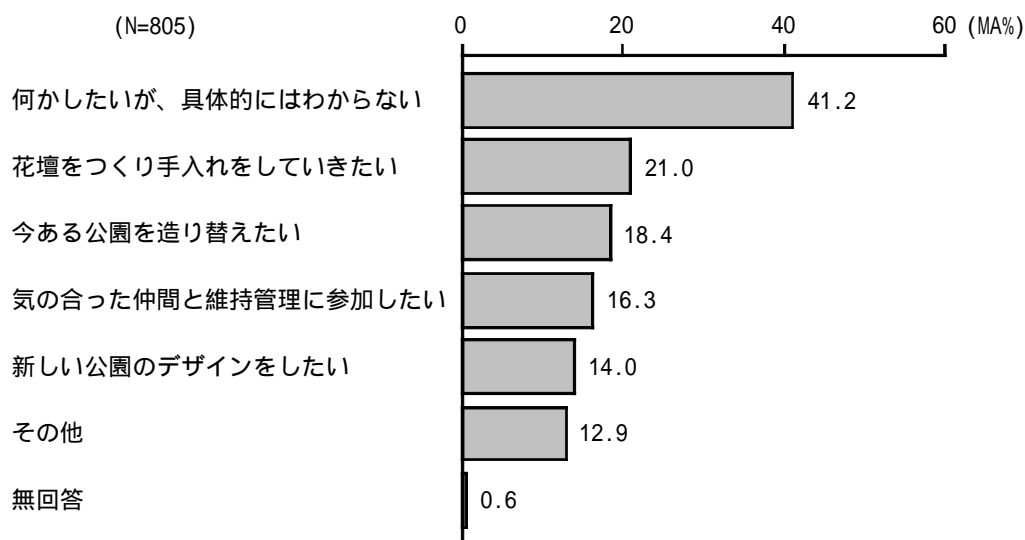
問11. あなたは、公園について『こうしたい』といった希望がありますか。

【図5 - 2 公園についての希望の有無】



問11 - 1. それは、どのようなことですか (はいくつでも)

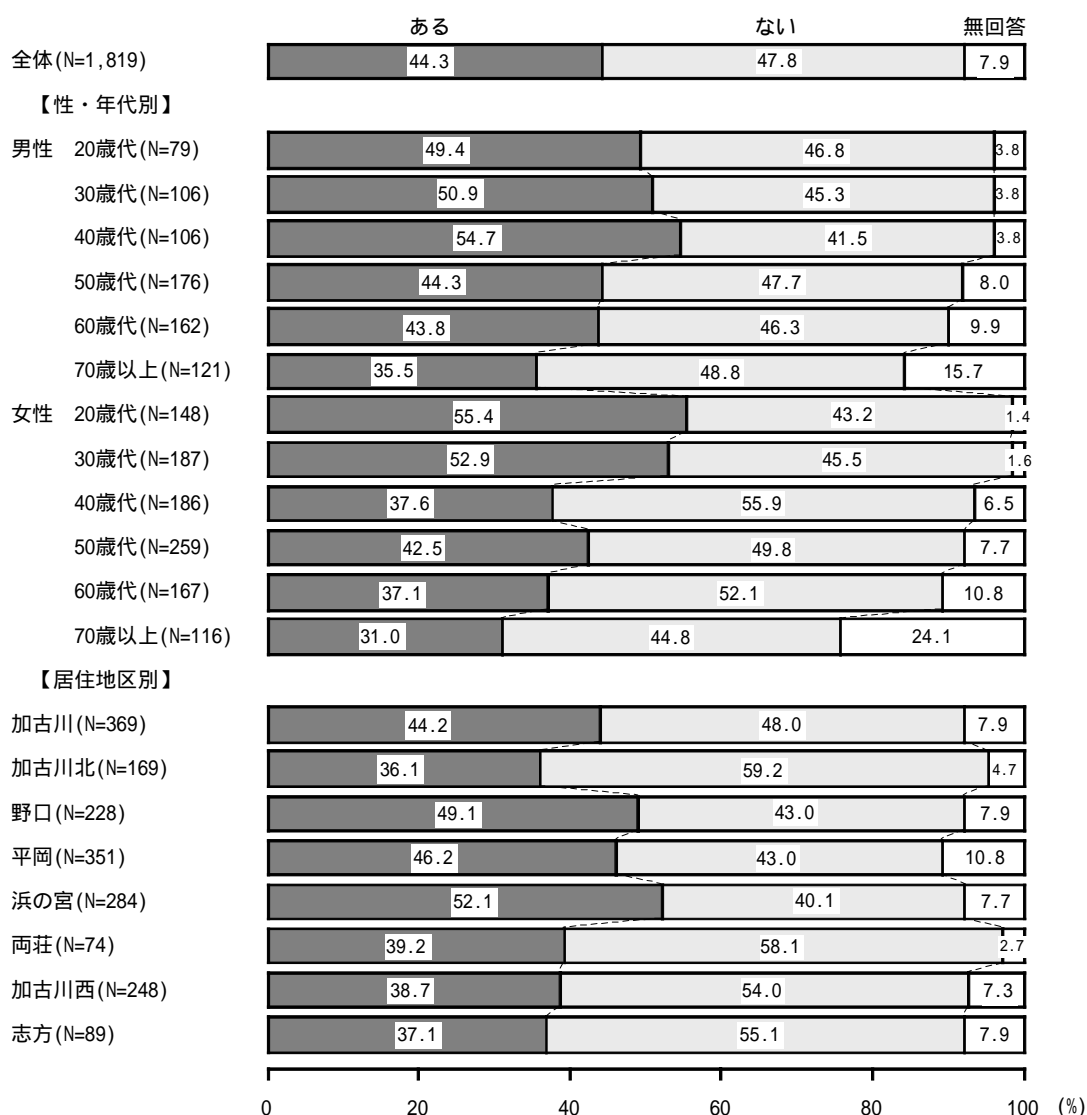
【図5 - 2 - 1 公園についての希望の内容】



公園について『こうしたい』といった希望が「ある」人が全体の44.3%を占め、希望が「ない」人の47.8%より3.5ポイント少なくなっている。(図5 - 2)

また、希望がある人(805人)に希望内容をたずねたところ、「何かしたいが、具体的にはわからない」が41.2%と最も多くなっている。なお、具体的な内容としては「花壇をつくり手入れをしていきたい」21.0%、「今ある公園を造り替えたい」18.4%が多くなっている。(図5 - 2 - 1)

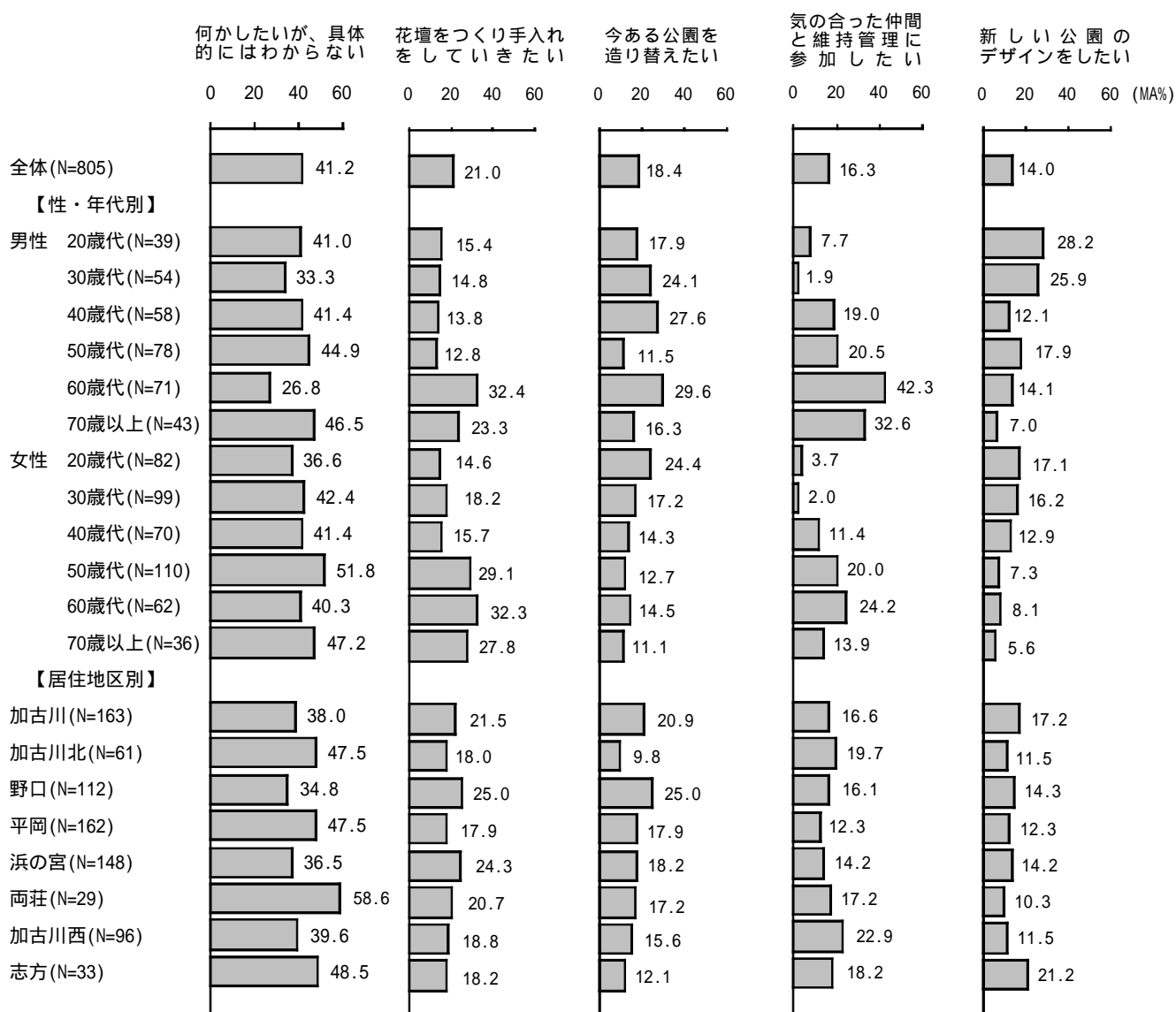
【図5 - 2 - 2 性・年代別、居住地区別 公園についての希望の有無】



公園についての希望の有無について、性・年代別にみると、男女とも20～30歳代では「ある」が「ない」より多いが、50歳代以上では「ない」が「ある」より多くなっている。40歳代については、男性では「ある」が「ない」より多いが、女性では「ない」が「ある」より多く、男女で意見が異なっている。なお、男女ともに「ある」人の割合は、年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。(図5 - 2 - 2)

居住地区別にみると、野口、平岡、浜の宮地区では「ある」が「ない」より多いが、それ以外の地区では「ない」が「ある」より多くなっている。なお、「ある」人の割合が最も高いのは浜の宮地区の52.1%である。(図5 - 2 - 2)

【図5 - 2 - 3 性・年代別、居住地区別 公園についての希望の内容】



公園についての希望の内容について、性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「何かしたいが、具体的にはわからない」が3割から5割を占め、男性では70歳以上で46.5%、女性では50歳代で51.8%と最も高くなっている。また、具体的な内容については、男性の場合、20～30歳代では「新しい公園のデザインをしたい」が、40歳代では「今ある公園を造り替えたい」が、50歳代以上では「気の合った仲間と維持管理に参加したい」が最も多くなっている。一方、女性の場合は、20歳代では「今ある公園を造り替えたい」が、30歳代以上では「花壇をつくり手入れをしていきたい」が最も多く、各年代とも男女の意見は異なっている。(図5 - 2 - 3)

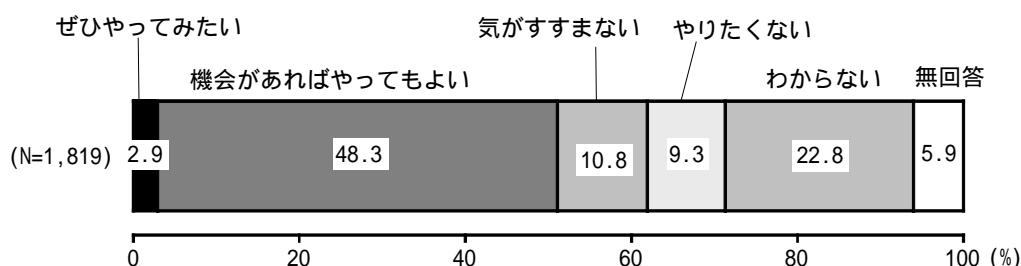
居住地区別にみると、いずれの地区においても「何かしたいが、具体的にはわからない」が4割から6割を占め、両荘地区で58.6%と最も高くなっている。また、具体的な内容については、加古川北、加古川西地区では「気の合った仲間と維持管理に参加したい」が最も多く、それ以外の地区では「花壇をつくり手入れをしていきたい」が最も多くなっている(野口・平岡地区については「今ある公園を造り替えたい」と同率)。(図5 - 2 - 3)

5 - 3 .「公園ボランティア」の参加意向

「公園ボランティア」をやってみたいという人が約5割

問12. あなたは、できる範囲で「公園ボランティア」をやってもよいと思いますか(は1つだけ)

【図5 - 3 「公園ボランティア」の参加意向】

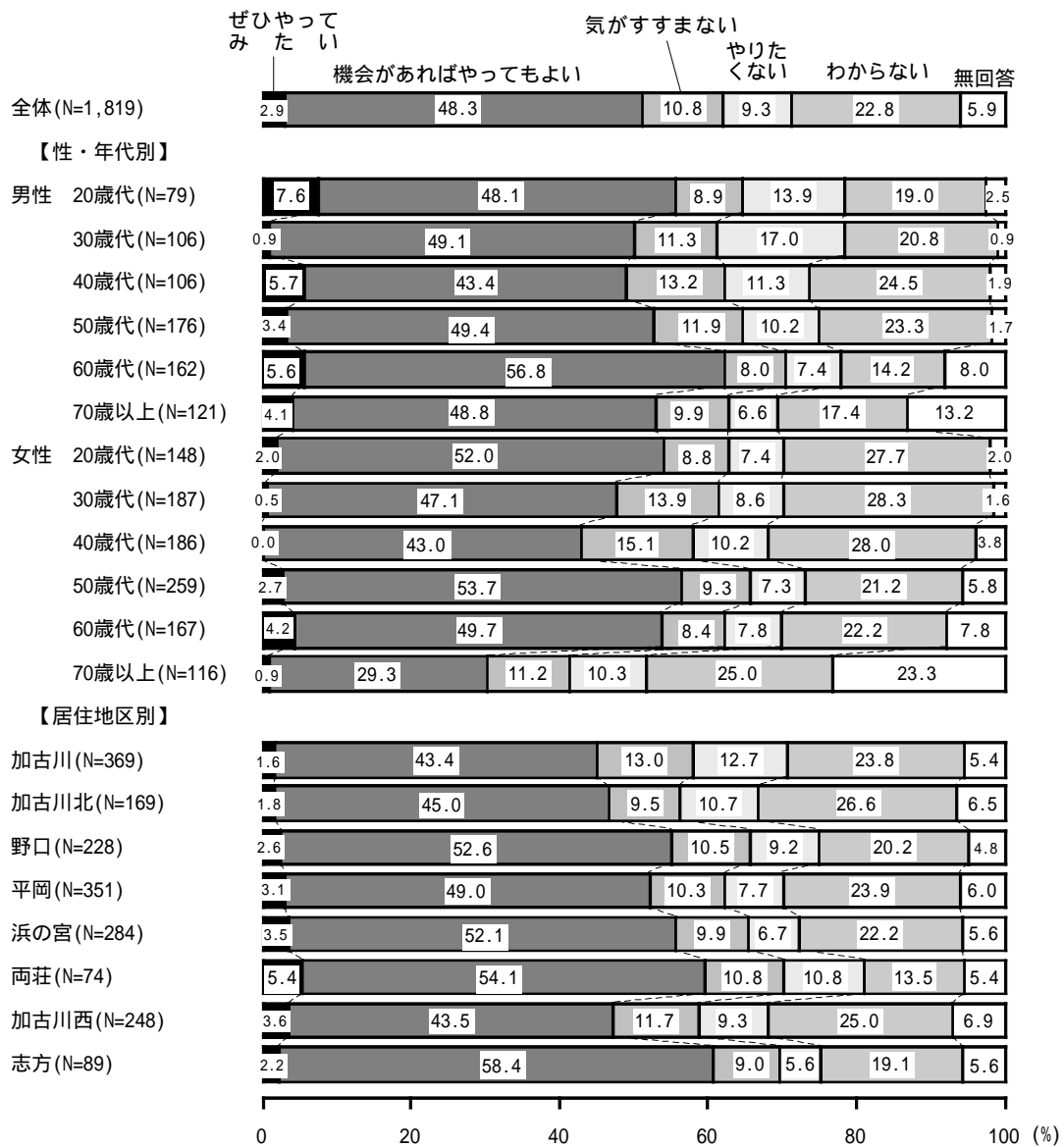


「公園ボランティア」の参加意向についてみると、「機会があればやってもよい」が48.3%と最も多く、「ぜひやってみたい」2.9%を合わせると(以下、『参加意向のある人』とする)全体の51.2%が参加意向をもっている。(図5 - 3)

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「機会があればやってもよい」が最も多く、男性では60歳代で56.8%、女性では50歳代で53.7%と最も多くなっている。また、参加意向のある人が最も多いのも、男性では60歳代の62.4%、女性では50歳代の56.4%である。なお、50歳代を除くと、いずれの年代においても参加意向のある人の割合は男性の方が女性より高くなっている。(図5 - 3 - 1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても「機会があればやってもよい」が最も多くなっている。なお、参加意向のある人が最も多いのは志方地区60.6%、最も少ないのは加古川地区45.0%である。(図5 - 3 - 1)

【図5 - 3 - 1 性・年代別、居住地区別 「公園ボランティア」の参加意向】

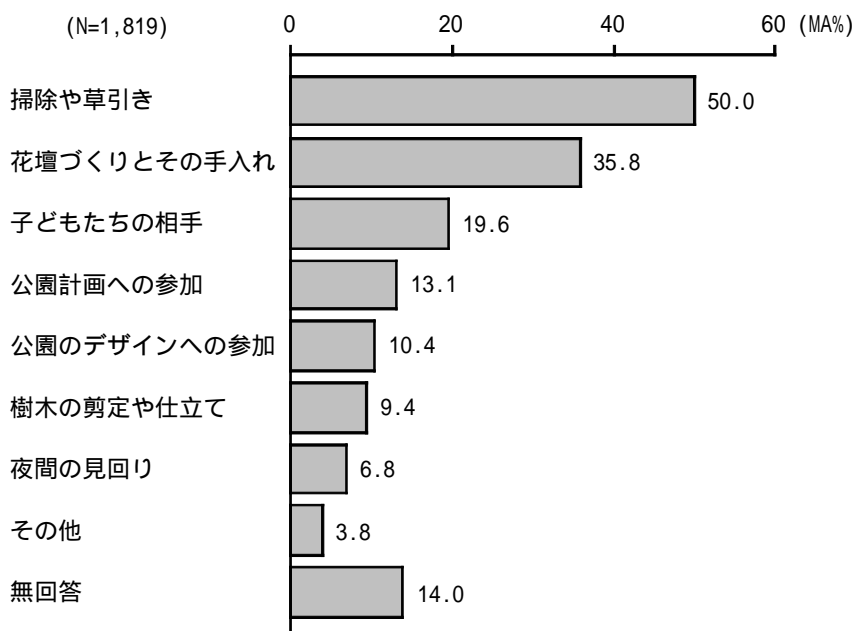


5 - 4 . 公園ボランティアでできると思うこと

全体の5割が、公園ボランティアとして「掃除や草引き」ができると思っている

問13. あなたは、公園ボランティアでどのようなことができると思いますか(はいくつでも)。

【図5 - 4 公園ボランティアでできると思うこと】

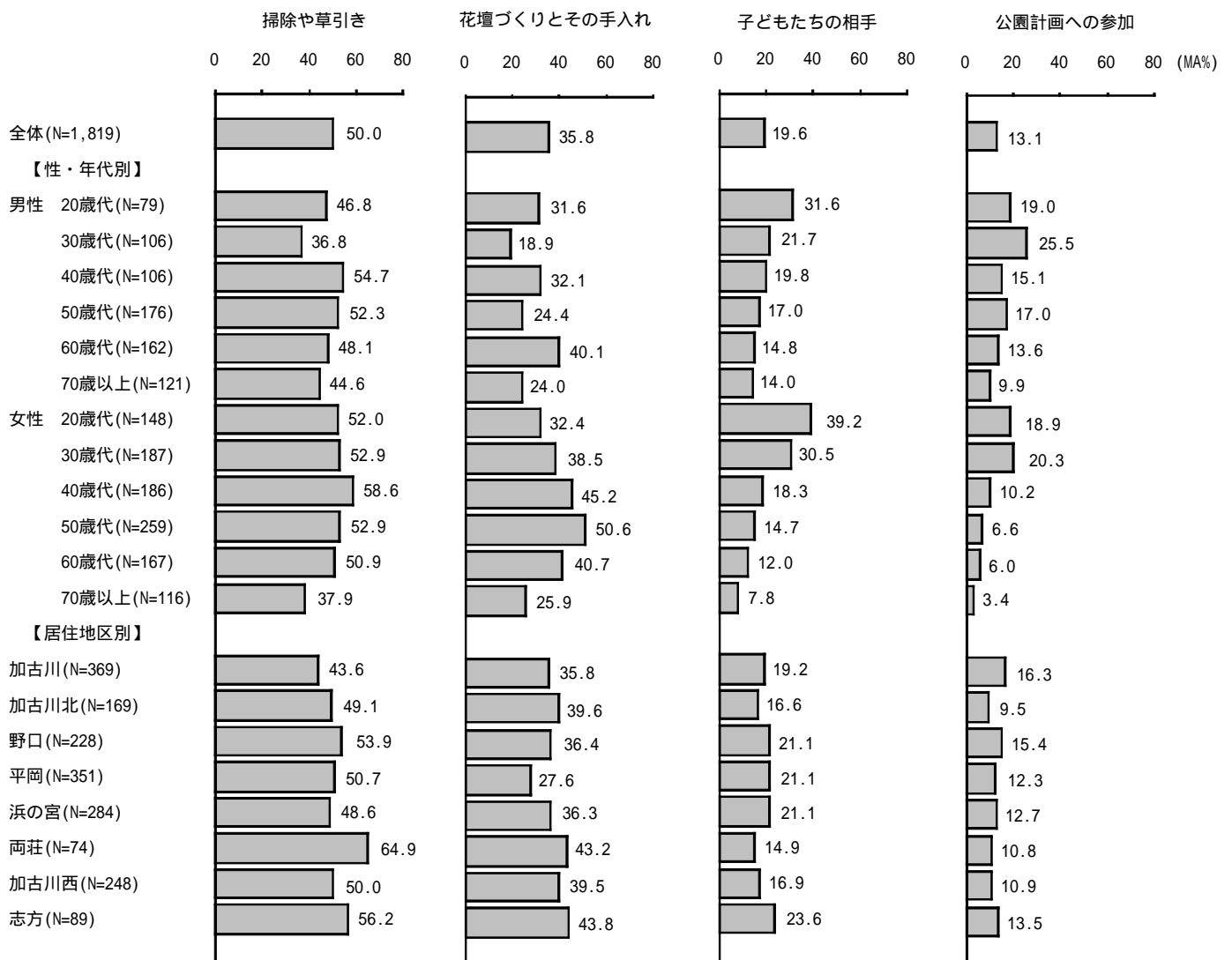


公園ボランティアでできると思うことについては、「掃除や草引き」が50.0%と最も多く、次いで「花壇づくりとその手入れ」35.8%、「子どもたちの相手」19.6%となっている。(図5 - 4)

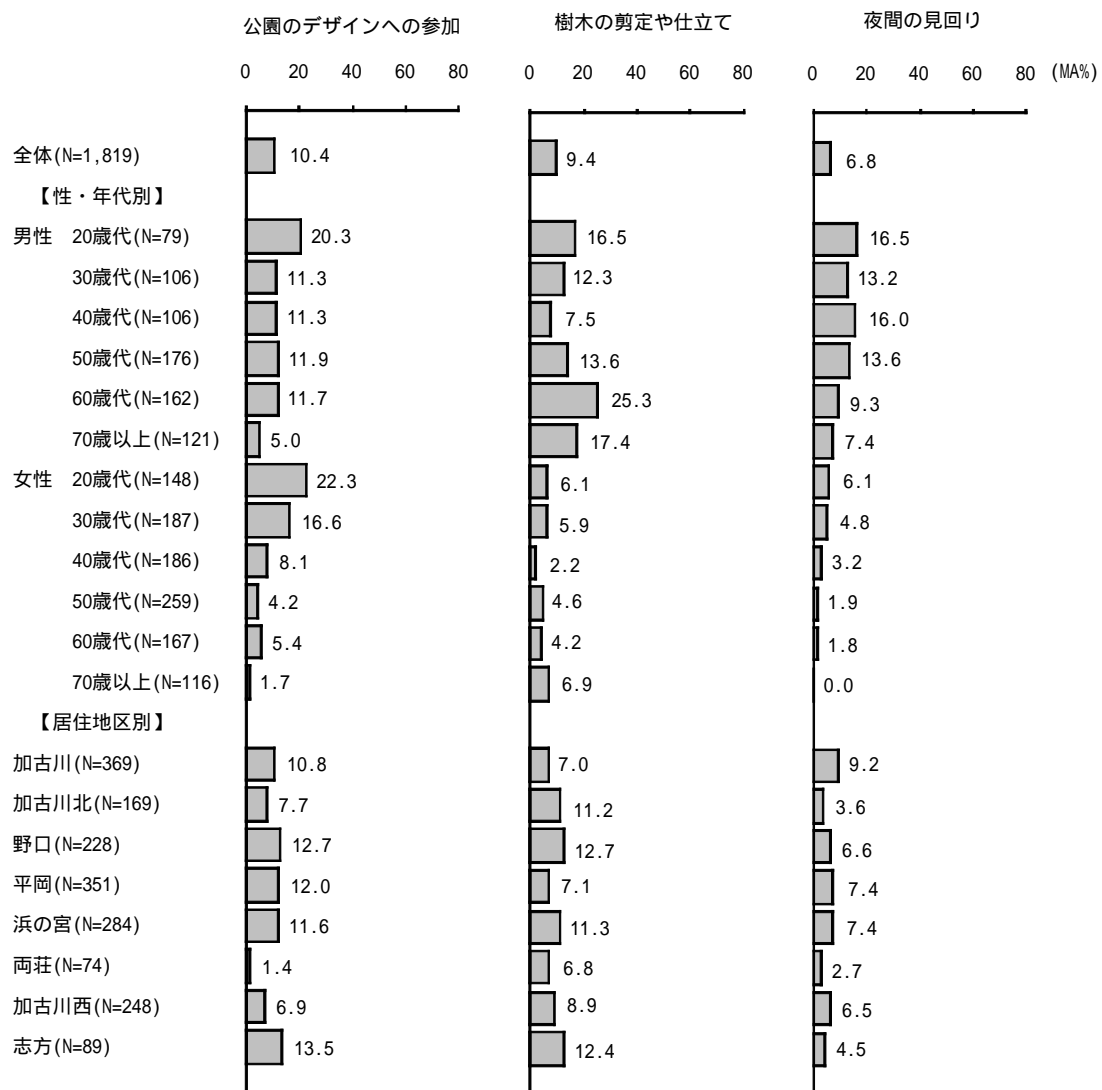
性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「掃除や草引き」が最も多く、40歳代(男性:54.7%、女性:58.6%)で最も多くなっている。なお、特徴的な項目としては、「花壇づくりとその手入れ」は全体で35.8%であるのに対し、40~50歳代女性で約5割、「子どもたちの相手」は全体で19.6%であるのに対し、20歳代の男女および30歳代女性で3割から4割、「公園計画への参加」は全体で13.1%であるのに対し、20~30歳代の男女で2割前後、「公園のデザインへの参加」は全体で10.4%であるのに対し、20歳代の男女および30歳代女性で2割前後、「樹木の剪定や仕立て」は全体で9.4%であるのに対し、20歳代および60歳以上の男性で2割前後と高くなっている。(図5 - 4 - 1 - 1、2)

居住地区別にみると、いずれの地区においても「掃除や草引き」が最も多く、両荘地区で64.9%と最も多くなっている。なお「公園計画への参加」については、加古川、野口地区で約16%と他の地区に比べて高くなっている。(図5 - 4 - 1 - 1、2)

【図5 - 4 - 1 - 1 性・年代別、居住地区別 公園ボランティアでできると思うこと(1位～4位)】



【図5 - 4 - 1 - 2 性・年代別、居住地区別 公園ボランティアでできると思うこと(5位~7位)】

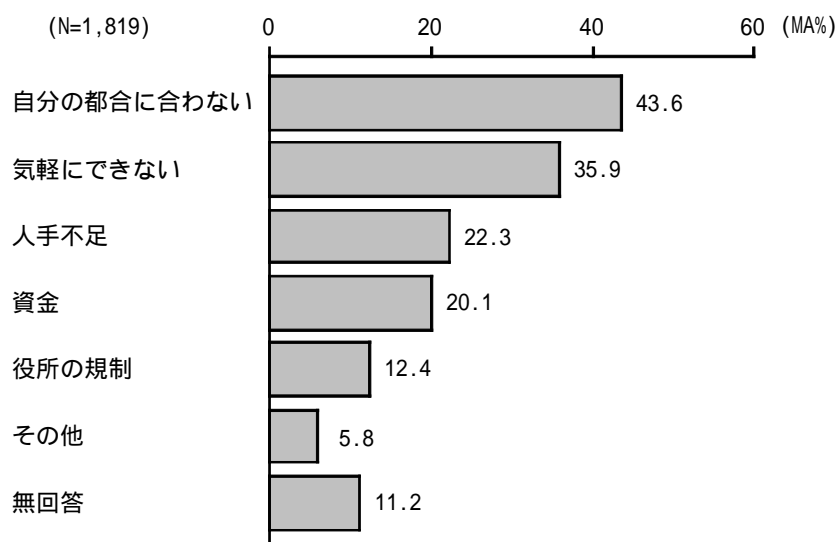


5 - 5 . 公園ボランティア活動の障害

公園ボランティア活動の障害として「自分の都合に合わない」が4割強

問14. あなたは、公園ボランティア活動の障害になると思うことはどのようなことですか。
(はいいくつでも)

【図5 - 5 公園ボランティア活動の障害】

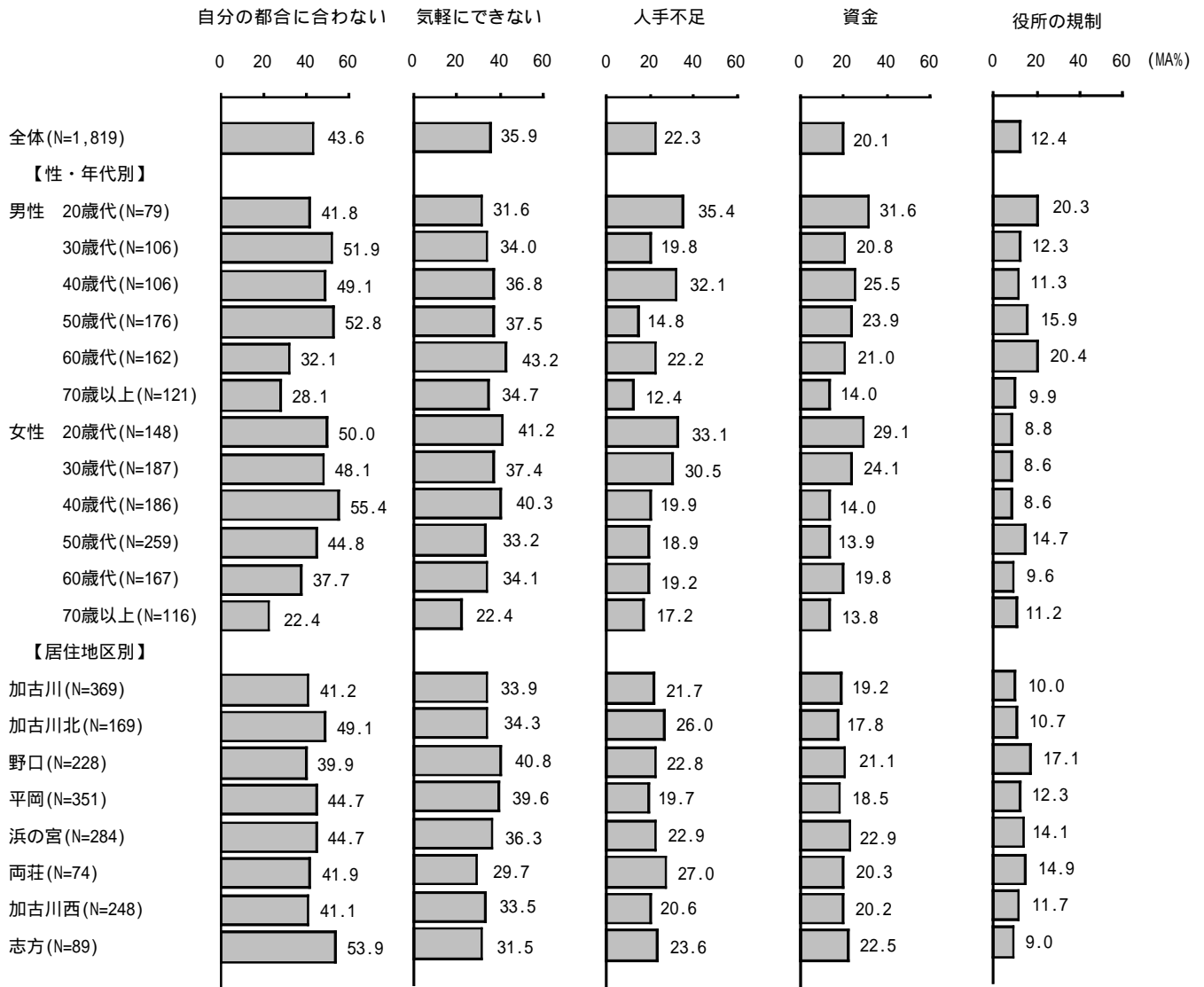


公園ボランティア活動の障害になると思うことについては、「自分の都合に合わない」が43.6%と最も多く、次いで「気軽にできない」35.9%、「人手不足」22.3%、「資金」20.1%となっている。(図5 - 5)

性・年代別にみると、60歳以上の男性で「気軽にできない」が最も多いが、それ以外の年代では「自分の都合に合わない」が最も多く(70歳以上の女性については両者同率)、後者の割合は、特に30~50歳代の男性および20~40歳代の女性で5割前後と高くなっている。特徴的な項目としては、「人手不足」は全体で22.3%であるのに対し、20歳代の男女および30歳代女性、40歳代男性で3割強、「資金」は全体で20.1%であるのに対し、20歳代の男女で3割前後と高くなっている。また「役所の規制」については、20歳代および60歳代で男性の割合が女性より1割以上高くなっている。(図5 - 5 - 1)

居住地区別にみると、野口地区で「気軽にできない」が最も多いが、それ以外の地区では「自分の都合に合わない」が最も多く、後者の割合が最も高いのは志方地区の53.9%である。なお「人手不足」は、両荘、加古川北地区で3割弱と他の地区に比べて高くなっている。(図5 - 5 - 1)

【図5 - 5 - 1 性・年代別、居住地区別 公園ボランティア活動の障害】

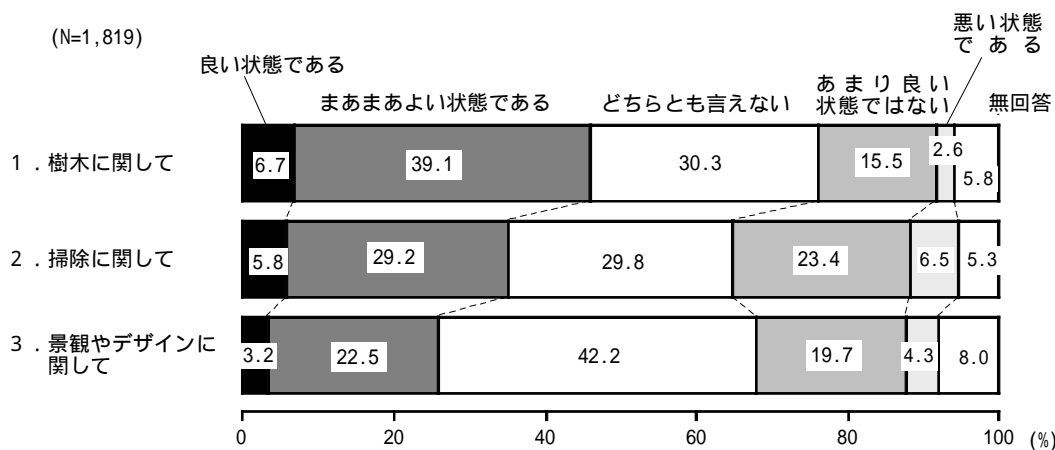


5 - 6 . 公園全般に関する感想

『良い状態である』の割合が最も高いのは「樹木に関して」(45.8%)

問15 . 公園全般に関して、あなたのお気持ちに近いものを選んでください(は1つずつ)

【図5 - 6 公園全般に関する感想】



4 . その他の回答者 (250 人、13.7%)

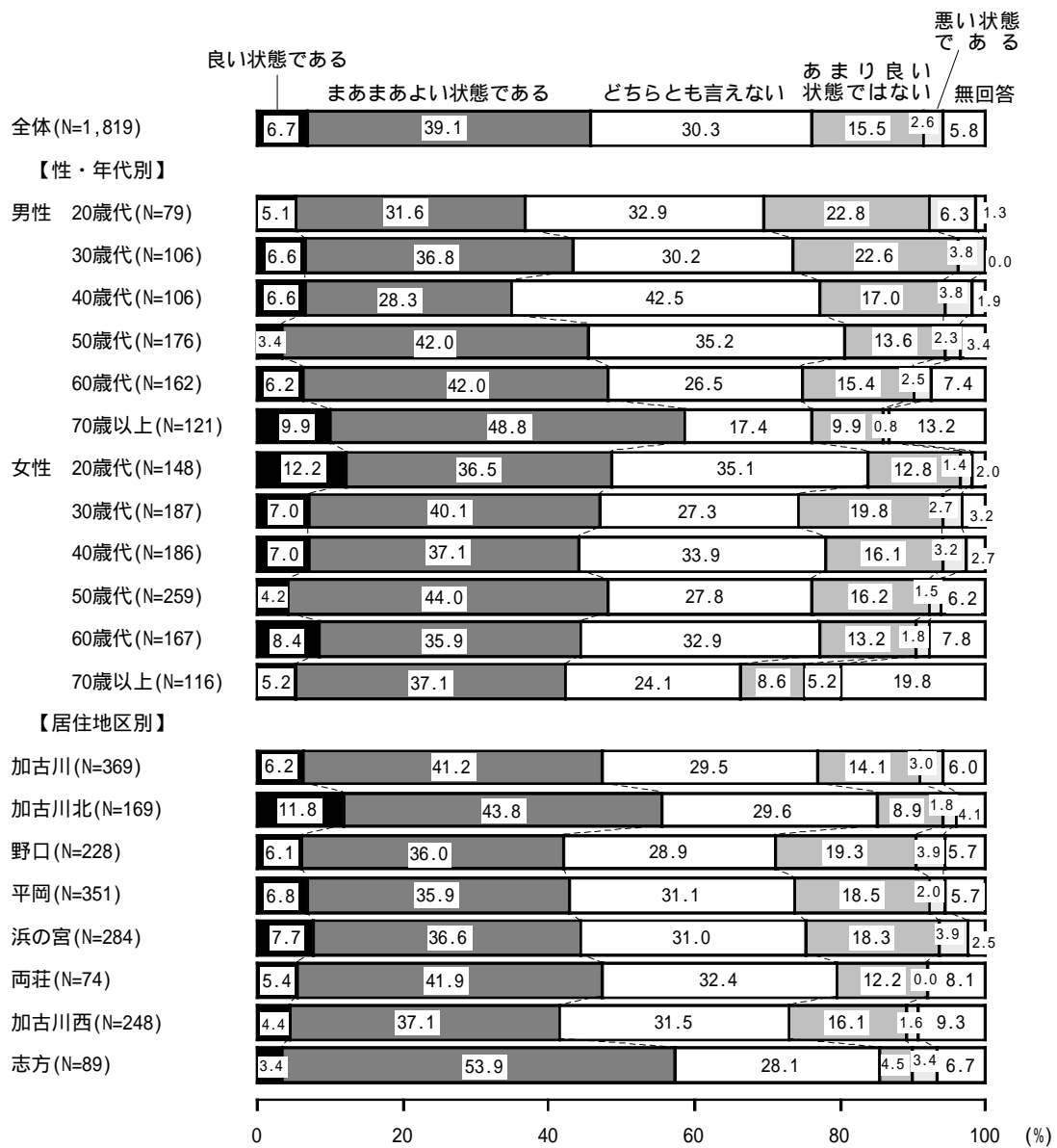
【表5 - 6 その他の具体的内容 (10 件以上の項目)】

意見 総数		250
意見内容	犬の糞が放置されていて衛生面で問題があり、子どもを安心して遊ばせられない	26
	公園の数が少なく、近くに公園がない。もっと公園を作って欲しい	26
	樹木の手入れや草刈りなど公園の管理ができていない	20
	誰でも安心して楽しく利用できる公園にして欲しい	18
	遊具が少なく、古くて壊れているなど管理が不十分である	14
	変質者、浮浪者や若者などがたむろしていて安全が心配である	14
	トイレのない公園が多く、設置されていても汚くて管理が不十分である	12
	びんや缶、吸い殻などのゴミが多く汚い	12
	公園に樹木や花などの緑が少ない	12
	公園の樹木が生い茂っていて暗く、外からの見通しが悪く保安上問題がある	11

公園全般に関する感想については、樹木に関しては「まあまあ良い状態である」が最も多いが、それ以外の項目については「どちらとも言えない」が最も多くなっている。なお、『良い状態である』の割合(「良い状態である」「まあまあ良い状態である」を合わせた値)は、樹木に関しては45.8%、掃除に関しては35.0%、景観やデザインに関しては25.7%となっており、いずれについても『悪い状態である』の割合(「悪い状態である」「あまり良い状態ではない」を合わせた値)より高くなっている。(図5 - 6)

また、「その他」に回答した人(250人)の意見の中で、10件以上の回答を得られた項目について、具体的な内容を挙げた。最も件数の多い意見は「犬の糞が放置されていて衛生面で問題があり、子どもを安心して遊ばせられない」「公園の数が少なく、近くに公園がない。もっと公園を作って欲しい」でともに26件となっている。次いで「樹木の手入れや草刈りなど公園の管理ができていない」20件、「誰でも安心して楽しく利用できる公園にして欲しい」18件となっている。(表5 - 6)

【図5-6-1 性・年代別、居住地区別 1. 樹木に関する感想】

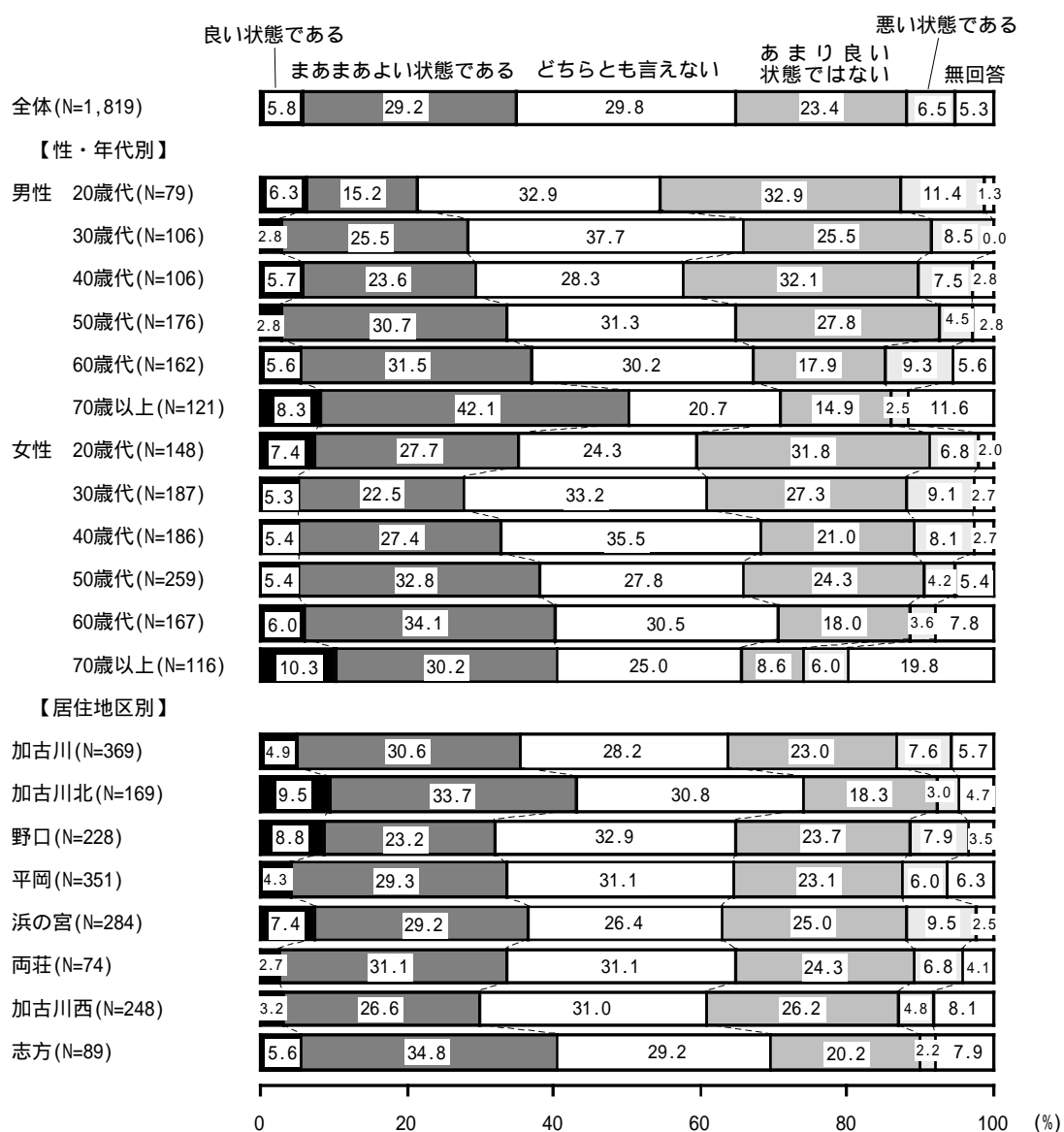


1. 樹木に関して

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても、『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。なお、『良い状態である』が最も高いのは、男性では70歳以上で58.7%、女性では20歳代および50歳代で約48%となっている。一方、『悪い状態である』が最も高いのは、男性では20歳代で29.1%、女性では30歳代で22.5%となっている。(図5-6-1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。また、『良い状態である』が最も高いのは志方地区で57.3%、『悪い状態である』が最も高いのは野口地区で23.2%となっている。(図5-6-1)

【図5 - 6 - 2 性・年代別、居住地区別 2 . 掃除に関する感想】

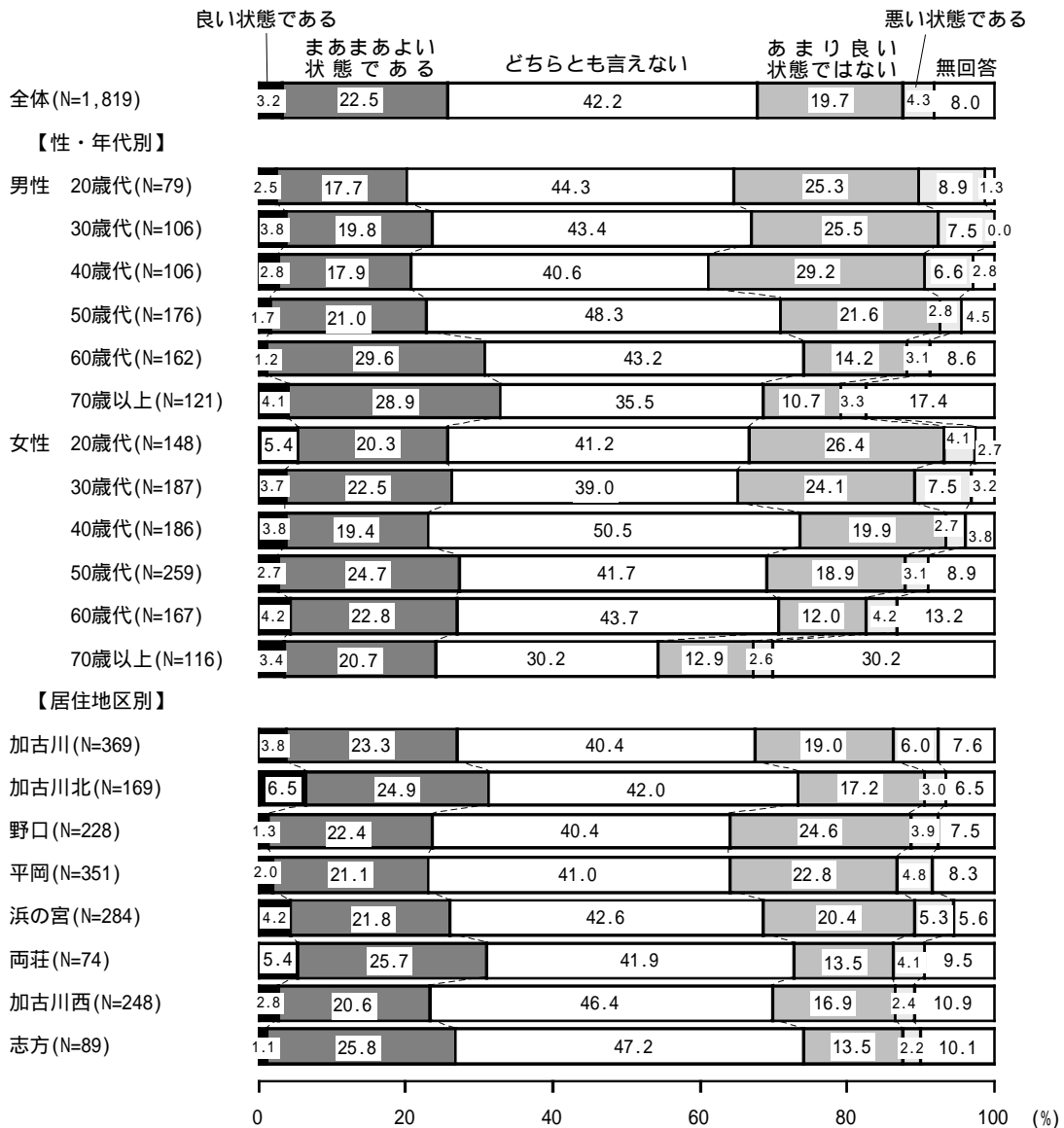


2 . 掃除に関して

性・年代別にみると、男女とも、20～30歳代では『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、50歳代以上では『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。40歳代については、男性では『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、女性ではその逆の構成となっている。なお、『良い状態である』が最も高いのは、男女とも70歳以上（男性：50.4%、女性：40.5%）で、60歳代女性でも40.1%と高くなっている。一方、『悪い状態である』が最も高いのは、男女とも20歳代（男性：44.3%、女性：38.6%）で、40歳代男性でも39.6%と高くなっている。（図5 - 6 - 2）

居住地区別にみると、加古川西地区で『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、それ以外の地区では『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。また、『良い状態である』が最も高いのは加古川北地区で43.2%、『悪い状態である』が最も高いのは浜の宮地区で34.5%となっている。（図5 - 6 - 2）

【図5 - 6 - 3 性・年代別、居住地区別 3 . 景観やデザインに関する感想】



3 . 景観やデザインに関して

性・年代別にみると、男女とも、20～30歳代では『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、60歳代以上では『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。40～50歳代については、男性では『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、女性ではその逆の構成となっている。なお、『良い状態である』が高いのは、男性では60歳代以上で30～33%、女性では50～60歳代で約27%となっている。一方、『悪い状態である』が高いのは、男性では20～40歳代で33～36%、女性では20～30歳代で約31%となっている。(図5 - 6 - 3)

居住地区別にみると、野口、平岡地区で『悪い状態である』が『良い状態である』より高いが、それ以外の地区では『良い状態である』が『悪い状態である』より高くなっている。また、『良い状態である』が最も高いのは加古川北、両荘地区で約31%、『悪い状態である』が最も高いのは野口、平岡地区で約28%となっている。(図5 - 6 - 3)

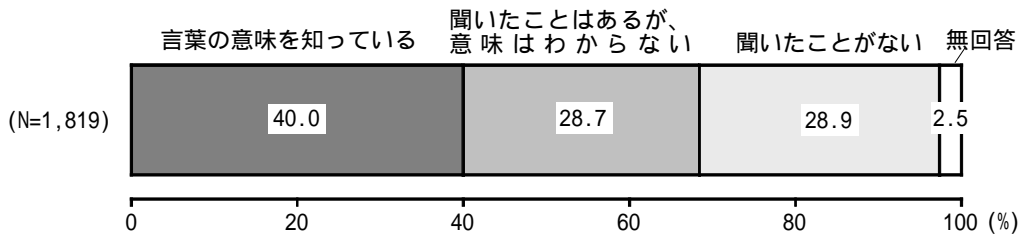
6. 男女の役割や考え方について

6-1. 「男女共同参画社会」の認知度

「男女共同参画社会」の認知率は4割

問16. あなたは、「男女共同参画社会」という言葉をお聞きになったことがありますか(は1つだけ)。

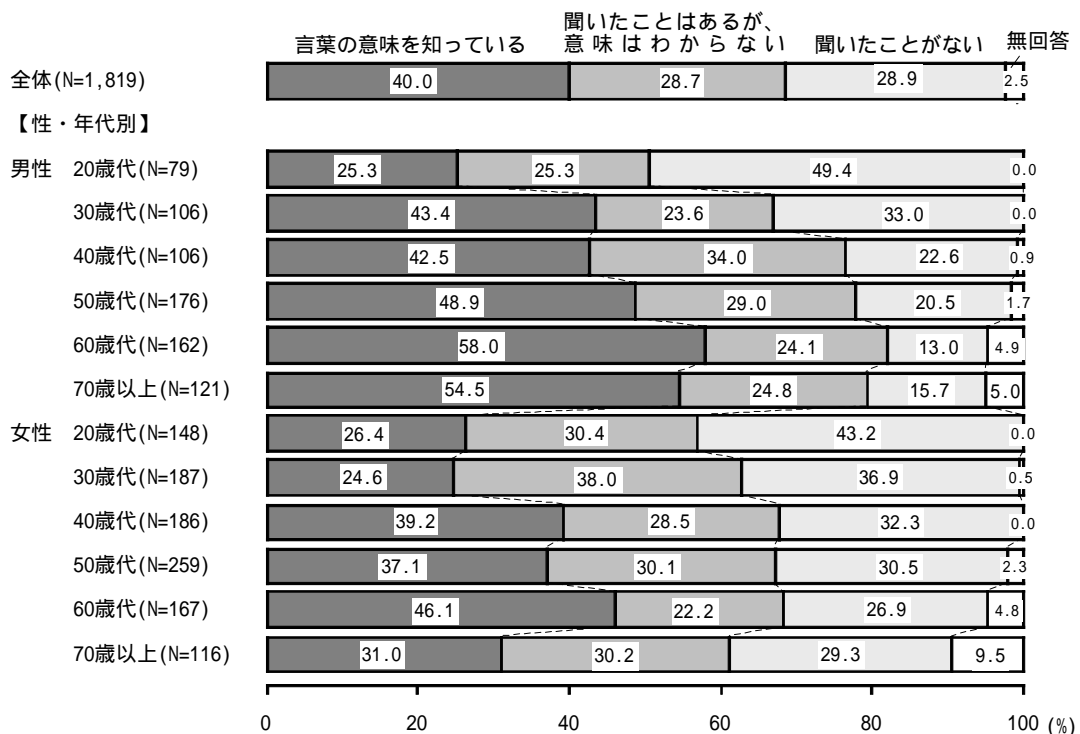
【図6-1 「男女共同参画社会」の認知度】



「男女共同参画社会」の認知度については、「言葉の意味を知っている」が40.0%と最も多くなっている。なお、「聞いたことがない」28.9%、「聞いたことはあるが、意味はわからない」28.7%とほぼ同率となっている。(図6-1)

性・年代別にみると、男女とも、20歳代では「聞いたことがない」が、40歳代以上では「言葉の意味を知っている」が最も多く、年代が上がるにつれて認知率が高くなる傾向にある。30歳代については、男性では「言葉の意味を知っている」が最も多いが、女性では「聞いたことはあるが、意味はわからない」が最も多くなっている。なお認知率は、いずれの年代においても男性の方が女性より高く、特に男女差が大きくなっているのは70歳以上(23.5ポイント差)と30歳代(18.8ポイント差)である。(図6-1-1)

【図6-1-1 性・年代別 「男女共同参画社会」の認知度】

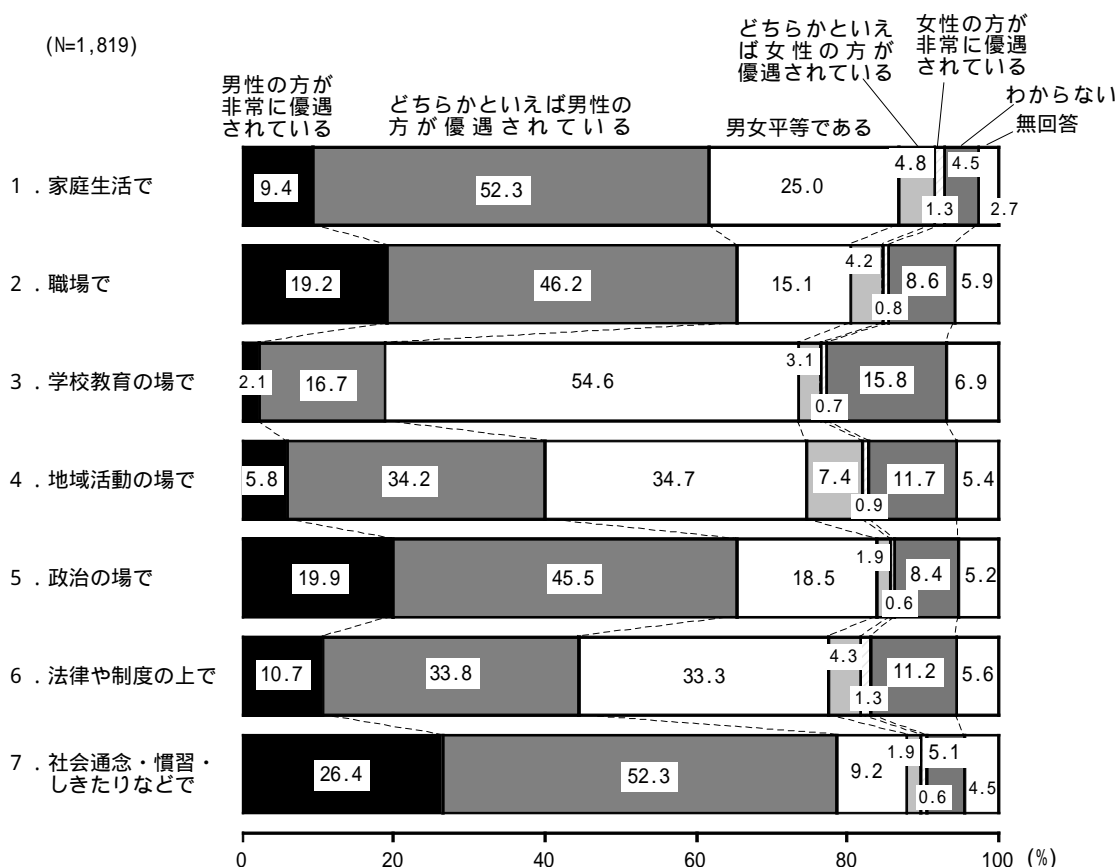


6 - 2 . 男女平等の現状認識

学校教育の場では『男女平等派』が、社会通念・慣習等、職場、政治の場、家庭生活では『男性優遇派』が過半数

問17. あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はいいくつでも)

【図6 - 2 男女平等の現状認識】



各分野における男女の地位の平等についてみる。『男性優遇派』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた値)が多いのは、社会通念・慣習・しきたりなど 78.7%、職場 政治の場 (ともに) 65.4%、家庭生活 61.7% である。一方、『女性優遇派』(「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた値)は、いずれについても1割未満と非常に少ない。なお、学校教育の場 地域活動の場 法律や制度上 については『男女平等派』(「男女平等である」の値)が多くなっており、特に 学校教育の場 では54.6%と高くなっている。(図6 - 2)

1．家庭生活上で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が5割から8割を占め、男性では40歳代で61.3%、女性では20歳代で77.7%と最も高くなっている。また、20～60歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高く、『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～50歳代で、特に20歳代で32.1ポイント差と大きい。(図6-2-1-1)

2．職場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が4割から8割強を占め、男性では40歳代で69.8%、女性では20歳代で85.8%と最も高くなっている。また、20～50歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなって、『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～30歳代で、特に20歳代で21.2ポイント差と大きい。(図6-2-1-2)

3．学校教育の場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男女平等派』が4割から7割を占め、男性では30歳代で69.8%、女性では40歳代で59.7%と最も高くなっている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは30歳代および60歳代で、30歳代で14.6ポイント差と大きい。(図6-2-2-3)

4．地域活動の場で

性・年代別にみると、男性では『男女平等派』が4割から5割を占めるが、女性では『男性優遇派』が3割から5割強を占めている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは30～40歳代で、特に40歳代で25.7ポイント差と大きい。(図6-2-2-4)

5．政治の場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が4割から9割を占め、男性では50歳代で65.4%、女性では20歳代で90.5%と最も高くなっている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～40歳代で、特に20歳代で26.0ポイント差と大きい。(図6-2-2-5)

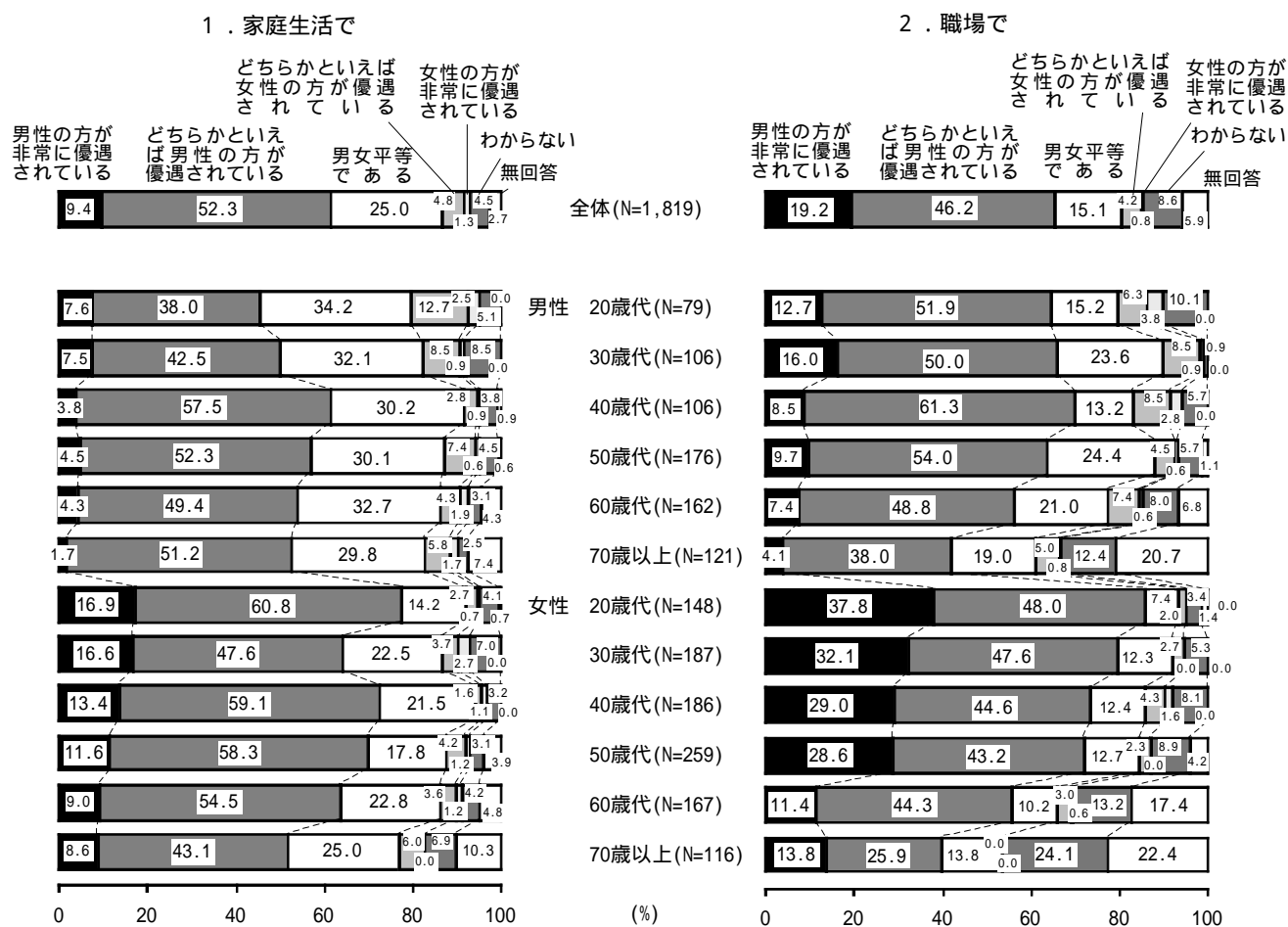
6. 法律や制度の上で

性・年代別にみると、男性では『男女平等派』が3割から6割を占めるが、女性では『男性優遇派』が3割から6割を占めている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差は各年代とも大きく、特に30歳代で23.2ポイント差と大きい。(図6-2-2-6)

7. 社会通念・慣習・しきたりなどで

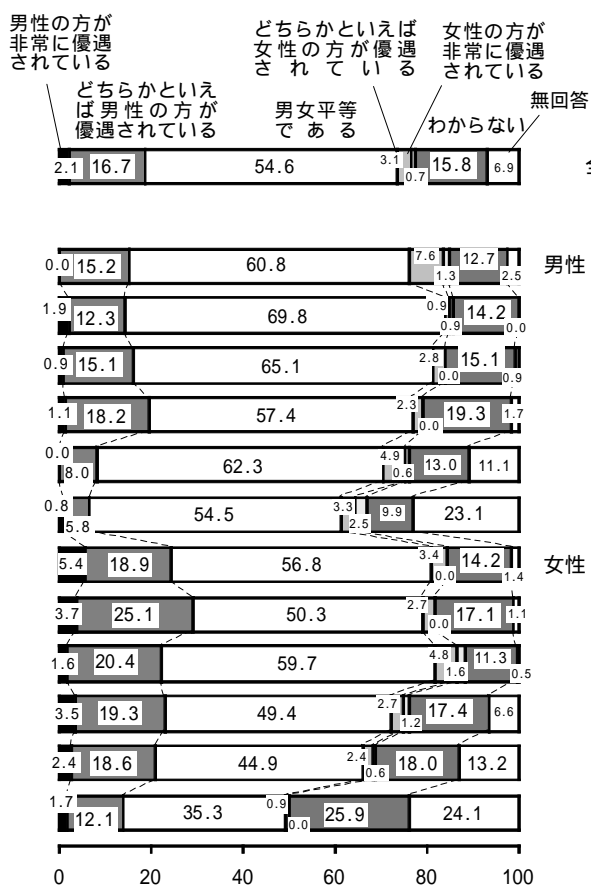
性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が5割強から9割を占め、男性では30～50歳代で約8割、女性では20～40歳代で約9割と高くなっている。なお、20～60歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっており、『男性優遇派』の割合の男女差が大きいのは20歳代および40歳代で、特に20歳代で23.4ポイントと大きい。(図6-2-3-7)

【図6-2-1 性・年代別 男女平等の現状認識】

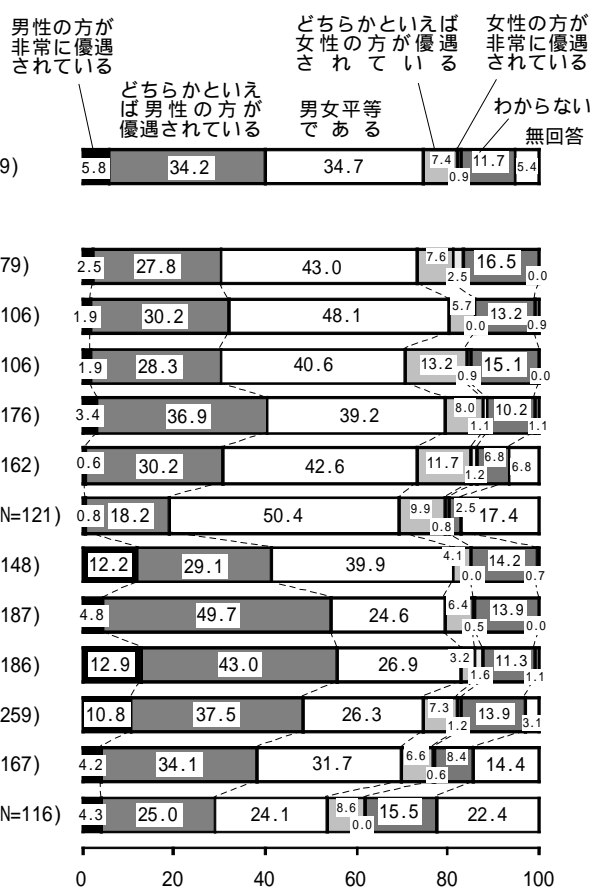


【図6-2-2 性・年代別 男女平等の現状認識】

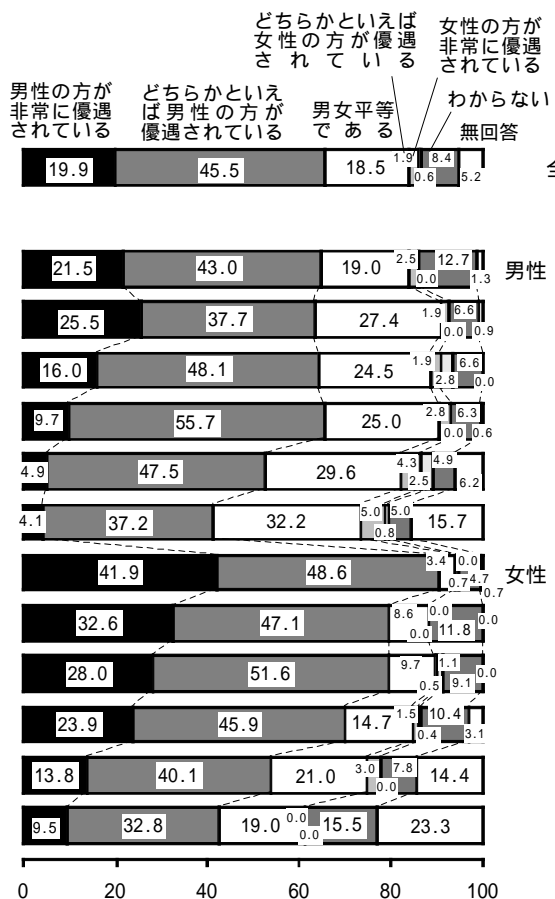
3. 学校教育の場で



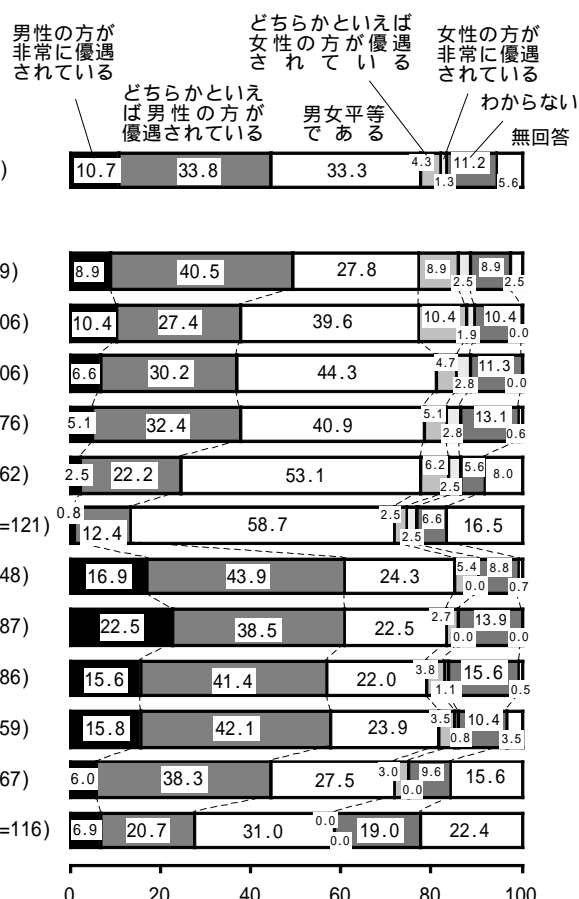
4. 地域活動の場で



5. 政治の場で

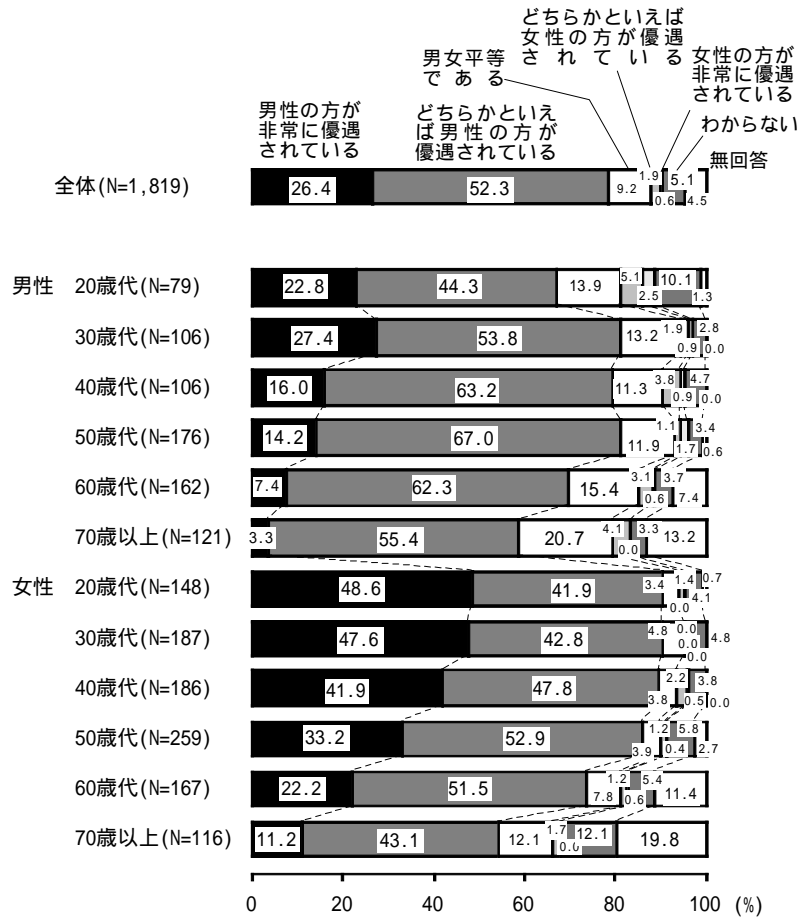


6. 法律や制度の上で



【図6-2-3 性・年代別 男女平等の現状認識】

7. 社会通念・慣習・しきたりなどで

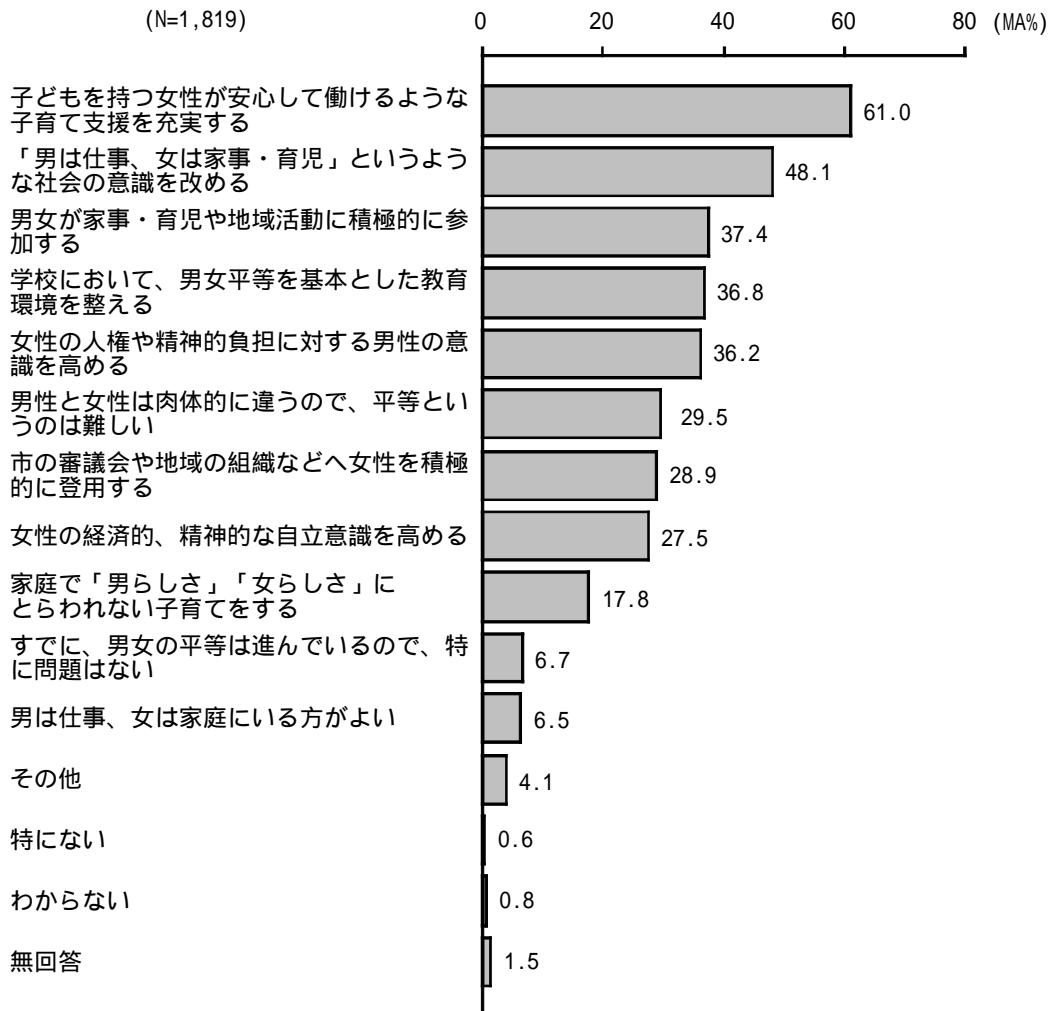


6 - 3 . 男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件

男女とも平等に個性や能力を発揮するために「子育て支援の充実」を必要とする人が約6割

問18 . あなたは、性別にかかわらず、ともに男女の人権が尊重され、その個性と能力を発揮することができる社会をつくるためには、何が必要だと思いますか(はいくつでも)

【図6 - 3 男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件】



男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件については、「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」が61.0%と最も多く、次いで「『男は仕事、女は家事・育児』というような社会の意識を改める」48.1%となっており、女性が働きやすくなるような制度の充実や社会意識の変革を求める声が大きくなっている。以下、「男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する」37.4%、「学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える」36.8%、「女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める」36.2%などとなっている。

(図6 - 3)

【表6 - 3 - 1 性・年代別 男女の人権が尊重され個性・能力を發揮するために必要な条件】

(MA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	N=1,819	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 61.0	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 48.1	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 37.4	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 36.8	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 36.2
男	20歳代 N=79	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 65.8	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 49.4	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 43.0	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 40.5	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 30.4
	30歳代 N=106	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 67.9	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 50.9	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 35.8	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 33.0	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 26.4
	40歳代 N=106	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 56.6	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 53.8	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 44.3	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 33.0	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 23.6 市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 23.6
	50歳代 N=176	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 48.3	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 39.8	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 35.8	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 35.2	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 30.1
	60歳代 N=162	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 54.9	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 45.1	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 42.6	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 38.3	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 34.6
	70歳以上 N=121	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 52.1	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 50.4	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 47.9	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 37.2	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 35.5
女	20歳代 N=148	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 81.1	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 58.1	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 48.6	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 42.6	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 39.9
	30歳代 N=187	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 77.5	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 53.5	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 46.5	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 46.5	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 28.9
	40歳代 N=186	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 66.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 59.1	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 44.6	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 39.2	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 31.2
	50歳代 N=259	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 59.5	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 45.9	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 45.2	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 35.9	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 34.0 学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 34.0
	60歳代 N=167	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 55.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 46.1	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 41.9	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 41.3	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 38.3
	70歳以上 N=116	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 45.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 39.7	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 33.6	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 31.0	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 29.3

性・年代別にみると、70歳以上の男性で「学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える」が最も多いのを除くと、男女とも、いずれの年代においても「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」が最も多く、後者の割合は、女性の場合、年代が上がるにつれて低くなっている。なお、「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」「『男は仕事、女は家事・育児』というような社会の意識を改める」「男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する」「女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める」については、全般に女性の割合が男性より高くなる傾向にある。(表6 - 3 - 1)

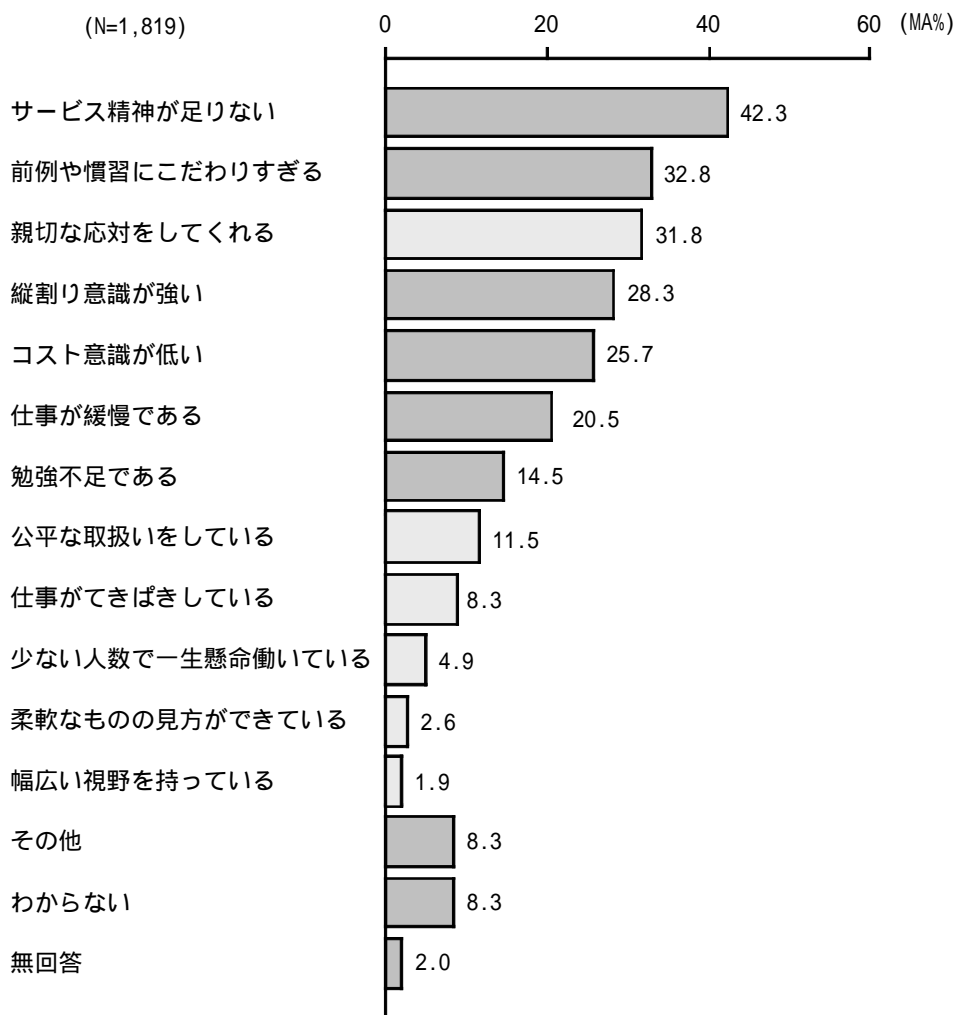
7. 市の行財政改革について

7-1. 市役所（職員）に対する印象

市役所（職員）に対する印象は、「サービス精神が足りない」（42.3%）を始めマイナス色が濃い

問19. あなたは、市役所（又は職員）に対してどのような印象をお持ちですか（はいくつでも）。

【図7-1 市役所（職員）に対する印象】



市役所（職員）に対する印象については、「サービス精神が足りない」が 42.3%と最も多く、次いで「前例や慣習にこだわりすぎる」32.8%、「親切的な対応をしてくれる」31.8%、「縦割り意識が強い」28.3%、「コスト意識が低い」25.7%、「仕事が緩慢である」20.5%となっており、全体的にマイナスイメージが強くなっている。（図7-1）

【表7-1-1 性・年代別 市役所（職員）に対する印象】

(MA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819		サービス精神が足りない 42.3	前例や慣習にこだわりすぎる 32.8	親切な対応をしてくれる 31.8	縦割り意識が強い 28.3	コスト意識が低い 25.7
男 性	20歳代 N=79	サービス精神が足りない 51.9	前例や慣習にこだわりすぎる 45.6	縦割り意識が強い 32.9	コスト意識が低い 29.1	仕事が緩慢である 24.1
	30歳代 N=106	サービス精神が足りない 44.3	コスト意識が低い 42.5	前例や慣習にこだわりすぎる 39.6	縦割り意識が強い 33.0	親切な対応をしてくれる 26.4
	40歳代 N=106	サービス精神が足りない 53.8	コスト意識が低い 46.2	前例や慣習にこだわりすぎる 42.5	仕事が緩慢である 28.3	縦割り意識が強い 24.5
	50歳代 N=176	サービス精神が足りない 43.8	コスト意識が低い 38.6	前例や慣習にこだわりすぎる 36.9	縦割り意識が強い 32.4	親切な対応をしてくれる 25.6
	60歳代 N=162	親切な対応をしてくれる 51.2	縦割り意識が強い 35.8	コスト意識が低い 34.6	前例や慣習にこだわりすぎる 32.1	サービス精神が足りない 26.5
	70歳以上 N=121	親切な対応をしてくれる 62.0	公平な取扱いをしている 30.6	前例や慣習にこだわりすぎる 27.3	縦割り意識が強い 21.5	サービス精神が足りない 20.7
女 性	20歳代 N=148	サービス精神が足りない 59.5	縦割り意識が強い 25.7	前例や慣習にこだわりすぎる 24.3	親切な対応をしてくれる 16.9	仕事が緩慢である 16.2 勉強不足である 16.2
	30歳代 N=187	サービス精神が足りない 51.9	前例や慣習にこだわりすぎる 28.3	縦割り意識が強い 25.7	親切な対応をしてくれる 25.1	コスト意識が低い 18.7
	40歳代 N=186	サービス精神が足りない 51.6	前例や慣習にこだわりすぎる 35.5	縦割り意識が強い 29.6	コスト意識が低い 24.2	親切な対応をしてくれる 19.9
	50歳代 N=259	サービス精神が足りない 41.3	前例や慣習にこだわりすぎる 32.8	親切な対応をしてくれる 27.4	縦割り意識が強い 27.0	コスト意識が低い 25.9
	60歳代 N=167	親切な対応をしてくれる 41.3	サービス精神が足りない 38.9	縦割り意識が強い 35.9	前例や慣習にこだわりすぎる 33.5	仕事が緩慢である 18.0
	70歳以上 N=116	親切な対応をしてくれる 52.6	サービス精神が足りない 21.6	前例や慣習にこだわりすぎる 20.7	公平な取扱いをしている 17.2	仕事が緩慢である 16.4

性・年代別にみると、20～50歳代では男女とも「サービス精神が足りない」が最も多いのに対して、60歳代以上では男女とも「親切な対応をしてくれる」が最も多い。年代が上がるにつれて、前者の割合は低くなる傾向にあるが、後者の割合は高くなる傾向にある。また、30～50歳代については、2位に、男性では「コスト意識が低い」が、女性では「前例や慣習にこだわりすぎる」が入っており、男女の意見が異なっている。(表7-1-1)

【表7 - 1 - 2 居住地区別 市役所（職員）に対する印象】

(MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,819	サービス精神が足りない 42.3	前例や慣習にこだわりすぎる 32.8	親切な対応をしてくれる 31.8	縦割り意識が強い 28.3	コスト意識が低い 25.7
加古川 N=369	サービス精神が足りない 41.7	前例や慣習にこだわりすぎる 35.0	親切な対応をしてくれる 34.1	縦割り意識が強い 30.9	コスト意識が低い 27.4
加古川北 N=169	サービス精神が足りない 37.9	前例や慣習にこだわりすぎる 33.7	縦割り意識が強い 30.8	親切な対応をしてくれる 29.6	コスト意識が低い 24.9
野口 N=228	サービス精神が足りない 43.4	前例や慣習にこだわりすぎる 28.9	親切な対応をしてくれる 28.1	縦割り意識が強い 27.6	コスト意識が低い 25.9
平岡 N=351	サービス精神が足りない 42.2	親切な対応をしてくれる 32.5	前例や慣習にこだわりすぎる 30.2	仕事が緩慢である 24.2	コスト意識が低い 22.8
浜の宮 N=284	サービス精神が足りない 42.6	前例や慣習にこだわりすぎる 37.7	親切な対応をしてくれる 29.2	縦割り意識が強い 28.5	コスト意識が低い 22.2
両荘 N=74	親切な対応をしてくれる 41.9	サービス精神が足りない 32.4	縦割り意識が強い 28.4	前例や慣習にこだわりすぎる 27.0	コスト意識が低い 25.7
加古川西 N=248	サービス精神が足りない 43.1	前例や慣習にこだわりすぎる 31.5	親切な対応をしてくれる 31.0	コスト意識が低い 29.8	縦割り意識が強い 28.6
志方 N=89	サービス精神が足りない 55.1	縦割り意識が強い 39.3	前例や慣習にこだわりすぎる 34.8	親切な対応をしてくれる 34.8	コスト意識が低い 32.6

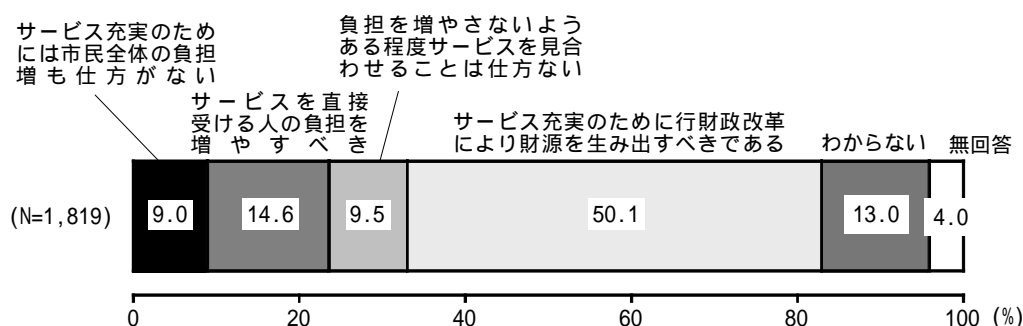
居住地区別にみると、両荘地区では「親切な対応をしてくれる」が最も多いが、それ以外の地区では「サービス精神が足りない」が最も多く、志方地区で 55.1%と最も多くなっている。(表 7 - 1 - 2)

7 - 2 . 市民サービスの水準と市民の負担の関係について

市民サービスの水準と市民の負担の関係について、「サービス充実のために行財政改革により財源を生み出すべきである」が5割を占める

問20 . 市民サービス（行政が市民に対して提供するサービス）の水準と市民の負担の関係についてどのように思いますか（ は1つだけ）

【図7 - 2 市民サービスの水準と市民の負担の関係について】



市民サービスの水準と市民の負担の関係については、「サービス充実のために行財政改革により財源を生み出すべきである」が50.1%と半数を占めている。また、「サービス充実のためには市民全体の負担増も仕方がない」は9.0%、「負担を増やさないようある程度サービスを見合わせることは仕方ない」は9.5%と、相反する意見がほぼ同率となっている。（図7 - 2）

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「サービス充実のために行財政改革により財源を生み出すべきである」が4割から6割を占め、男女とも60歳代（男性：59.9%、女性：52.1%）で最も高くなっている。なお、「サービスを直接受ける人の負担を増やすべき」は全体で14.6%であるのに対し、40歳代男性で22.6%、「サービス充実のためには市民全体の負担増も仕方がない」は全体で9.0%であるのに対し、70歳代男性で18.2%と他の年代に比べて高くなっている。（図7 - 2 - 1）

居住地区別にみると、いずれの地区においても「サービス充実のために行財政改革により財源を生み出すべきである」が3割から5割を占め、浜の宮地区で54.6%と最も高くなっている。なお「サービスを直接受ける人の負担を増やすべき」は、両荘地区で28.4%と他の地区に比べて高くなっている。（図7 - 2 - 1）

【図7 - 2 - 1 性・年代別、居住地区別 市民サービスの水準と市民の負担の関係について】

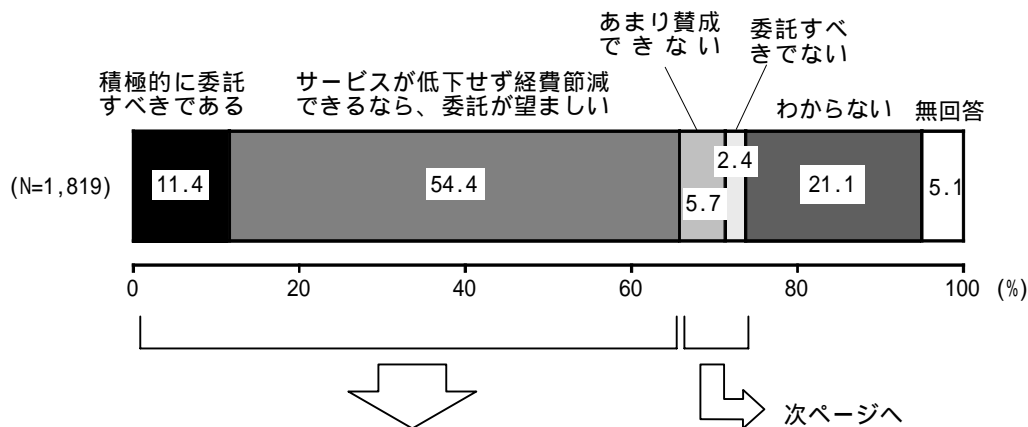


7 - 3 . 市役所の仕事の民間委託について

市役所の仕事の民間委託に賛成である人は7割弱

問21 . 市役所の仕事でも、公共施設の管理運営や学校給食、ごみ収集などのように役所が直接処理せずに、民間に委託する場合があります。あなたは民間委託について、どのように思いますか（ は1つだけ）。また、その主な理由をお書きください。

【図 7 - 3 市役所の仕事の民間委託について】



賛成する主な理由は何ですか。

【表 7 - 3 - 1 賛成する理由（10件以上の項目）】

意見総数（回答者679人）		784
意見内容	経費節減につながる	150
	コスト削減が可能となる（コスト意識の導入）	69
	サービスの向上が期待できる	66
	民間委託による仕事量の増大により、雇用の創設や拡大につながる	56
	仕事の合理化・効率化が図られる	37
	民間の仕事が増加するため、産業振興や民間企業の活性化につながる	29
	競争原理の導入が必要である	28
	人件費（人員）の削減を推進する	27
	行財政改革を推進する	26
	市役所の仕事ではサービス性が低く能率的でない	25
	仕事の迅速化など能率向上になる	22
	民間にできることは民間に任せる（民間活力の利用）	20
	市の処理能力には限界があるので、補完として民間委託が必要（官民の役割分担）	19
	民間業者の方がプロ意識を持って、責任ある堅実な仕事をしてくれる	18
	ムダを省き財源（市民税等）の有効活用を図る	16
	委託業務の管理等を市が責任を持って行う	13
	市民税など市民の負担が軽減される	13
	専門家に任せの方が安心できる	12
	質の高い仕事が期待できる	10
	節減した経費を有効活用する	10

反対する主な理由は何ですか。

【表7-3-2 反対する理由(5件以上の項目)】

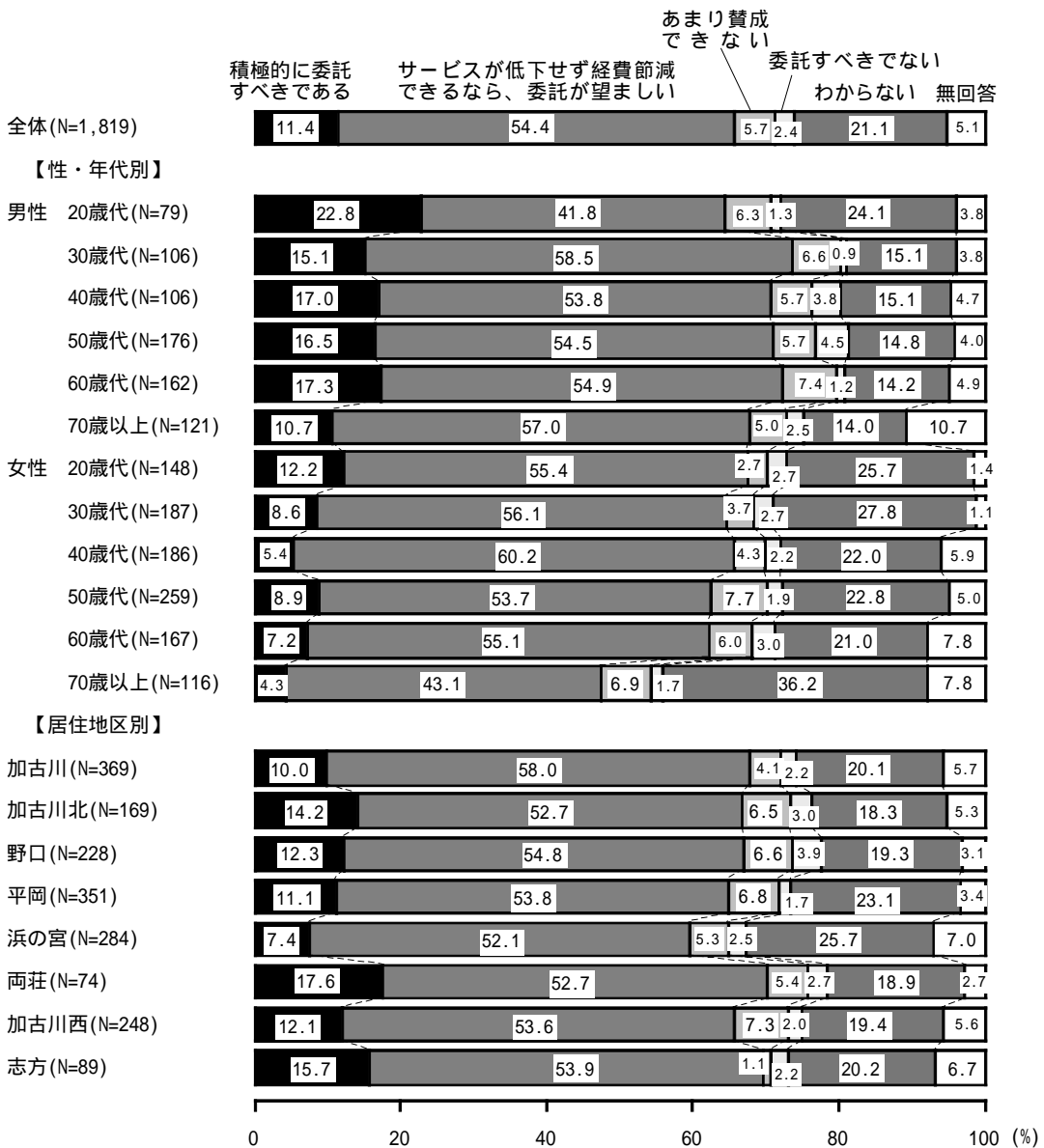
意見総数(回答者109人)		115
意見内容	公共の仕事は自らの仕事であるとの自覚のもとで、役所が責任をもって行うべきである	17
	学校給食は栄養面、衛生面で不安があるため民間委託はすべきでない	14
	サービス低下を招く	13
	営利追求のため、手抜きなどの問題が起きないか不安がある	9
	民間のゴミ収集業者は収集処理が乱雑なため環境面で問題がある	9
	責任の所在が不明確になる	6
	ゴミ処理などについて市民の負担が増大する	5

市役所の仕事の民間委託については、「サービスが低下せず経費節減できるなら、委託が望ましい」が54.4%と最も多く、「積極的に委託すべきである」11.4%を合わせると(以下、『委託賛成派』とする)全体の65.8%が民間委託について賛成意見をもっている。(図7-3)

民間委託に賛成である人(1,196人)に賛成する主な理由をたずねたところ、679人から回答を得られ総回答数は784件にのぼった。その中で10件以上の回答を得られた項目について、具体的な内容を表7-3-1に挙げた。最も件数の多い意見は「経費節減につながる」で150件にものぼっている。次いで「コスト削減が可能となる(コスト意識の導入)」69件、「サービスの向上が期待できる」66件、「民間委託による仕事量の増大により、雇用の創設や拡大につながる」56件などとなっている。

民間委託に反対である人(147人)に反対する主な理由をたずねたところ、109人から回答を得られ総回答数は115件となっている。その中で5件以上の回答を得られた項目について、具体的な内容を表7-3-2に挙げた。最も件数の多い意見は「公共の仕事は自らの仕事であるとの自覚のもとで、役所が責任をもって行なうべきである」で17件に及んでいる。次いで「学校給食は栄養面、衛生面で不安があるため民間委託はすべきでない」14件、「サービス低下を招く」13件となっている。

【図7-3-3 性・年代別、居住地区別 市役所の仕事の民間委託について】



市役所の仕事の民間委託について、性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「サービスが低下せず経費節減できるなら、委託が望ましい」が4割から6割を占め、男性では30歳代および70歳以上で約58%、女性では20～40歳代で約57%と高くなっている。なお「積極的に委託すべきである」の割合は、各年代とも男性の方が女性より高く、『委託賛成派』の割合も、20歳代を除くと男性の方が女性より高くなっている。(図7-3-3)

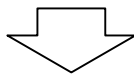
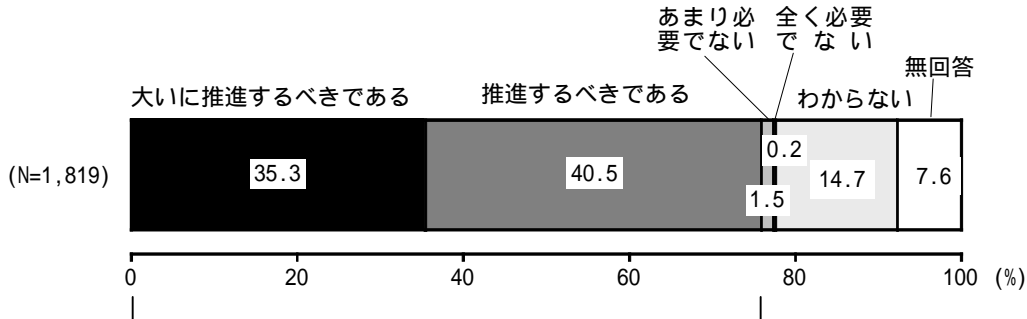
居住地区別にみると、いずれの地区においても「サービスが低下せず経費節減できるなら、委託が望ましい」が5割から6割を占め、加古川地区で58.0%と最も高くなっている。また、『委託賛成派』の割合も6割から7割を占め、両荘、志方、加古川地区で約7割と高くなっている。(図7-3-3)

7 - 4 . 市の行財政改革の取り組みについて

市の行財政改革の取り組みを推進すべきだという人が 75.8%

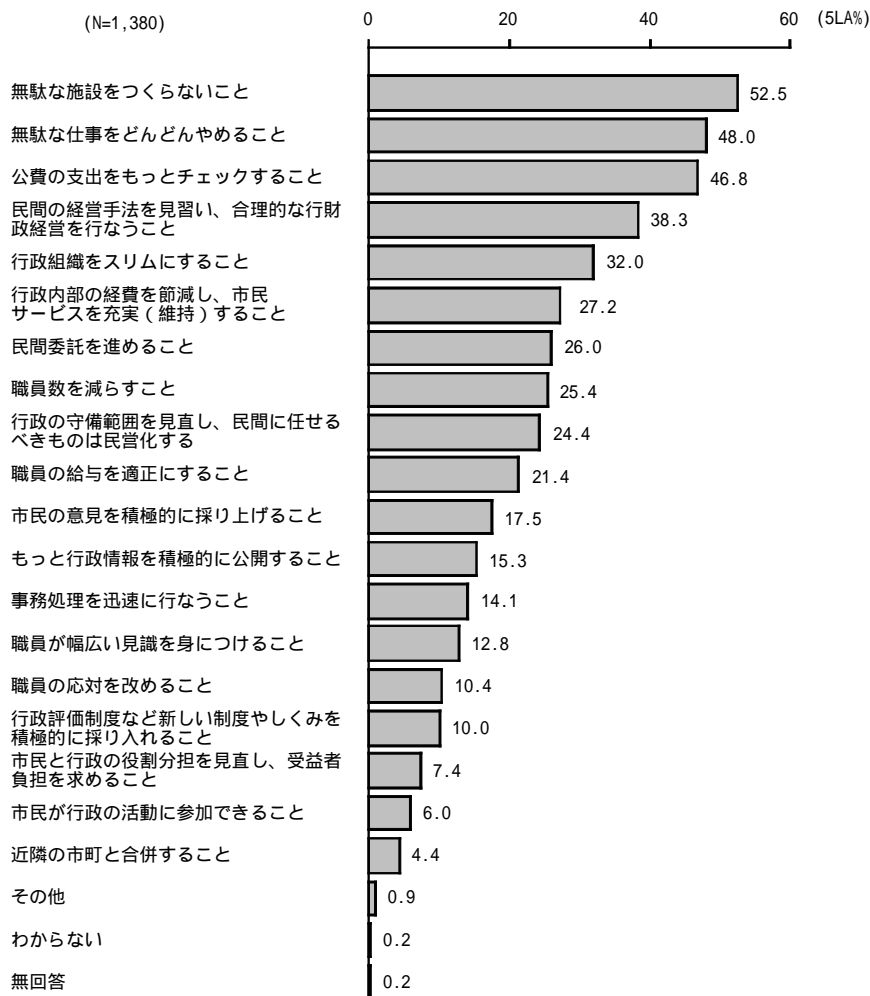
問22 . あなたは、市の行財政改革の取り組みについてどのように思いますか。(は1つだけ)

【図7 - 4 市の行財政改革の取り組みについて】



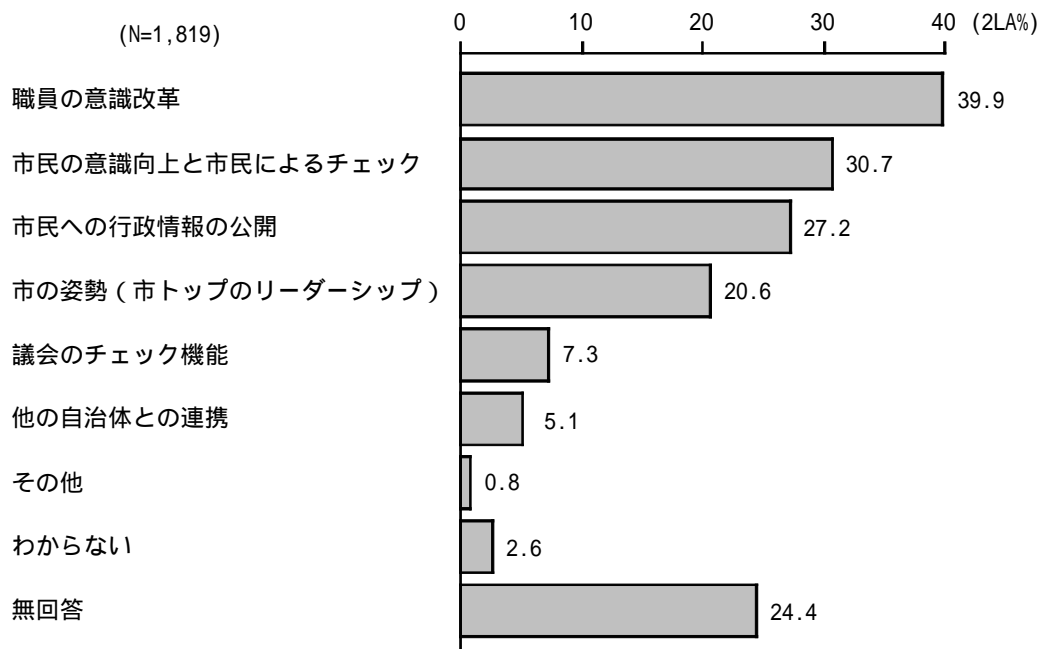
問22 - 1 . あなたは、行財政改革の取り組みで特に力を入れる必要があるのはどのような事柄だと思いますか。(は5つまで)

【図7 - 4 - 1 行財政改革で特に力を入れるべき事柄】



問22 - 2 . あなたは、行財政改革の推進にあたって、何が重要であると思いますか（は2つまで）。

【図7 - 4 - 2 行財政改革の推進にあたって重要なこと】

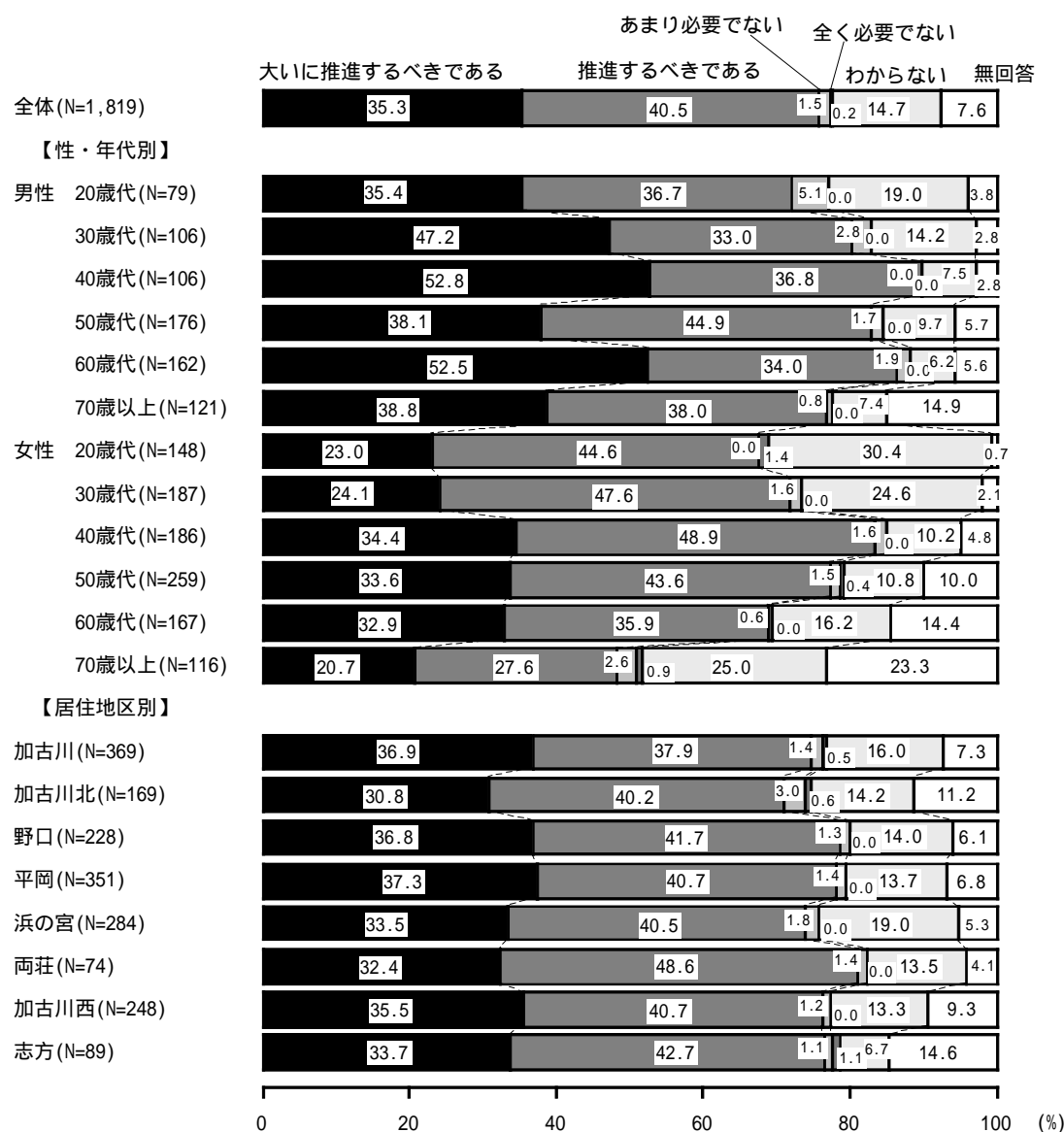


市の行財政改革の取り組みについて、「推進すべきである」40.5%、「大いに推進すべきである」35.3%が多くなっており、両者を合わせると（以下、『推進派』とする）全体の75.8%が行財政改革の取り組みを推進すべきだという考えをもっている。（図7 - 4）

また、推進派の人（1,380人）に、行財政改革で特に力を入れるべき事柄についてたずねたところ、「無駄な施設をつくらないこと」が52.5%と最も多く、次いで「無駄な仕事をどんどんやめること」48.0%、「公費の支出をもっとチェックすること」46.8%、「民間の経営手法を見習い、合理的な行財政経営を行なうこと」38.3%、「行政組織をスリムにすること」32.0%などとなっており、あらゆる面で現行財政のスリム化を求める声が高くなっている。（図7 - 4 - 1）

行財政改革の推進にあたって重要なことについては、「職員の意識改革」が39.9%と最も多く、次いで「市民の意識向上と市民によるチェック」30.7%、「市民への行政情報の公開」27.2%となっており、行政・市民両サイドの意識改革が重要視されている。（図7 - 4 - 2）

【図7-4-3 性・年代別、居住地区別 市の行財政改革の取り組みについて】



市の行財政改革の取り組みについて、性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『推進派』が5割から9割を占め、男女とも40歳代の割合（男性：89.6%、女性：83.3%）が最も高くなっている。また『推進派』の割合は、いずれの年代においても男性の方が女性より高く、その差が最も大きいのは70歳以上の28.5ポイント差である。（図7-4-3）

居住地区別にみると、いずれの地区においても『推進派』が7割から8割を占め、両荘地区で81.0%と最も高くなっている。（図7-4-3）

【表7 - 4 - 4 性・年代別 行財政改革で特に力を入れるべき事柄】

(5LA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,380		無駄な施設をつくら ないこと 52.5	無駄な仕事をど んどんやめること 48.0	公費の支出をも っとチェックす ること 46.8	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 38.3	行政組織をスリ ムにすること 32.0
男 性	20歳代 N=57	無駄な施設をつくら ないこと 59.6	無駄な仕事をど んどんやめること 57.9	公費の支出をも っとチェックす ること 47.4	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 33.3	行政組織をスリ ムにすること 26.3 職員の給与を適 正にすること 26.3
	30歳代 N=85	無駄な施設をつくら ないこと 56.5	無駄な仕事をど んどんやめること 56.5	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 47.1	公費の支出をも っとチェックす ること 43.5	行政組織をスリ ムにすること 31.8 民間委託を進め ること 31.8
		40歳代 N=95	無駄な施設をつくら ないこと 52.6	無駄な仕事をど んどんやめること 52.6	行政組織をスリ ムにすること 42.1	公費の支出をも っとチェックす ること 41.1
	50歳代 N=146	無駄な施設をつくら ないこと 56.8	行政組織をスリ ムにすること 43.2 民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 43.2	公費の支出をも っとチェックす ること 39.0	無駄な仕事をど んどんやめること 36.3	
	60歳代 N=140	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 52.9	無駄な施設をつくら ないこと 51.4 無駄な仕事をど んどんやめること 51.4	民間委託を進め ること 35.7	公費の支出をも っとチェックす ること 35.0	
		70歳以上 N=93	無駄な施設をつくら ないこと 58.1	民間委託を進め ること 38.7	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 34.4 公費の支出をも っとチェックす ること 34.4	
	20歳代 N=100		無駄な施設をつくら ないこと 49.0	公費の支出をも っとチェックす ること 46.0	無駄な仕事をど んどんやめること 37.0	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 29.0
女 性	30歳代 N=134	公費の支出をも っとチェックす ること 49.3	無駄な仕事をど んどんやめること 48.5	無駄な施設をつくら ないこと 42.5	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 35.8	行政内部の経費 を節減し、市民 サービスを充実 (維持)すること 30.6
	40歳代 N=155	公費の支出をも っとチェックす ること 64.5	無駄な施設をつくら ないこと 47.1	無駄な仕事をど んどんやめること 44.5	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 36.1	行政内部の経費 を節減し、市民 サービスを充実 (維持)すること 32.3
	50歳代 N=200	公費の支出をも っとチェックす ること 54.5	無駄な施設をつくら ないこと 52.5	無駄な仕事をど んどんやめること 44.0	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 37.5	行政組織をスリ ムにすること 33.0
	60歳代 N=115	無駄な施設をつくら ないこと 60.9	公費の支出をも っとチェックす ること 50.4	無駄な仕事をど んどんやめること 49.6	職員数を減らす こと 38.3	民間の経営手法 を見習い、合理 的な行財政経営 を行なうこと 31.3
		70歳以上 N=56	無駄な仕事をど んどんやめること 58.9	無駄な施設をつくら ないこと 48.2	公費の支出をも っとチェックす ること 42.9	職員数を減らす こと 35.7

行財政改革で特に力を入れるべき事柄について、性・年代別にみると、男性の場合、60歳代で「民間の経営手法を見習い、合理的な行財政経営を行なうこと」が最も多いが、それ以外の年代では「無駄な施設をつくらないこと」が最も多くなっている（30～40歳代および70歳以上については、「無駄な仕事をどんどんやめること」と同率）。一方、女性の場合、20歳代および60歳代では「無駄な施設をつくらないこと」が、30～50歳代では「公費の支出をもっとチェックすること」が、70歳以上では「無駄な仕事をどんどんやめること」が最も多くなっており、30～60歳代で男女の意見が異なっている。なお、「行政組織をスリムにすること」については、全体で32.0%（5位）であるのに対し、40～50歳代男性では4割強（3位）と他の年代に比べて高くなっている。（表7 - 4 - 4）

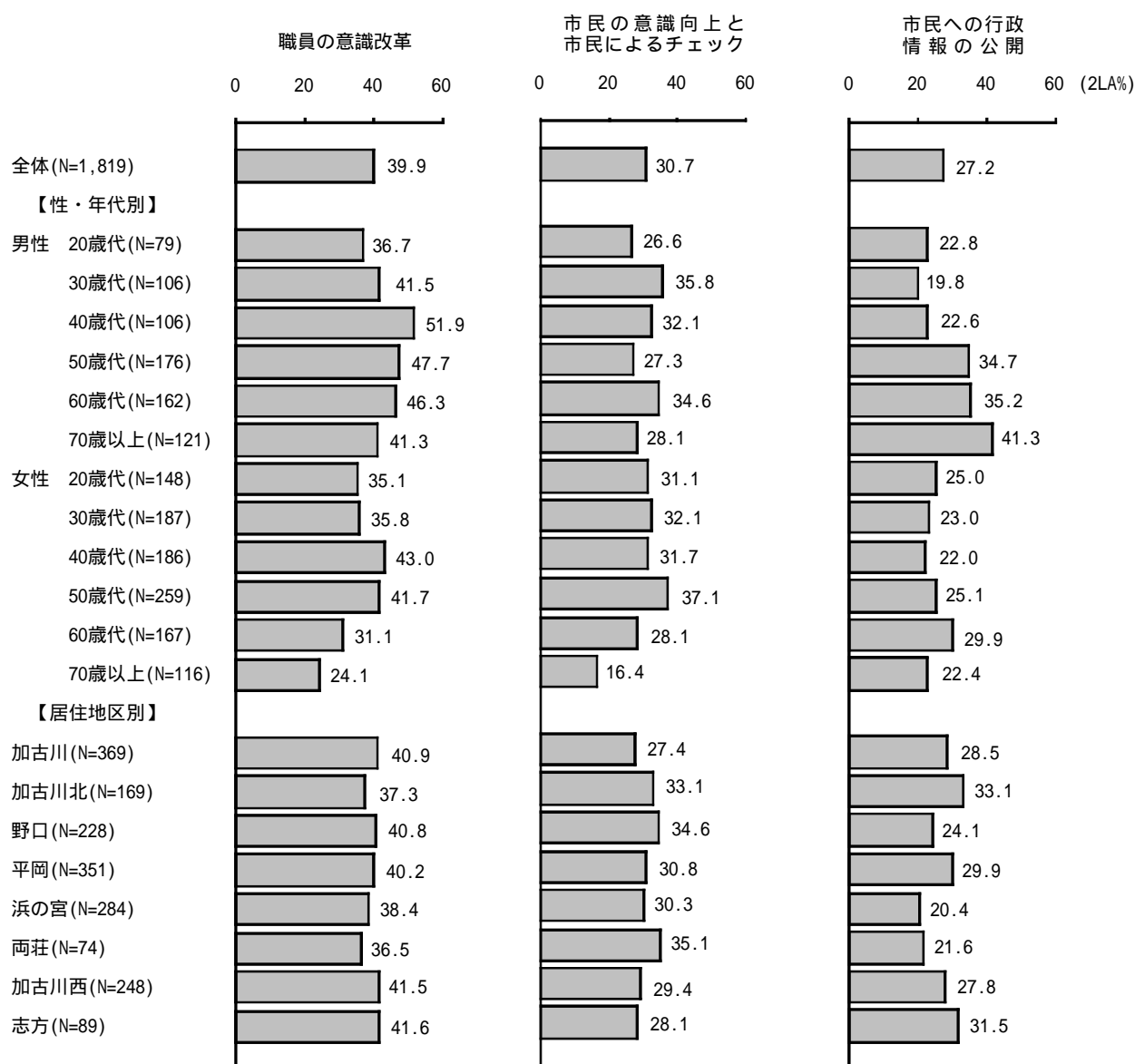
【表7 - 4 - 5 居住地区別 行財政改革で特に力を入れるべき事柄】

(5LA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 N=1,380	無駄な施設をつくら ないこと 52.5	無駄な仕事をどんど んやめること 48.0	公費の支出をもっ とチェックすること 46.8	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 38.3	行政組織をスリムに すること 32.0
加古川 N=276	無駄な施設をつくら ないこと 52.5	無駄な仕事をどんど んやめること 48.6	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 45.3	公費の支出をもっ とチェックすること 43.5	行政組織をスリムに すること 29.0
加古川北 N=120	公費の支出をもっ とチェックすること 50.0	無駄な施設をつくら ないこと 45.8	無駄な仕事をどんど んやめること 42.5	行政組織をスリムに すること 39.2	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 38.3
野口 N=179	無駄な施設をつくら ないこと 54.7	無駄な仕事をどんど んやめること 48.0	公費の支出をもっ とチェックすること 44.7	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 30.7	職員数を減らすこと 30.7
平岡 N=274	無駄な施設をつくら ないこと 52.2	公費の支出をもっ とチェックすること 47.1	無駄な仕事をどんど んやめること 46.4	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 37.6	行政組織をスリムに すること 36.1
浜の宮 N=210	公費の支出をもっ とチェックすること 56.2	無駄な施設をつくら ないこと 52.9	無駄な仕事をどんど んやめること 48.1	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 36.2	行政内部の経費を節 減し、市民サービスを 充実(維持)すること 32.4
両荘 N=60	無駄な施設をつくら ないこと 60.0	公費の支出をもっ とチェックすること 43.3	無駄な仕事をどんど んやめること 36.7	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 36.7	行政内部の経費を節 減し、市民サービスを 充実(維持)すること 30.0
加古川西 N=189	無駄な施設をつくら ないこと 51.9	無駄な仕事をどんど んやめること 51.9	公費の支出をもっ とチェックすること 45.0	民間の経営手法を見 習い、合理的な行財政 経営を行なうこと 40.7	行政組織をスリムに すること 35.4
志方 N=68	無駄な仕事をどんど んやめること 58.8	無駄な施設をつくら ないこと 52.9	公費の支出をもっ とチェックすること 38.2	職員数を減らすこと 36.8	職員の給与を適正に すること 35.3

居住地区別にみると、志方地区では「無駄な仕事をどんどんやめること」が、加古川北、浜の宮地区では「公費の支出をもっとチェックすること」が最も多いが、それ以外の地区では「無駄な施設をつくらないこと」が最も多くなっている（加古川西地区については「無駄な仕事をどんどんやめること」と同率）。なお、「民間の経営手法を見習い、合理的な行財政経営を行なうこと」は加古川地区で45.3%(3位)、「行政組織をスリムにすること」は加古川北地区で39.2%(4位)と他の地区に比べて高くなっている。(表7 - 4 - 5)

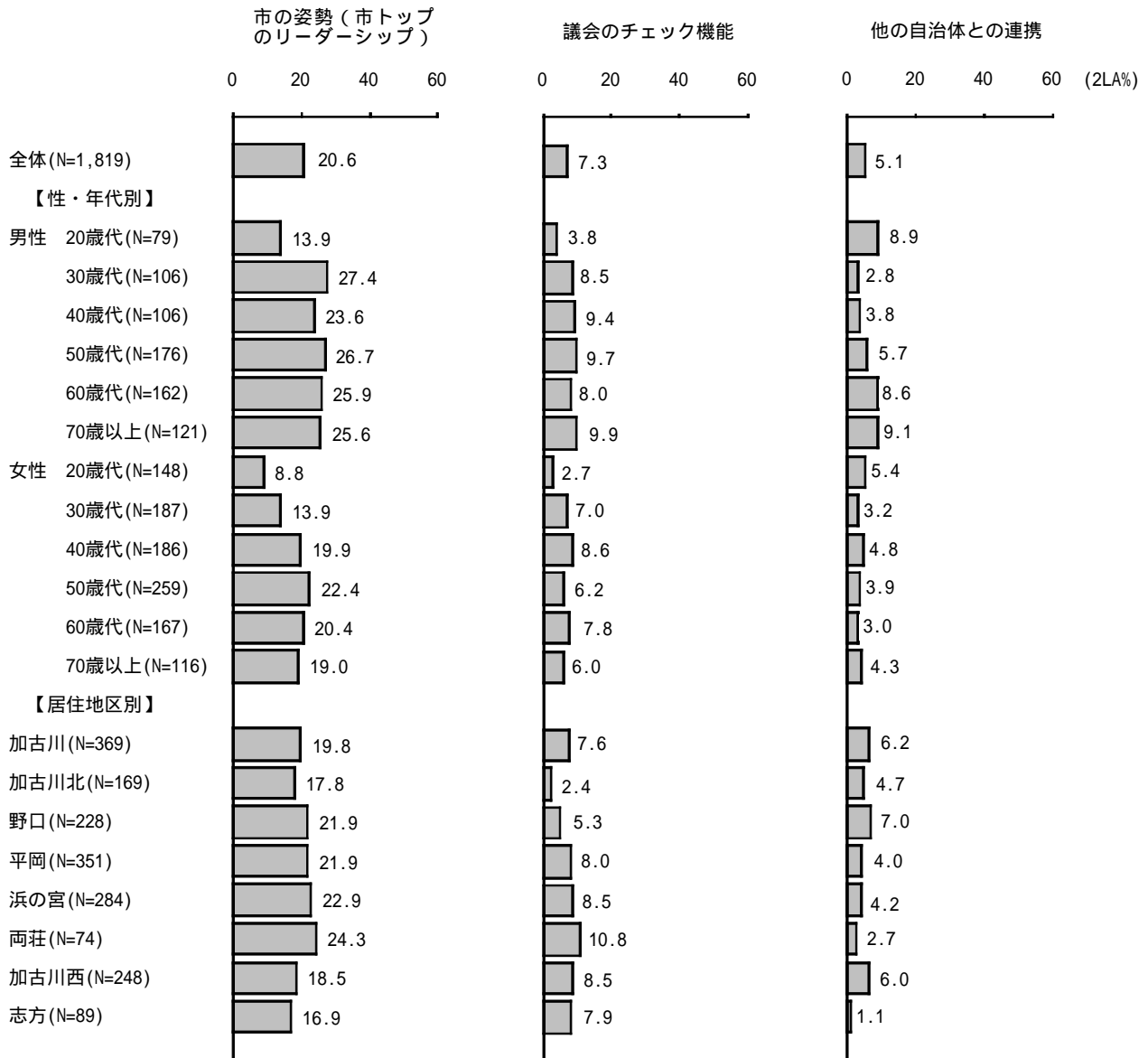
【図7-4-6-1 性・年代別、居住地区別
行財政改革の推進にあたって重要なこと(1位~3位)】



行財政改革の推進にあたって重要なことについて、性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「職員の意識改革」が最も多く(70歳以上男性については「市民への行政情報の公開」と同率)、男女とも40歳代の割合(男性:51.9%、女性:43.0%)が最も高くなっている。(図7-4-6-1、2)

居住地区別にみると、いずれの地区においても「職員の意識改革」が最も多くなっている。(図7-4-6-1、2)

【図7-4-6-2 性・年代別、居住地区別
行財政改革の推進にあたって重要なこと(4位~6位)】



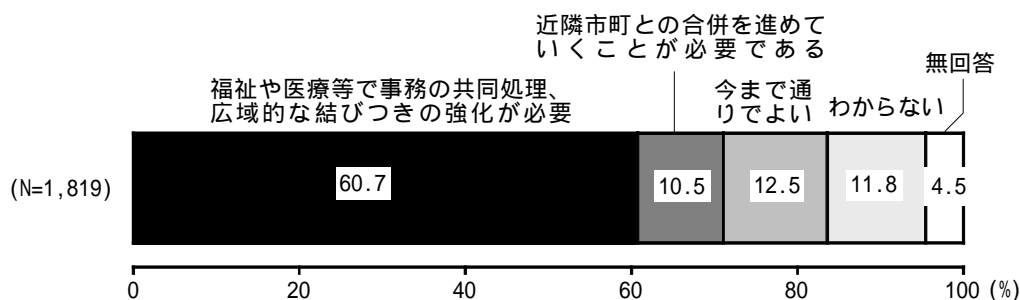
8 . 広域的なまちづくりについて

8 - 1 . 広域的なまちづくり推進のために必要な取り組み

広域的なまちづくりを進めるために「福祉や医療等で事務の共同処理、広域的な結びつきの強化が必要」とする人が6割を占める

問23 . あなたは、今後、広域的なまちづくりを進めるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(は1つだけ)

【図8 - 1 広域的なまちづくり推進のために必要な取り組み】

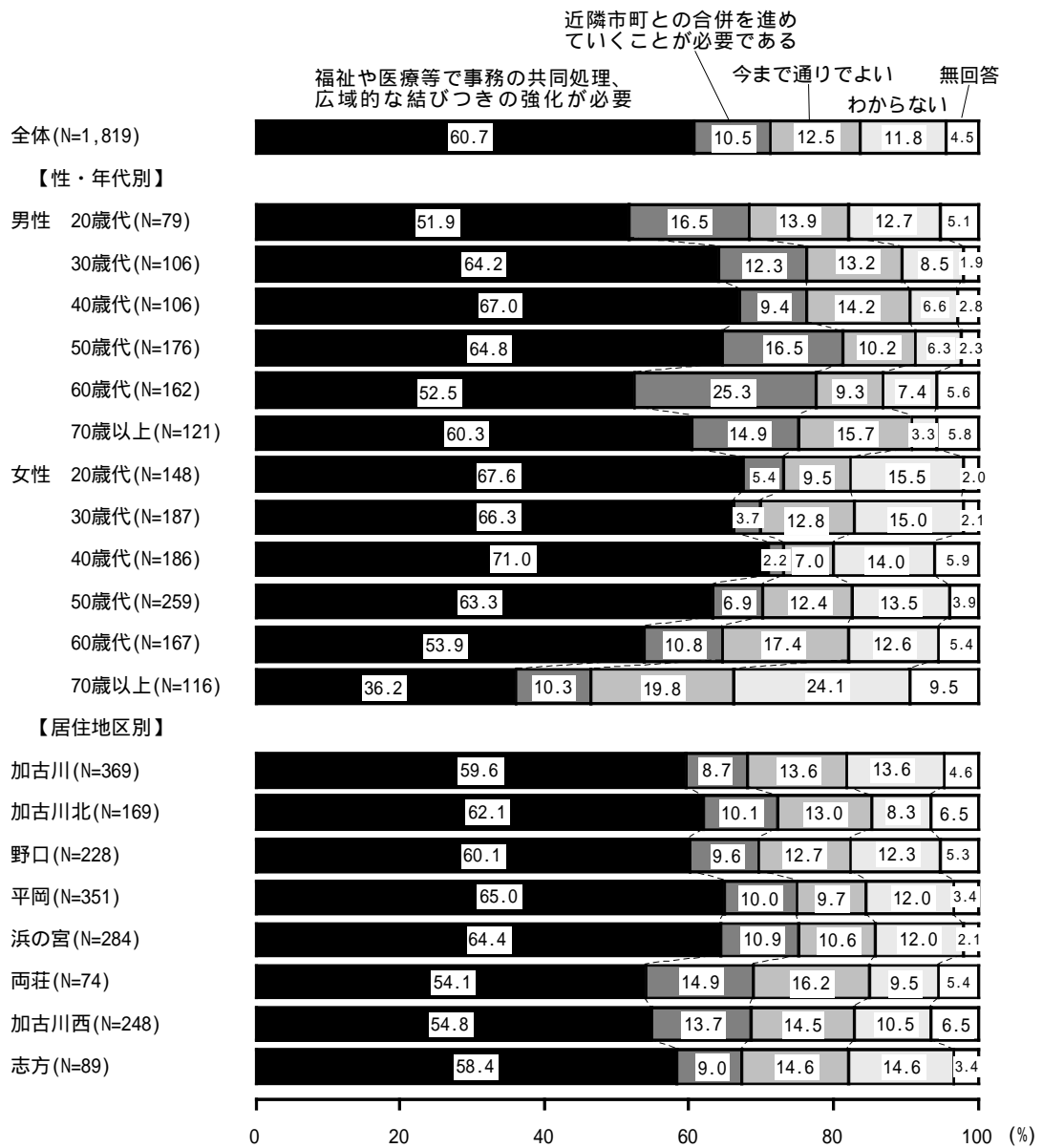


今後、広域的なまちづくりを進めるために必要な取り組みについては、「福祉や医療等で事務の共同処理、広域的な結びつきの強化が必要」とする人が60.7%と過半数を占めている。一方、「今まで通りでよい」は12.5%となっている。(図8 - 1)

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても「福祉や医療等で事務の共同処理、広域的な結びつきの強化が必要」が4割から7割を占め、男女とも40歳代の割合(男性:67.0%、女性:71.0%)が最も高くなっている。なお、「近隣市町との合併を進めていくことが必要である」の割合は、各年代とも男性の方が女性より高くなっている。(図8 - 1 - 1)

居住地区別にみると、いずれの地区においても「福祉や医療等で事務の共同処理、広域的な結びつきの強化が必要」が最も多く、平岡、浜の宮地区で約65%と最も高くなっている。一方、「今まで通りでよい」の割合は、両荘地区で16.2%と最も高くなっている。(図8 - 1 - 1)

【図8 - 1 - 1 性・年代別、居住地区別 広域的なまちづくり推進のために必要な取り組み】



9 . 住民満足度の分析

9 - 1 . 生活環境および市政全般に対する住民の満足度と重要度

先述した「 2 - 1 . 生活環境評価 」では、市民の生活環境および市政全般 40 項目に関する評価について、満足度、重要度ともにその回答比率に基づいて分析した。ここでは、さらに詳細な分析を行うために、生活環境評価項目それぞれについて、以下に示す基準のもとに得点化し、「無回答」を除いた他の項目の平均点を算出している。この得点が高いほど、満足度または重要度が高いことを意味する。

< 満足度および重要度の得点基準 >

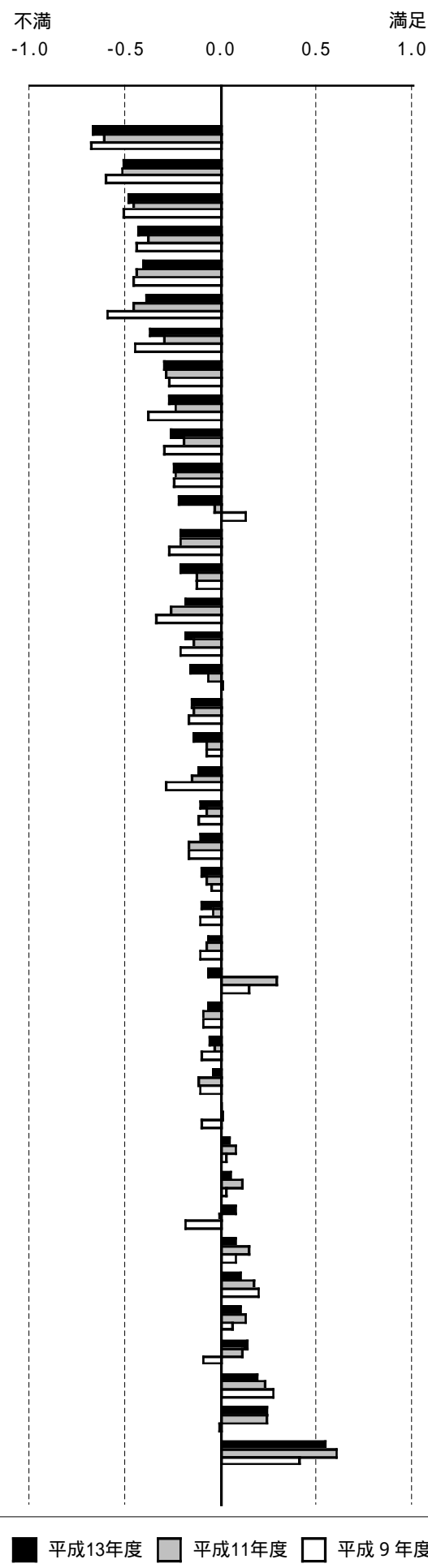
満 足 度	重 要 度	得 点
「満足」	「特に重要である」	2 点
「やや満足」	「重要度が高い」	1 点
「どちらともいえない」	「普通である」	0 点
「やや不満」	「重要度が低い」	- 1 点
「不満」	「全く重要でない」	- 2 点

図表 9 - 1 - 1 は、市全体の満足度得点平均について平成 9 年度および平成 11 年度の調査結果と比較したものである。平成 11 年度に比べて満足度の高くなった項目は、「高校、大学などの整備」「男女共同参画社会の取り組み」「地震、火災、水害などの災害対策」「道路網や橋の整備」「医療機関や診療体制」「健康増進（ウェルネス）のための施策」「河川等の水質や大気汚染対策」「下水道の整備」「水道水の安定供給と水質」「音楽会、美術展等の開催」「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」の 11 項目で、特に「高校、大学などの整備」の項目では、不満傾向（得点がマイナスの値）から満足傾向（得点がプラスの値）に移行している。しかし、25 項目については満足度が低下しており、特に「鉄道の利便性」の項目では、満足傾向から不満傾向へ移行している（40 項目中 2 項目は、平成 11 年度と値が変化していない）。

次に、重要度の得点平均についてみると、平成 11 年度より重要度が高まったのは、「高校、大学などの整備」「情報化社会への対応」「バスの利便性」「保育所などの児童福祉施策」「幼稚園、小・中学校の施設や教育内容」「史跡、伝統文化等の保護」「青少年の健全育成」の 7 項目のみで、残りの 28 項目については重要度の高まりが小さくなっている（40 項目中 5 項目は、平成 11 年度と値が変化していない）。（図表 9 - 1 - 2）

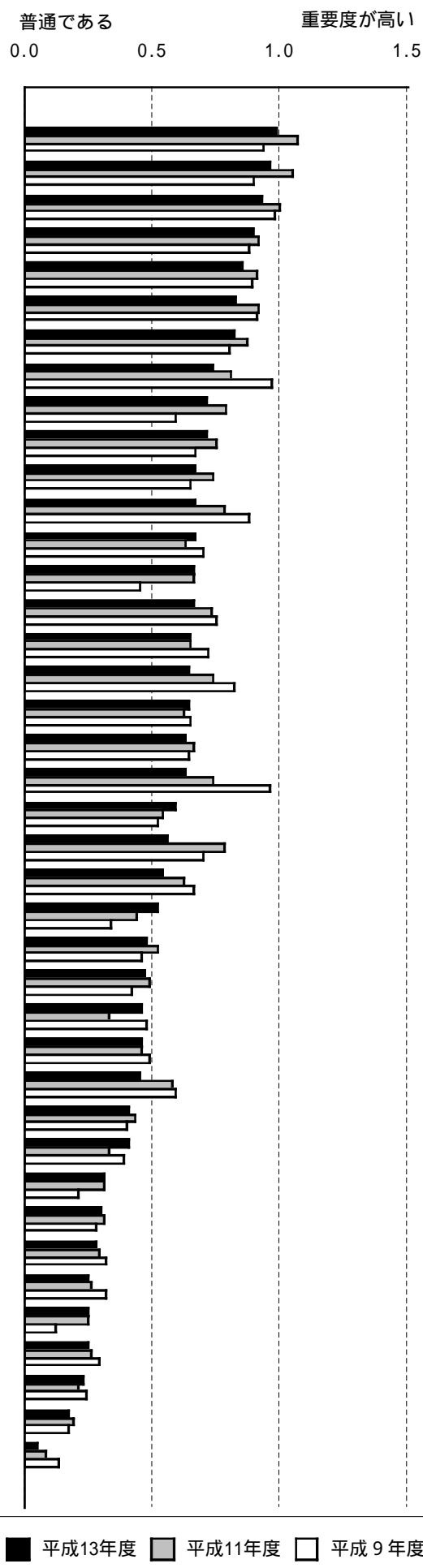
【図表9 - 1 - 1 満足度得点平均】

項目	得点		
	H13	H11	H9
バスの利便性	-0.67	-0.61	-0.68
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	-0.51	-0.52	-0.60
自宅周辺の道路の広さや舗装	-0.48	-0.46	-0.51
騒音、振動、悪臭等の対策	-0.43	-0.38	-0.44
河川等の水質や大気汚染対策	-0.41	-0.44	-0.46
道路網や橋の整備	-0.39	-0.46	-0.59
ゆとりと潤いのあるまちなみ	-0.37	-0.30	-0.45
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	-0.30	-0.29	-0.27
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	-0.27	-0.24	-0.38
青少年の健全育成	-0.26	-0.19	-0.30
公園や緑地の整備	-0.25	-0.24	-0.25
商業の振興	-0.22	-0.03	0.13
高齢者への福祉施策	-0.21	-0.21	-0.27
保育所などの児童福祉施策	-0.21	-0.13	-0.13
地震、火災、水害などの災害対策	-0.18	-0.26	-0.34
心身障害者（児）への福祉施策	-0.18	-0.14	-0.21
工業の振興	-0.16	-0.07	0.01
国際化への対応	-0.15	-0.14	-0.17
農林水産業の振興	-0.14	-0.08	-0.08
下水道の整備	-0.12	-0.15	-0.29
母（父）子家庭への福祉施策	-0.11	-0.08	-0.12
医療機関や診療体制	-0.11	-0.17	-0.17
情報化社会への対応	-0.10	-0.08	-0.05
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	-0.10	-0.04	-0.11
音楽会、美術展等の開催	-0.07	-0.08	-0.11
鉄道の利便性	-0.07	0.29	0.15
水道水の安定供給と水質	-0.07	-0.09	-0.09
緑化、自然保護の推進	-0.06	-0.03	-0.10
男女共同参画社会の取り組み	-0.04	-0.12	-0.11
まちづくりへの市民参加	0.00	0.01	-0.10
生涯学習、文化サークル活動	0.04	0.08	0.03
体力づくり、スポーツ活動の振興	0.05	0.11	0.03
高校、大学などの整備	0.08	-0.01	-0.18
ごみの収集、処理対策	0.08	0.15	0.08
住民健診や生活習慣病予防活動	0.10	0.17	0.20
史跡、伝統文化等の保護	0.10	0.13	0.06
健康増進（ウエルネス）のための施策	0.14	0.11	-0.09
隣近所とのつきあい、交流	0.19	0.23	0.27
市役所、市民センターの利用のしやすさ	0.24	0.24	-0.01
日常の買い物の利便性	0.54	0.61	0.41



【図表9 - 1 - 2 重要度得点平均】

項目	得点		
	H13	H11	H9
河川等の水質や大気汚染対策	0.99	1.07	0.94
ごみの収集、処理対策	0.96	1.05	0.90
水道水の安定供給と水質	0.93	1.00	0.98
地震、火災、水害などの災害対策	0.90	0.92	0.88
医療機関や診療体制	0.85	0.91	0.89
高齢者への福祉施策	0.83	0.92	0.91
騒音、振動、悪臭等の対策	0.82	0.87	0.80
下水道の整備	0.74	0.81	0.97
日常の買い物の利便性	0.71	0.79	0.59
緑化、自然保護の推進	0.71	0.75	0.67
心身障害者（児）への福祉施策	0.67	0.74	0.65
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	0.67	0.78	0.88
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	0.67	0.63	0.70
市役所、市民センターの利用のしやすさ	0.66	0.66	0.45
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	0.66	0.73	0.75
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	0.65	0.65	0.72
自宅周辺の道路の広さや舗装	0.64	0.74	0.82
青少年の健全育成	0.64	0.62	0.65
住民健診や生活習慣病予防活動	0.63	0.66	0.64
道路網や橋の整備	0.63	0.74	0.96
保育所などの児童福祉施策	0.59	0.54	0.52
鉄道の利便性	0.56	0.78	0.70
公園や緑地の整備	0.54	0.62	0.66
情報化社会への対応	0.52	0.44	0.34
母（父）子家庭への福祉施策	0.48	0.52	0.46
商業の振興	0.47	0.49	0.42
高校、大学などの整備	0.46	0.33	0.48
隣近所とのつきあい、交流	0.46	0.46	0.49
ゆとりと潤いのあるまちなみ	0.45	0.58	0.59
健康増進（ウエルネス）のための施策	0.41	0.43	0.40
バスの利便性	0.41	0.33	0.39
工業の振興	0.31	0.31	0.21
まちづくりへの市民参加	0.30	0.31	0.28
生涯学習、文化サークル活動	0.28	0.29	0.32
男女共同参画社会の取り組み	0.25	0.26	0.32
農林水産業の振興	0.25	0.25	0.12
体力づくり、スポーツ活動の振興	0.25	0.26	0.29
史跡、伝統文化等の保護	0.23	0.21	0.24
国際化への対応	0.17	0.19	0.17
音楽会、美術展等の開催	0.05	0.08	0.13



9 - 2 . 住民のニーズ

住民のニーズの高さを見るため、経済企画庁国民生活局の「国民生活選好度調査」を参考として、生活環境 40 項目の満足度および重要度の得点（各 5 段階評価）により、ニーズ得点（下記参考）を各項目ごとに設定し、その得点の平均値を算出した。

参考 ニーズ得点の求め方

$$(\text{ニーズ得点}) = (\text{重要度}) \times (6 - \text{満足度})$$

注) 満足度および重要度の 5 段階評価に下表のような得点を設定する。

満足度	重要度	得点
「満足」	「特に重要である」	5 点
「やや満足」	「重要度が高い」	4 点
「どちらともいえない」	「普通である」	3 点
「やや不満」	「重要度が低い」	2 点
「不満」	「全く重要でない」	1 点

なお、ここで、(6 - 満足度) は不満度を意味する。ニーズ得点の範囲は 1 ~ 25 点となり、得点が高いほどニーズが高いことを意味する。

ニーズ得点は、重要度および満足度によって変化し、重要度が高くなるほど、また満足度が低くなるほどその得点傾向は高くなる。したがって、重要度の高さが満足度の高さにより相殺され、ニーズ得点が高くない場合もある。

【ニーズ得点順位表】

順番	満足度	得点	重要度	得点	ニーズ得点
1	不満	1	特に重要	5	25
2	やや不満	2	特に重要	5	20
	不満	1	重要度が高い	4	20
3	やや不満	2	重要度が高い	4	16
4	不満	1	普通	3	15
	どちらでもない	3	特に重要	5	15
5	やや不満	2	普通	3	12
	どちらでもない	3	重要度が高い	4	12
6	やや満足	4	特に重要	5	10
	不満	1	重要度が低い	2	10
7	どちらでもない	3	普通	3	9
8	やや不満	2	重要度が低い	2	8
	やや満足	4	重要度が高い	4	8
9	やや満足	4	普通	3	6
	どちらでもない	3	重要度が低い	2	6
10	不満	1	全く重要でない	1	5
	満足	5	特に重要	5	5
11	やや不満	2	全く重要でない	1	4
	やや満足	4	重要度が低い	2	4
	満足	5	重要度が高い	4	4
12	どちらでもない	3	全く重要でない	1	3
	満足	5	普通	3	3
13	やや満足	4	全く重要でない	1	2
	満足	5	重要度が低い	2	2
14	満足	5	全く重要でない	1	1

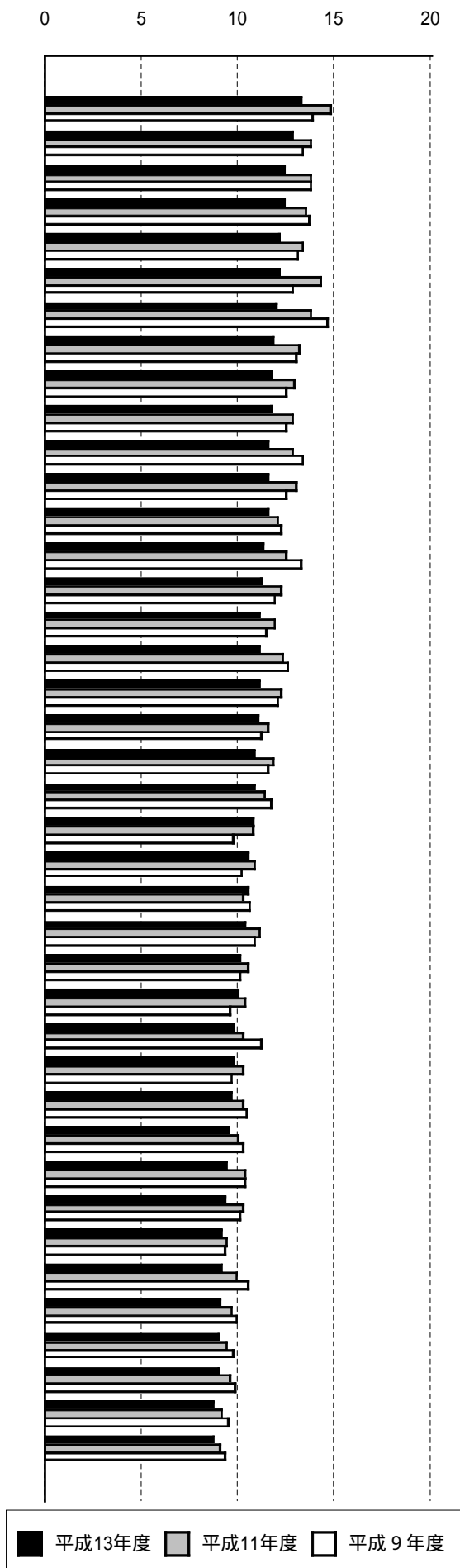
図表9 - 2は、市全体のニーズ得点平均について平成9年度および平成11年度の調査結果と比較したものである。平成11年度に比べて得点平均が高くなっているのは、40項目中1項目で「鉄道の利便性」となっているが、ほとんど差はみられない。これ以外の39項目については、平成11年度より得点平均が低く、なかでも差が大きかったのは「バスの利便性」「道路網や橋の整備」で約2点低くなっている。以下「河川等の水質や大気汚染対策」「医療機関や診療体制」「自宅周辺の道路の広さや舗装」「高齢者への福祉対策」「介護保険の取り組み（在宅介護への支援）」「下水道の整備」「地震、火災、水害などの災害対策」「水道水の安定供給と水質」「ゆとりと潤いのあるまちなみ」「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」「信号機、ガードレールなどの交通安全施設」「公園や緑地の整備」「心身障害者（児）への福祉対策」「男女共同参画社会の取り組み」の14項目が1点以上低くなっている。

表9 - 2 - 1は、居住地区別にニーズ得点平均の上位5項目についてまとめ、かつ平成9年度および平成11年度の調査結果と比較したものである。市全体では、平成11年度と同様に「河川等の水質や大気汚染対策」の得点が最も高くなっている。各地区ごとにみると、野口地区では「自宅周辺の道路の広さや舗装」、平岡、浜の宮地区では「河川等の水質や大気汚染対策」、両荘、加古川西、志方地区では「下水道の整備」が最も高く、平成11年度から変化がみられない。

一方、加古川地区では「騒音、振動、悪臭等の対策」、加古川北地区では「鉄道の利便性」が最も高く、いずれも平成11年度では上位5項目以内に入っていない項目が上がっており、ニーズに変化がみられる。

【図表9 - 2 ニーズ得点平均】

項目	得点		
	H13	H11	H9
河川等の水質や大気汚染対策	13.27	14.81	13.89
騒音、振動、悪臭等の対策	12.82	13.78	13.34
自宅周辺の道路の広さや舗装	12.44	13.77	13.76
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	12.39	13.57	13.68
地震、火災、水害などの災害対策	12.14	13.34	13.10
バスの利便性	12.14	14.26	12.83
道路網や橋の整備	11.99	13.81	14.65
高齢者への福祉施策	11.84	13.16	12.99
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	11.76	12.90	12.47
水道水の安定供給と水質	11.68	12.86	12.45
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	11.59	12.83	13.34
医療機関や診療体制	11.58	12.97	12.46
青少年の健全育成	11.53	12.06	12.28
下水道の整備	11.31	12.53	13.29
心身障害者（児）への福祉施策	11.19	12.26	11.91
ごみの収集、処理対策	11.14	11.92	11.49
ゆとりと潤いのあるまちなみ	11.14	12.32	12.60
公園や緑地の整備	11.11	12.24	12.12
保育所などの児童福祉施策	11.08	11.54	11.22
緑化、自然保護の推進	10.91	11.78	11.54
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	10.83	11.40	11.72
商業の振興	10.79	10.81	9.78
情報化社会への対応	10.54	10.89	10.21
鉄道の利便性	10.52	10.27	10.60
母（父）子家庭への福祉施策	10.34	11.18	10.89
住民健診や生活習慣病予防活動	10.05	10.50	10.14
工業の振興	10.00	10.38	9.61
高校、大学などの整備	9.78	10.27	11.23
農林水産業の振興	9.75	10.23	9.68
市役所、市民センターの利用のしやすさ	9.68	10.23	10.45
まちづくりへの市民参加	9.52	10.00	10.24
男女共同参画社会の取り組み	9.37	10.40	10.38
国際化への対応	9.31	10.24	10.09
隣近所とのつきあい、交流	9.17	9.46	9.35
健康増進（ウェルネス）のための施策	9.15	9.92	10.55
生涯学習、文化サークル活動	9.10	9.68	9.89
体力づくり、スポーツ活動の振興	8.99	9.44	9.78
音楽会、美術展等の開催	8.96	9.61	9.80
史跡、伝統文化等の保護	8.75	9.19	9.53
日常の買い物の利便性	8.70	9.04	9.35



【表9-2-1 居住地区別 ニーズ得点平均(上位5項目)】

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
市 全 体	平成13年度 (N=1,819)	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.27	騒音、振動、悪臭等の 対策 12.82	自宅周辺の道路の広さ や舗装 12.44	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 12.39	地震、火災、水害などの 災害対策 12.14
	平成11年度 (N=2,092)	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.81	バスの利便性 14.26	道路網や橋の整備 13.81	騒音、振動、悪臭等の 対策 13.78	自宅周辺の道路の広さや 舗装 13.77
	平成9年度 (N=4,192)	道路網や橋の整備 14.65	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.89	自宅周辺の道路の広さ や舗装 13.76	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 13.68	在宅介護への支援 13.34
加 古 川	平成13年度 (N=369)	騒音、振動、悪臭等の 対策 13.19	河川等の水質や大気の 汚染対策 12.82	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 12.71	道路網や橋の整備 12.36	自宅周辺の道路の広さや 舗装 12.33
	平成11年度 (N=423)	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 14.44	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.29	道路網や橋の整備 13.97	バスの利便性 13.86	自宅周辺の道路の広さや 舗装 13.49
	平成9年度 (N=795)	道路網や橋の整備 14.43	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 14.07	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.66	自宅周辺の道路の広さ や舗装 13.40	騒音、振動、悪臭等の対 策 13.17
加 古 川 北	平成13年度 (N=169)	鉄道の利便性 13.07	バスの利便性 12.81	河川等の水質や大気の 汚染対策 12.82	道路網や橋の整備 12.42	下水道の整備 12.40
	平成11年度 (N=207)	バスの利便性 14.56	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.22	道路網や橋の整備 13.51	地震、火災、水害など の災害対策 13.13	医療機関や診療体制 12.84
	平成9年度 (N=429)	道路網や橋の整備 14.74	バスの利便性 13.34	在宅介護への支援 13.07	下水道の整備 13.04	河川等の水質や大気の汚 染対策 13.03
野 口	平成13年度 (N=228)	自宅周辺の道路の広さ や舗装 13.91	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.35	騒音、振動、悪臭等の 対策 12.99	道路網や橋の整備 12.89	信号機、ガードレールな どの交通安全施設 12.73
	平成11年度 (N=270)	自宅周辺の道路の広さ や舗装 15.32	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.16	道路網や橋の整備 14.32	バスの利便性 14.30	地震、火災、水害などの 災害対策 14.09
	平成9年度 (N=519)	道路網や橋の整備 15.45	自宅周辺の道路の広さ や舗装 15.00	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 14.49	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.83	下水道の整備 13.56
平 岡	平成13年度 (N=351)	河川等の水質や大気の 汚染対策 13.56	騒音、振動、悪臭等の 対策 13.05	自宅周辺の道路の広さ や舗装 13.02	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 13.02	地震、火災、水害などの 災害対策 12.25
	平成11年度 (N=393)	河川等の水質や大気の 汚染対策 15.17	バスの利便性 14.68	道路網や橋の整備 14.51	騒音、振動、悪臭等の 対策 14.39	自宅周辺の道路の広さや 舗装 14.28
	平成9年度 (N=793)	道路網や橋の整備 15.24	自宅周辺の道路の広さ や舗装 14.50	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.16	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 13.96	騒音、振動、悪臭等の対 策 13.79
浜 の 宮	平成13年度 (N=284)	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.53	騒音、振動、悪臭等の 対策 13.73	バスの利便性 13.07	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 12.63	高齢者への福祉施策 12.44
	平成11年度 (N=344)	河川等の水質や大気の 汚染対策 15.88	騒音、振動、悪臭等の 対策 15.11	バスの利便性 14.50	高齢者への福祉 13.50	地震、火災、水害などの 災害対策 13.35
	平成9年度 (N=652)	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.73	騒音、振動、悪臭等の 対策 14.57	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 14.06	バスの利便性 13.60	在宅介護への支援 13.42
両 荘	平成13年度 (N=74)	下水道の整備 14.58	河川等の水質や大気の 汚染対策 12.50	日常の買い物の利便性 12.35	商業の振興 12.28	バスの利便性 11.99
	平成11年度 (N=100)	下水道の整備 16.16	バスの利便性 15.65	道路網や橋の整備 15.15	河川等の水質や大気の 汚染対策 15.09	日常の買物の利便性 13.45
	平成9年度 (N=191)	道路網や橋の整備 15.97	下水道の整備 15.95	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.36	バスの利便性 14.14	鉄道の利便性 13.92
加 古 川 西	平成13年度 (N=248)	下水道の整備 14.29	河川等の水質や大気の 汚染対策 12.85	騒音、振動、悪臭等の 対策 12.32	地震、火災、水害など の災害対策 12.31	自宅周辺での子どもの遊 び場の確保 12.19
	平成11年度 (N=250)	下水道の整備 16.56	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.08	自宅周辺の道路の広さ や舗装 14.03	自宅周辺での子どもの 遊び場の確保 13.93	水道水の安定供給と水質 13.54
	平成9年度 (N=565)	下水道の整備 17.06	道路網や橋の整備 14.81	自宅周辺の道路の広さ や舗装 14.10	地震、火災、水害など の災害対策 13.63	河川等の水質や大気の汚 染対策 13.61
志 方	平成13年度 (N=89)	下水道の整備 14.84	河川等の水質や大気の 汚染対策 12.67	自宅周辺の道路の広さ や舗装 12.58	騒音、振動、悪臭等の 対策 12.17	バスの利便性 12.04
	平成11年度 (N=96)	下水道の整備 16.42	バスの利便性 14.26	河川等の水質や大気の 汚染対策 14.08	在宅介護への支援 13.46	道路網や橋の整備 13.30
	平成9年度 (N=226)	下水道の整備 17.20	自宅周辺の道路の広さ や舗装 13.92	道路網や橋の整備 13.70	バスの利便性 13.38	在宅介護への支援 13.34

9 - 3 . 住民のニーズと住みやすさとの関係

生活環境評価 40 項目における住民のニーズと、市の住みやすさ評価との関係の強さを明らかにするために、相関係数（下記参考）を算出した。

参考 相関係数について

相関係数とは、一方の変数が増加すれば他方の変数も増加するか（正の相関）あるいは減少するか（負の相関）の傾向を示す、関係の強さを計る尺度のことである。

正の相関のときは、相関係数はプラスの値をとり、反対に負の相関のときはマイナスの値をとる。相関が最大のときは「プラス1」または「マイナス1」となり、相関がみられないときは0となる。

例えば、「住みにくい」という回答者の《ゆとり潤いのまちなみ》のニーズ得点は高いが、「住みやすい」という回答者の《ゆとり潤いのまちなみ》のニーズ得点は低い場合、負の相関係数が強くなる。一方、「住みにくい」という回答者の《ゆとり潤いのまちなみ》のニーズ得点が高く、かつ「住みやすい」という回答者の《ゆとり潤いのまちなみ》のニーズ得点も高い場合、相関係数は弱いことになる。

市全体の相関係数を平成9年度および平成11年度調査結果と比較したものが図表9-3-1である。最も相関係数の高い項目は「日常の買い物の利便性」で、次いで「自宅周辺の道路の広さや舗装」「道路網や橋の整備」「市役所、市民センターの利用のしやすさ」「鉄道の利便性」と高くなっている。平成11年度の調査結果と比較すると、前回2位に入っていた項目が順位を上げ、今回は最も相関係数の高い項目となっている。前回上位5項目以内に入っていた4項目については順位が前後しているものの、今回も同じ項目が入っている。しかし、前回1位の「ゆとりと潤いのあるまちなみ」は今回6位と順位を下げ、新たに「市役所、市民センターの利用のしやすさ」が前回34位から今回4位に順位を上げている。全体を通して平成11年度よりも相関係数の値が低くなっており、特に「水道水の安定供給と水質」「騒音、振動、悪臭等の対策」「情報化社会への対応」「河川等の水質や大気汚染対策」「保育所などの児童福祉施策」等については、他の項目に比べて相関係数の低下が大きくなっている。

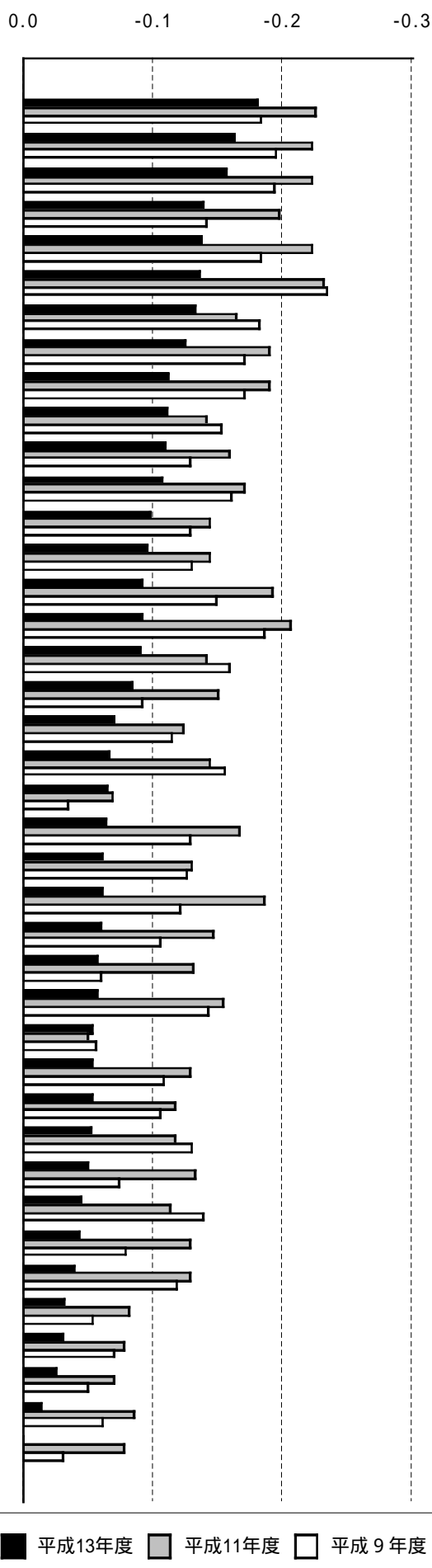
一方、相関係数の低い項目は「国際化への対応」「生涯学習、文化サークル活動」「工業の振興」「史跡、伝統文化等の保護」「体力づくり、スポーツ活動の振興」等で、平成11年度調査で相関係数の低かった「音楽会、美術展等の開催」については、相関係数は前回に比べて高くなっている。

次に、ニーズ得点平均と住みやすさ評価との相関係数を横軸、ニーズ得点平均を縦軸として散布図に表したものが図9-3-2-1から図9-3-10-2で、市全体および各地区ごとに平成11年度との比較を行っている。

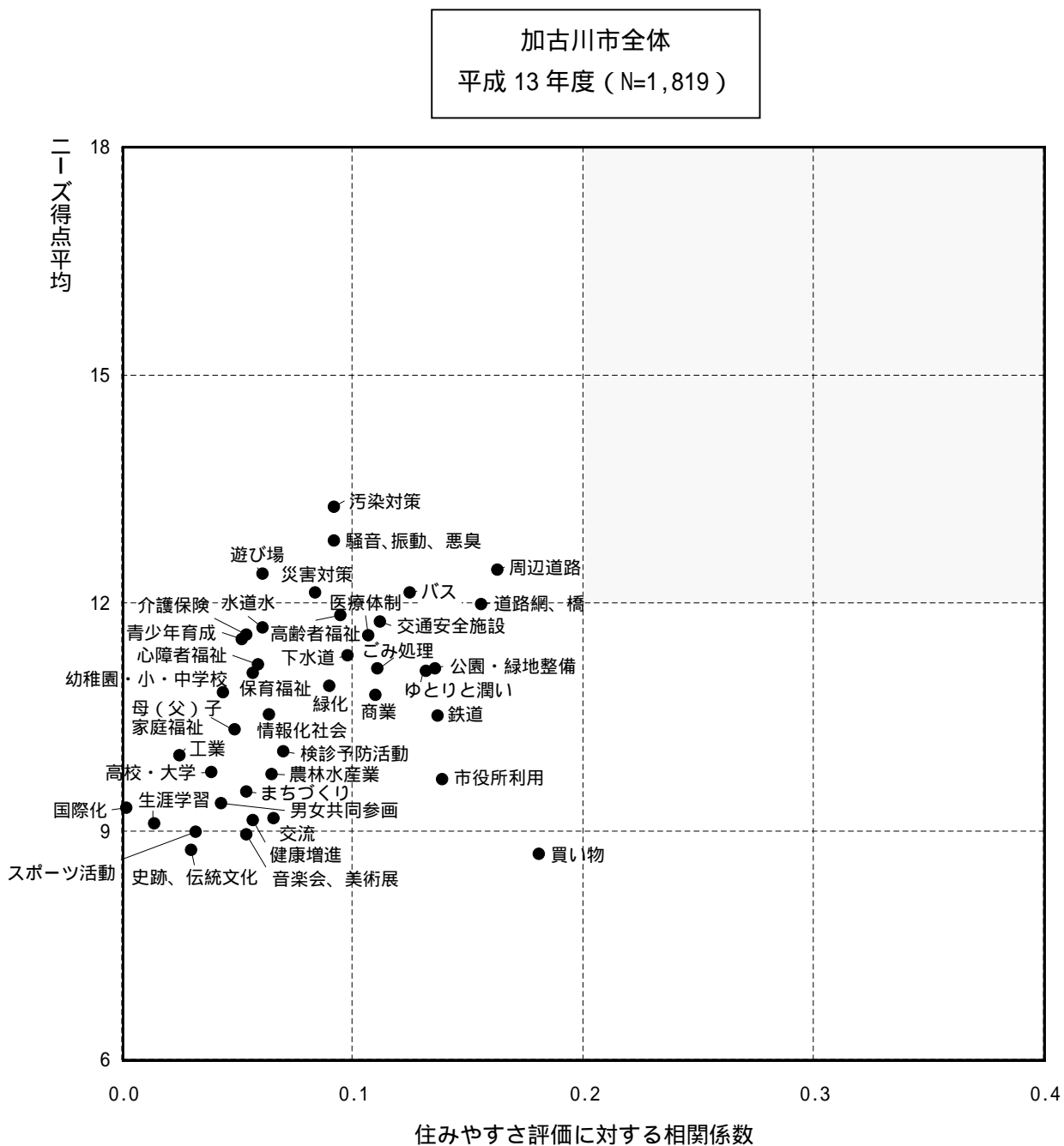
先述の相関係数の値は、加古川市の住みやすさ評価に対して与えている影響の強さを表すものと考えられることから、ニーズ得点が大きく（＝ニーズが高い）この相関係数の値も大きい項目について何らかの方策を講じた場合には、住みやすさに対する評価に大きく影響することが考えられる。そこで、市全体および各地区ごとの相関係数とニーズ得点平均の散布図を、平成11年度の調査結果と比較検討していく。

【図表9-3-1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との相関係数】

項目	得点		
	H13	H11	H9
日常の買い物の利便性	-0.181	-0.226	-0.184
自宅周辺の道路の広さや舗装	-0.163	-0.223	-0.195
道路網や橋の整備	-0.156	-0.223	-0.194
市役所、市民センターの利用のしやすさ	-0.139	-0.198	-0.141
鉄道の利便性	-0.137	-0.223	-0.183
ゆとりと潤いのあるまちなみ	-0.136	-0.231	-0.234
公園や緑地の整備	-0.132	-0.164	-0.182
バスの利便性	-0.125	-0.190	-0.170
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	-0.112	-0.190	-0.171
ごみの収集、処理対策	-0.111	-0.142	-0.152
商業の振興	-0.110	-0.159	-0.128
医療機関や診療体制	-0.107	-0.171	-0.161
下水道の整備	-0.098	-0.144	-0.128
高齢者への福祉施策	-0.095	-0.144	-0.130
河川等の水質や大気汚染対策	-0.092	-0.192	-0.149
騒音、振動、悪臭等の対策	-0.092	-0.206	-0.186
緑化、自然保護の推進	-0.090	-0.141	-0.159
地震、火災、水害などの災害対策	-0.084	-0.150	-0.092
住民健診や生活習慣病予防活動	-0.070	-0.123	-0.114
隣近所とのつきあい、交流	-0.066	-0.144	-0.155
農林水産業の振興	-0.065	-0.069	-0.034
情報化社会への対応	-0.064	-0.167	-0.129
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	-0.061	-0.130	-0.126
水道水の安定供給と水質	-0.061	-0.186	-0.121
心身障害者（児）への福祉施策	-0.059	-0.146	-0.106
健康増進（ウェルネス）のための施策	-0.057	-0.131	-0.059
保育所などの児童福祉施策	-0.057	-0.154	-0.142
音楽会、美術展等の開催	-0.054	-0.049	-0.056
まちづくりへの市民参加	-0.054	-0.128	-0.108
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	-0.054	-0.117	-0.105
青少年の健全育成	-0.052	-0.118	-0.130
母（父）子家庭への福祉施策	-0.049	-0.133	-0.074
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	-0.044	-0.114	-0.139
男女共同参画社会の取り組み	-0.043	-0.129	-0.079
高校、大学などの整備	-0.039	-0.128	-0.118
体力づくり、スポーツ活動の振興	-0.032	-0.081	-0.053
史跡、伝統文化等の保護	-0.030	-0.077	-0.070
工業の振興	-0.025	-0.070	-0.050
生涯学習、文化サークル活動	-0.014	-0.085	-0.061
国際化への対応	0.002	-0.078	-0.030



【図9 - 3 - 2 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

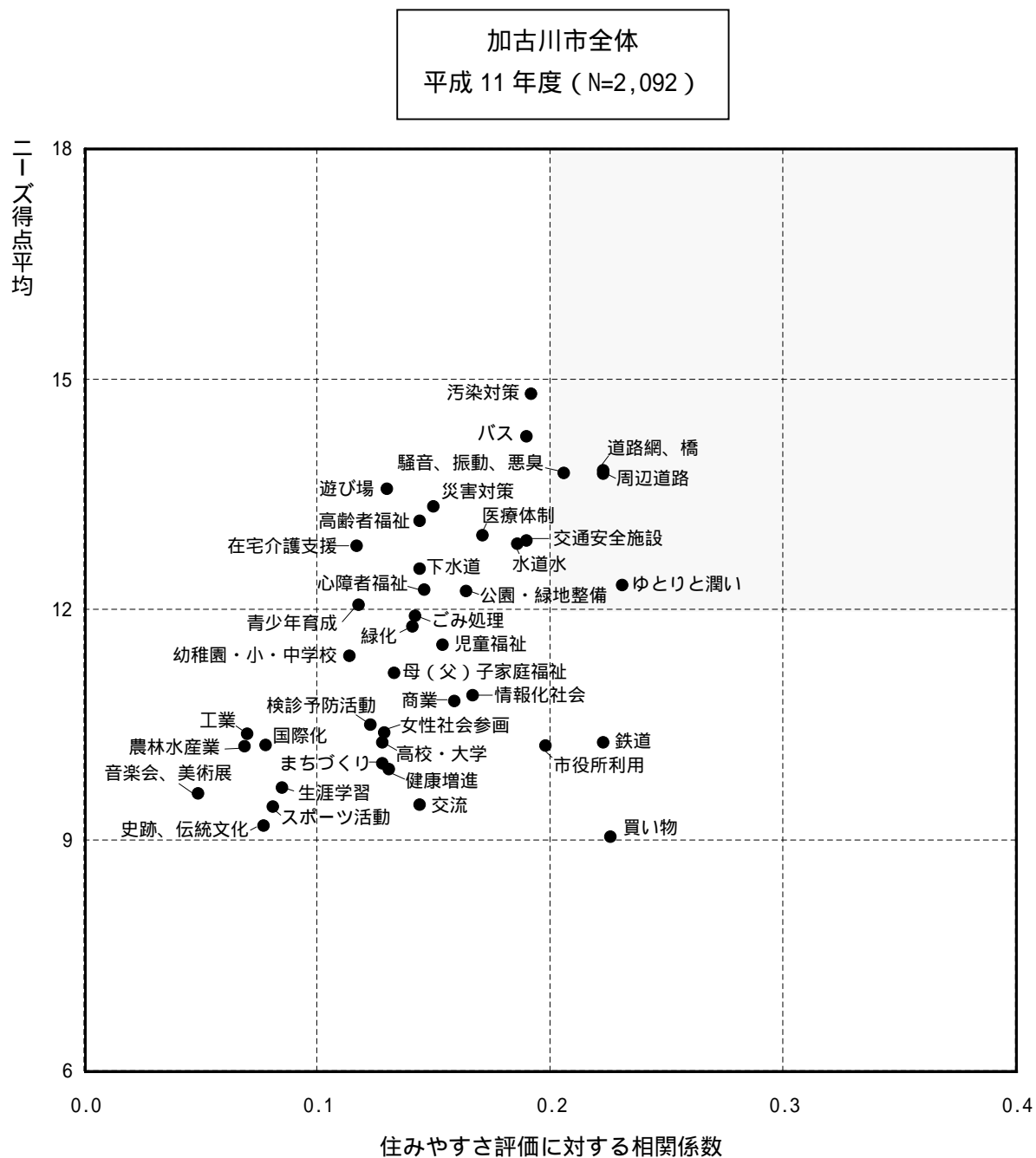


注) 相関係数の絶対値を図示している。

加古川市全体では、ニーズ得点が高く住みやすさ評価に対する相関係数が高い項目は、「自宅周辺の道路の広さや舗装」「道路網や橋の整備」となっている。

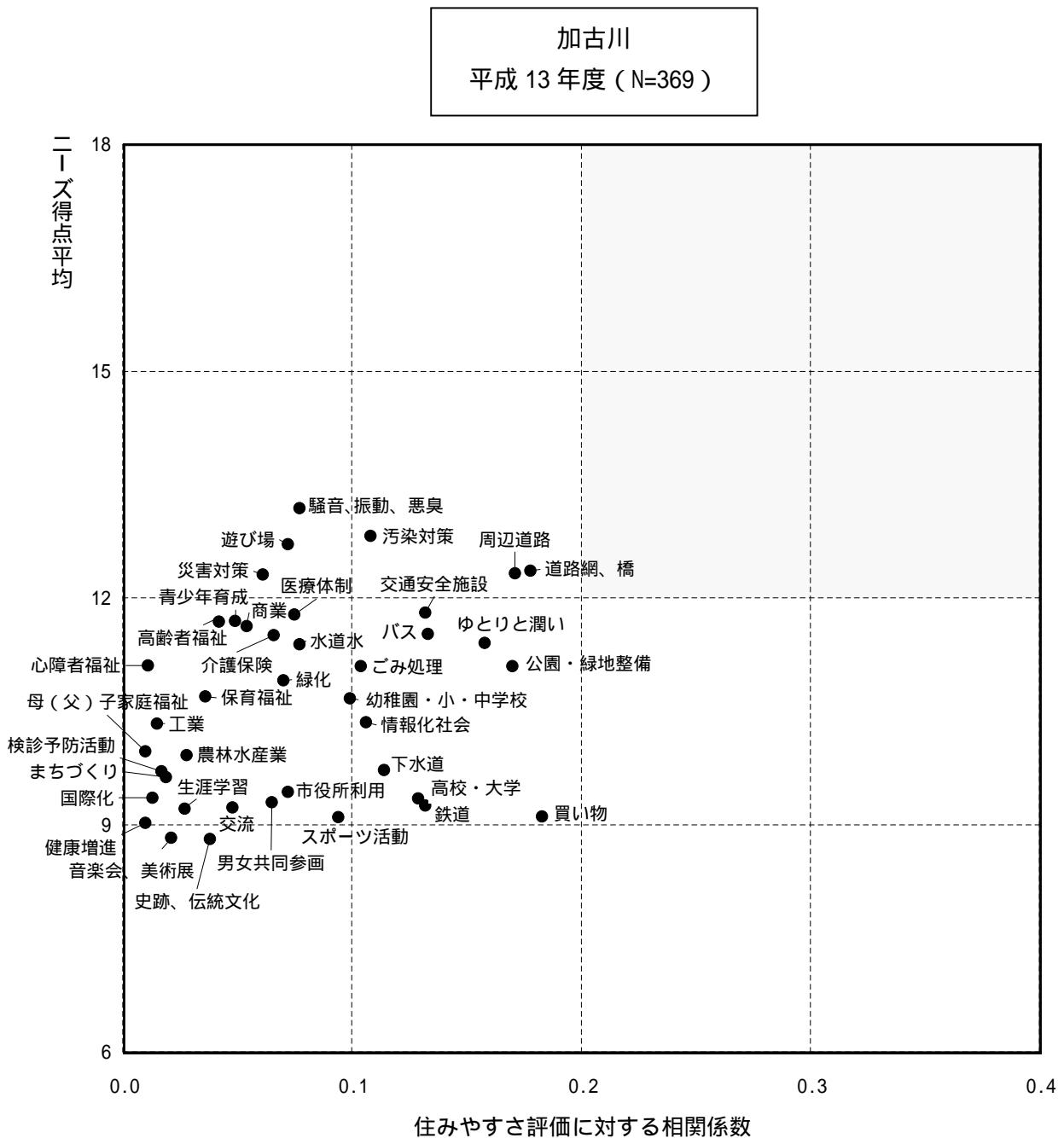
平成11年度調査結果と比較すると、全体を通してニーズ得点が低くなっており、前回上位項目であった「騒音、振動、悪臭等の対策」「ゆとりと潤いのあるまちなみ」は相関係数が大きく低下している。

【図9 - 3 - 2 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

【図9 - 3 - 3 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

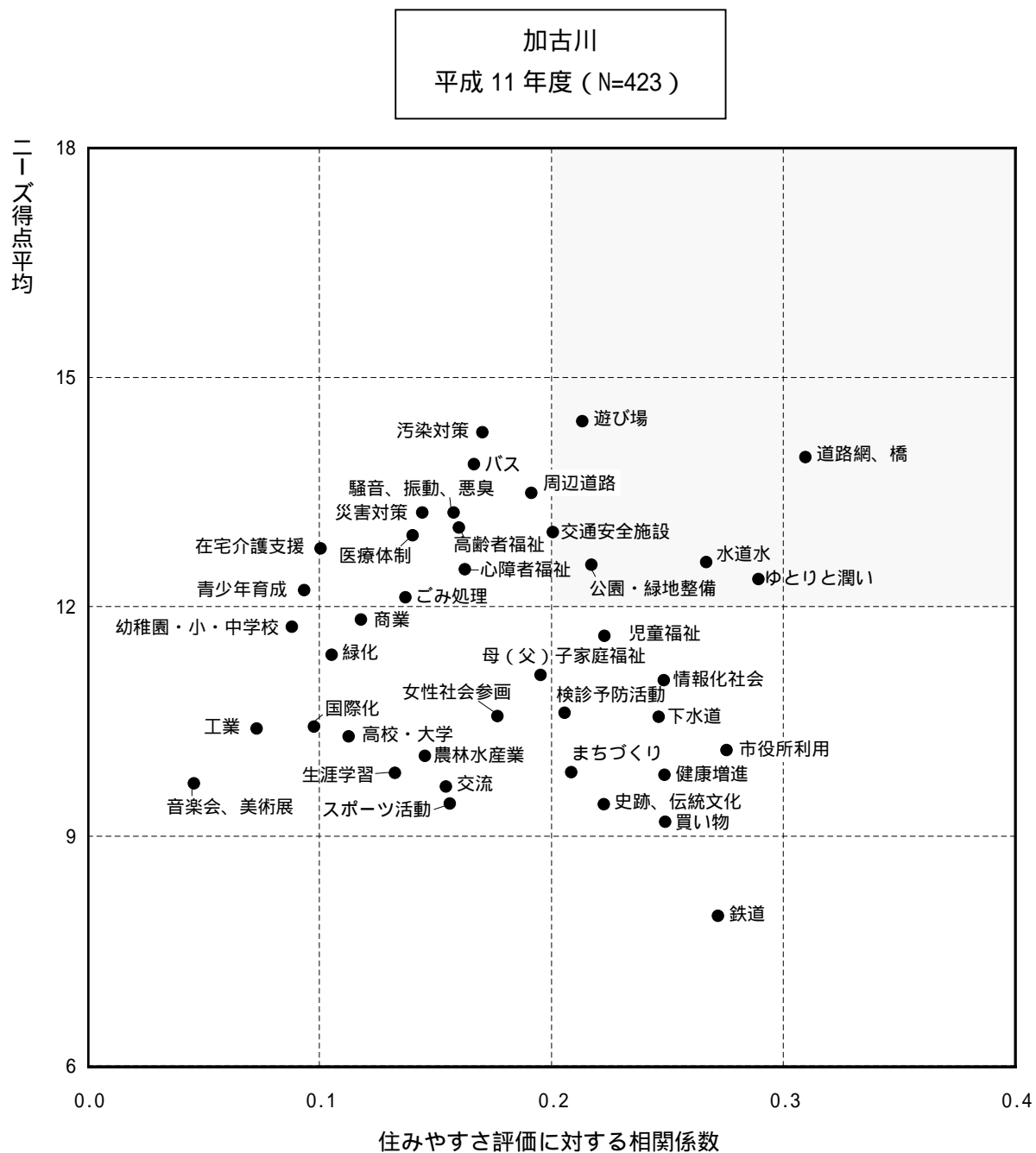


注) 相関係数の絶対値を図示している。

加古川地区では、市全体と同様に「自宅周辺の道路の広さや舗装」「道路網や橋の整備」があがっている。ニーズがやや低くなるものの、「ゆとりと潤いのあるまちなみ」「公園や緑地の整備」が次いでいる。

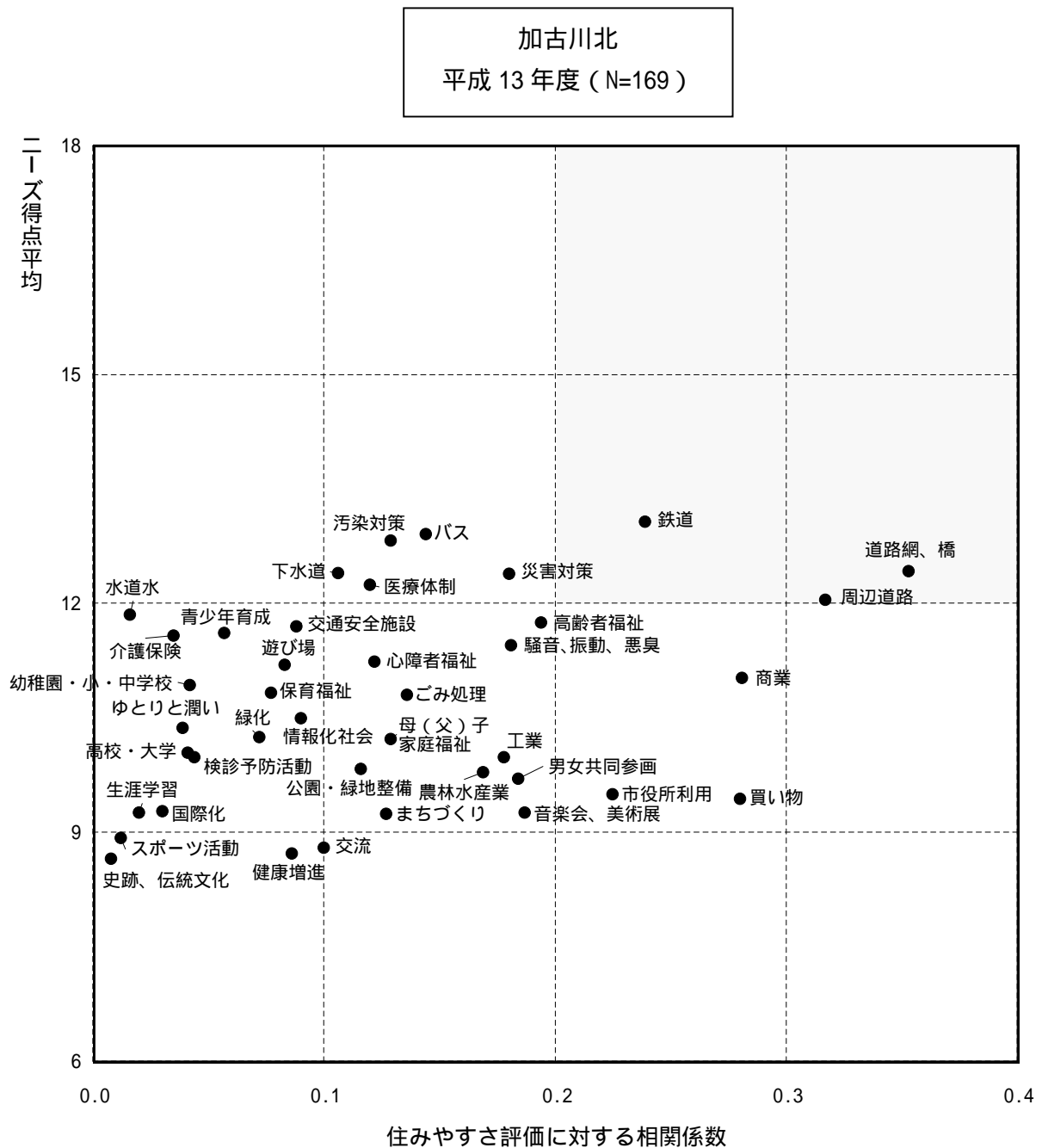
平成 11 年度調査結果と比較すると、前回の上位項目にあがっていた「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」「水道水の安定供給と水質」については、ニーズ得点、相関係数ともに著しく低下している。

【図9 - 3 - 3 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

【図9 - 3 - 4 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

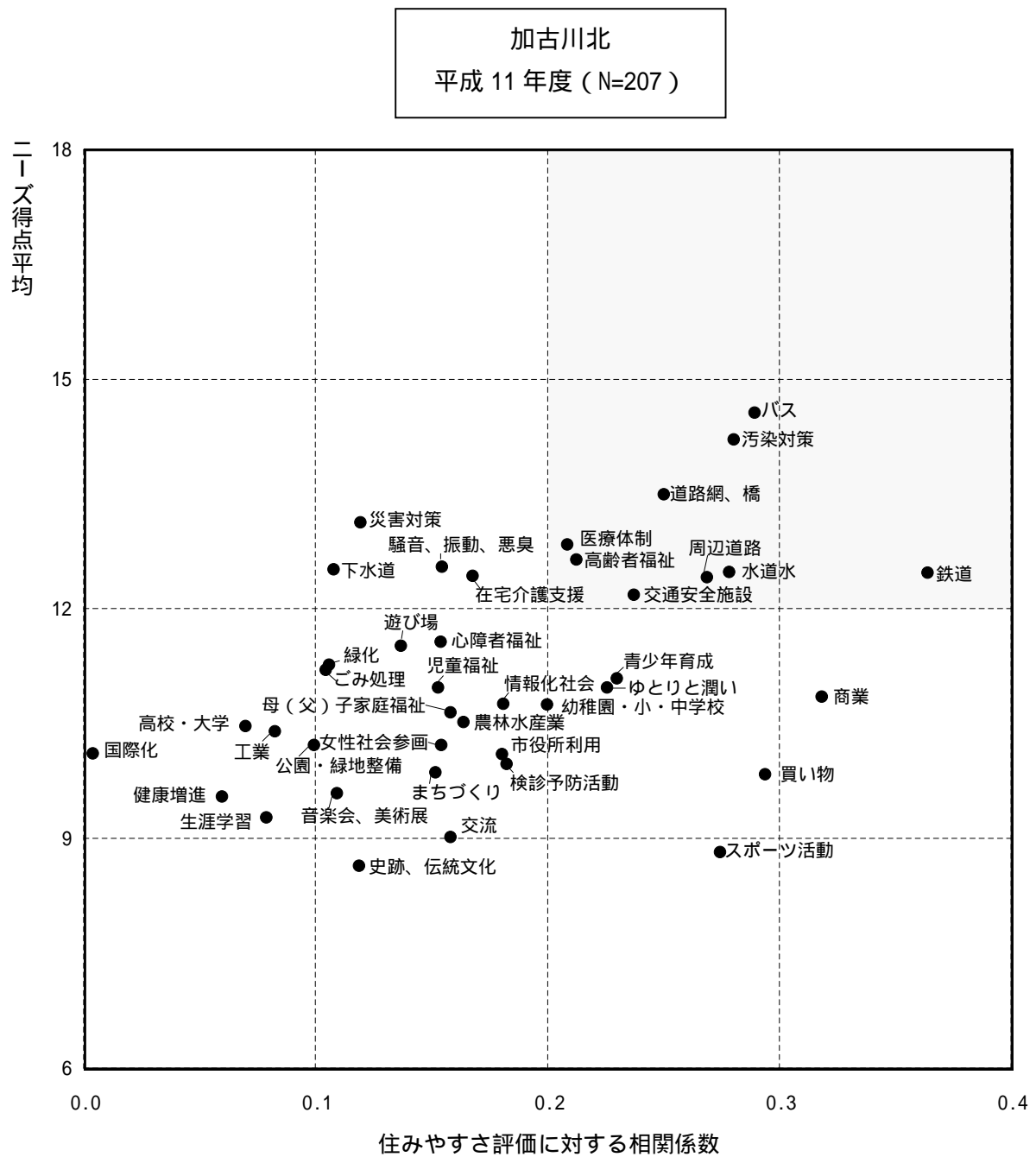


注) 相関係数の絶対値を図示している。

加古川北地区では、「鉄道の利便性」「道路網や橋の整備」「自宅周辺の道路の広さや舗装」がニーズ得点、相関係数ともに高くなっている。

平成11年度調査結果と比較すると、「鉄道の利便性」のニーズは高まっているものの、相関係数は低下している。反対に「道路網や橋の整備」「自宅周辺の道路の広さや舗装」はニーズは低下しているものの、相関係数は高くなっている。また、前回ニーズの高かった「バスの利便性」「河川等の水質や大気汚染対策」はニーズ得点、相関係数ともに低下が著しい。「水道水の安

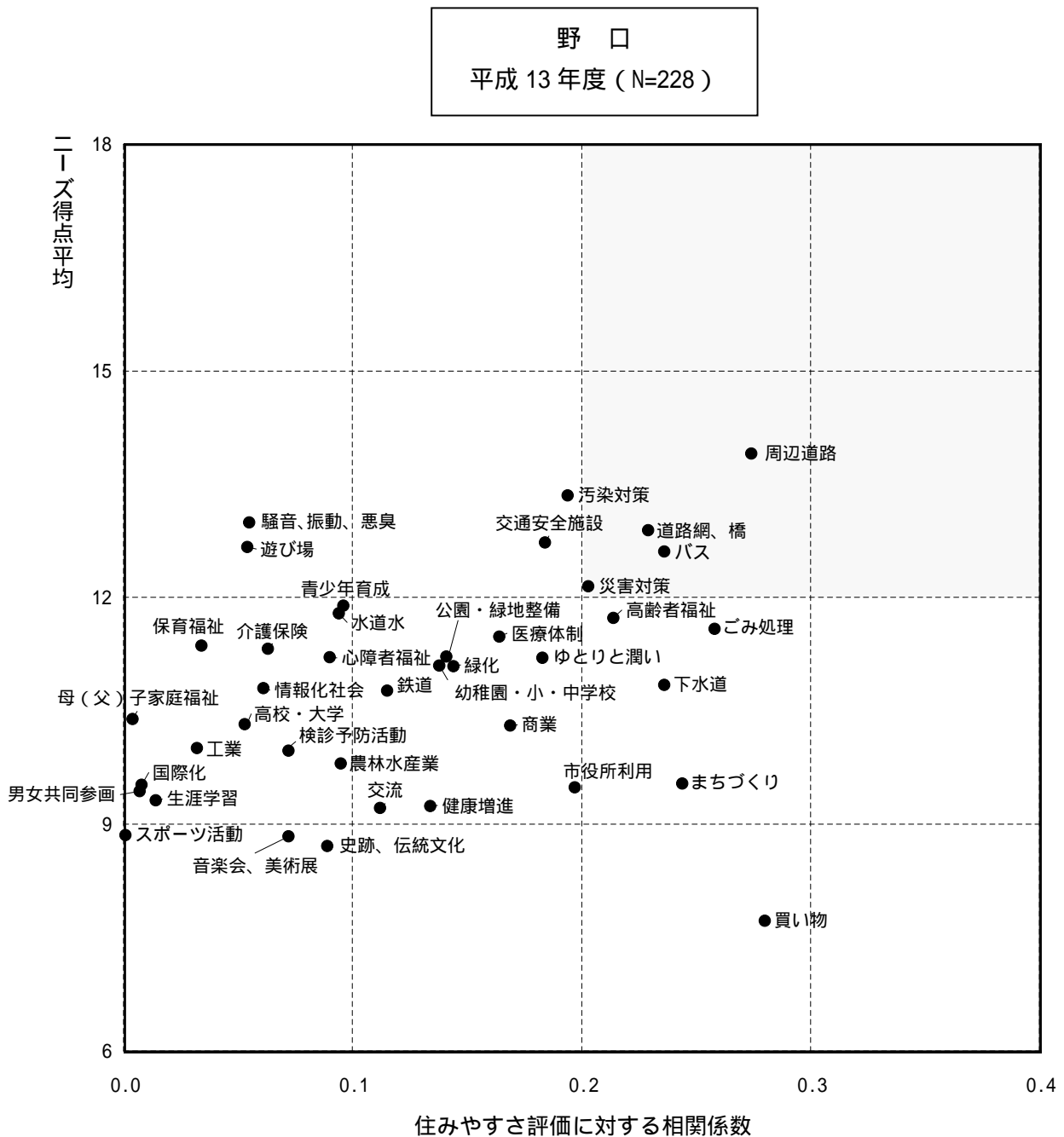
【図9-3-4-2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

「定供給と水質」はニーズ得点の高さに反して、あまり相関がみられない。

【図9-3-5-1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

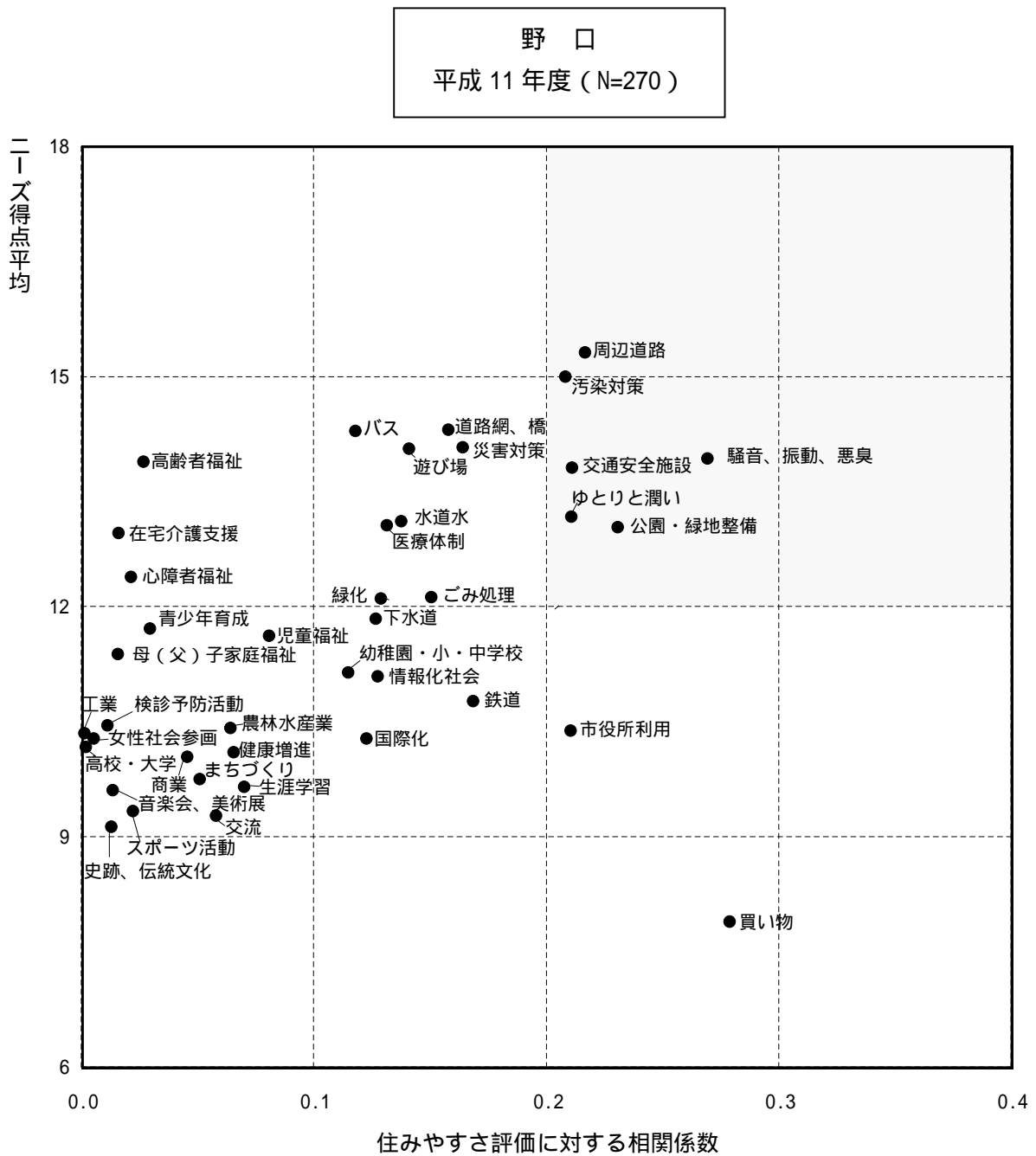


注) 相関係数の絶対値を図示している。

野口地区では、「自宅周辺の道路の広さや舗装」「道路網や橋の整備」「バスの利便性」「河川等の水質や大気汚染対策」「地震、火災、水害などの災害対策」などが上位項目となっている。

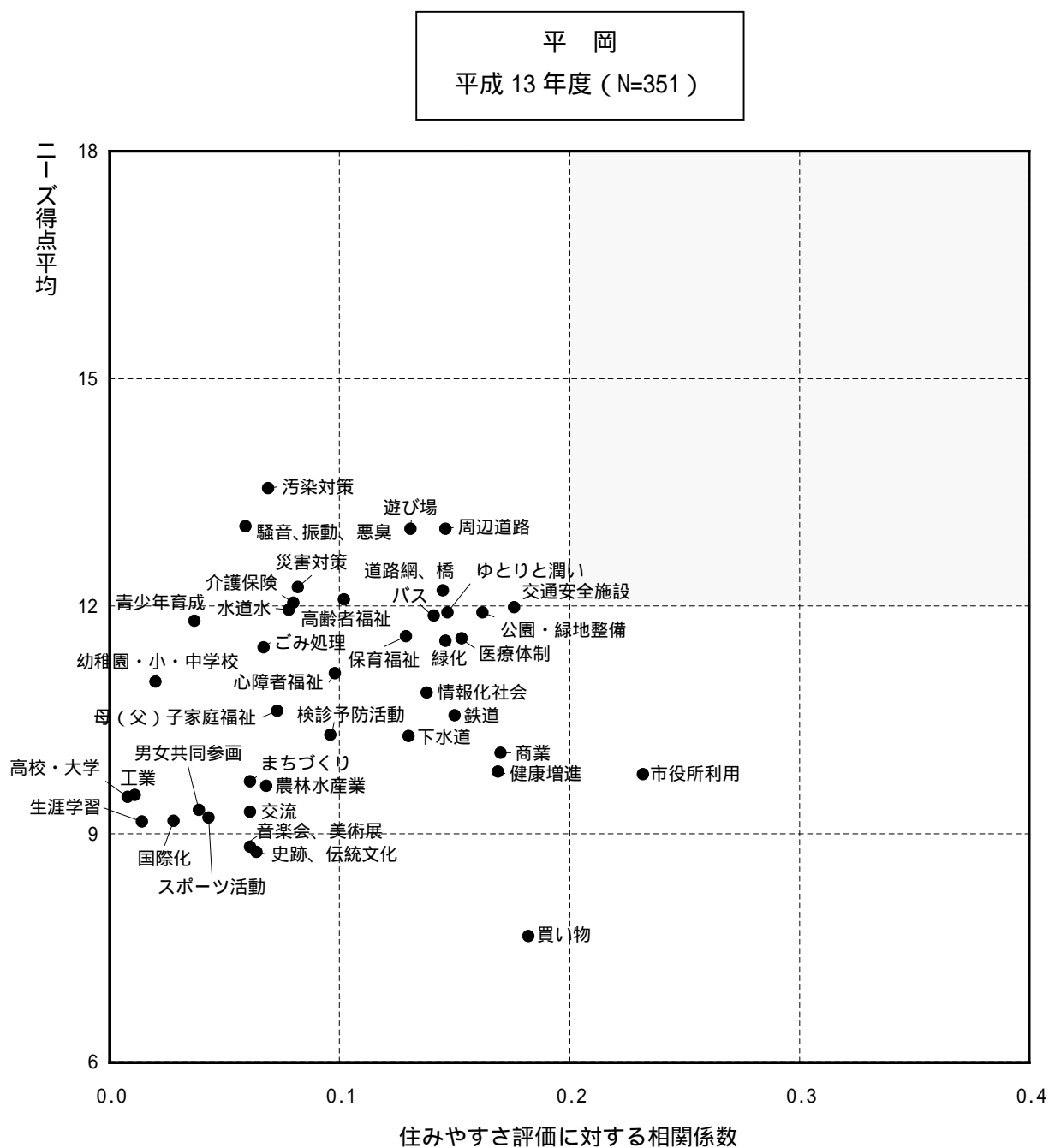
平成 11 年度調査結果と比較すると、いずれの上位項目もニーズ得点が低下しているが、そのうち「道路網や橋の整備」「バスの利便性」については相関係数が高くなっている。また、前回の上位項目であった「騒音、振動、悪臭等の対策」は相関係数が、「ゆとりと潤いのあるまちなみ」「公園や緑地の整備」はニーズ得点が大きく低下している。

【図9 - 3 - 5 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

【図9 - 3 - 6 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

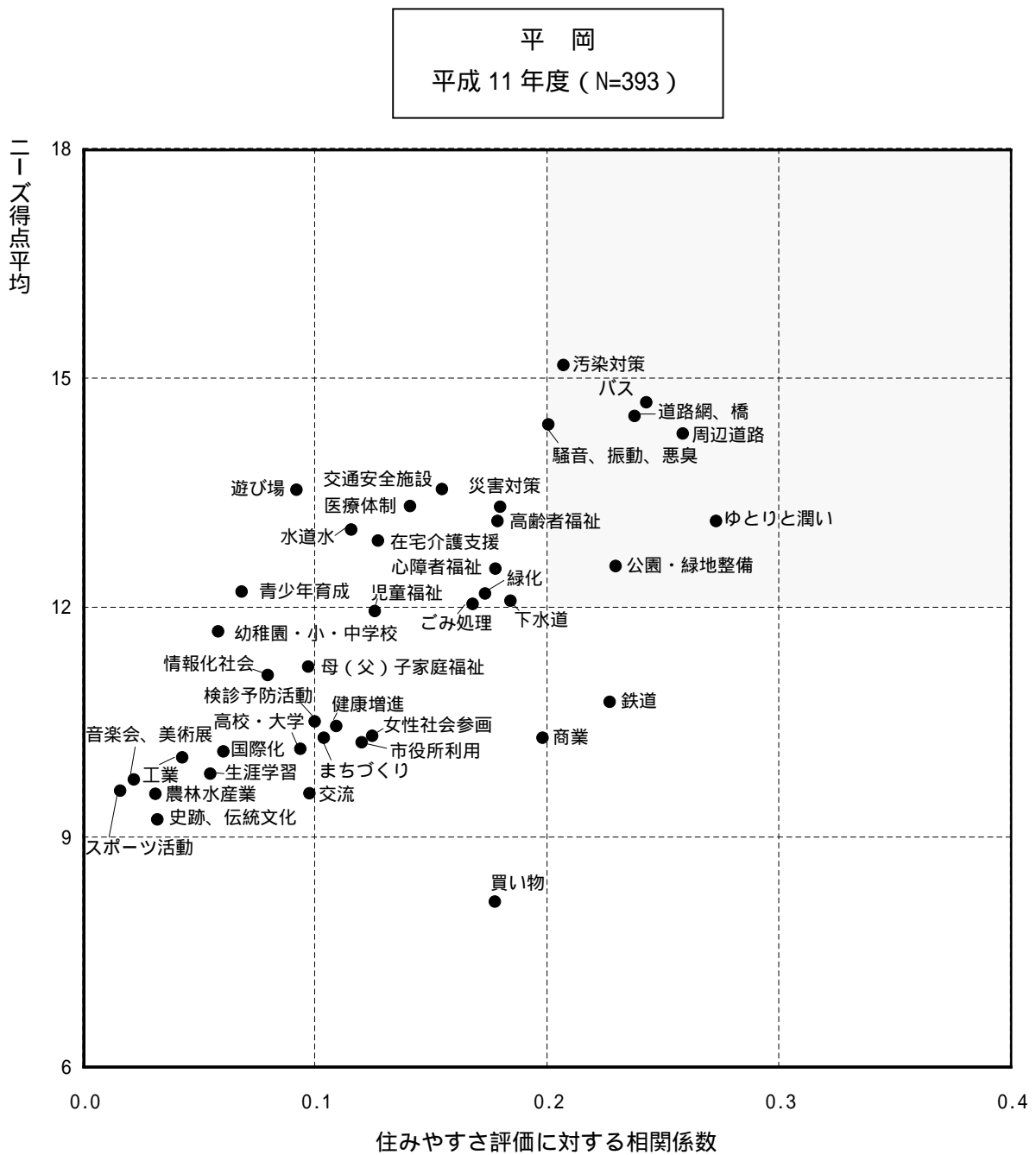


注) 相関係数の絶対値を図示している。

平岡地区では、ニーズ得点、相関係数ともに高かったのは「信号機、ガードレールなどの交通安全施設」「公園や緑地の整備」などとなっている。

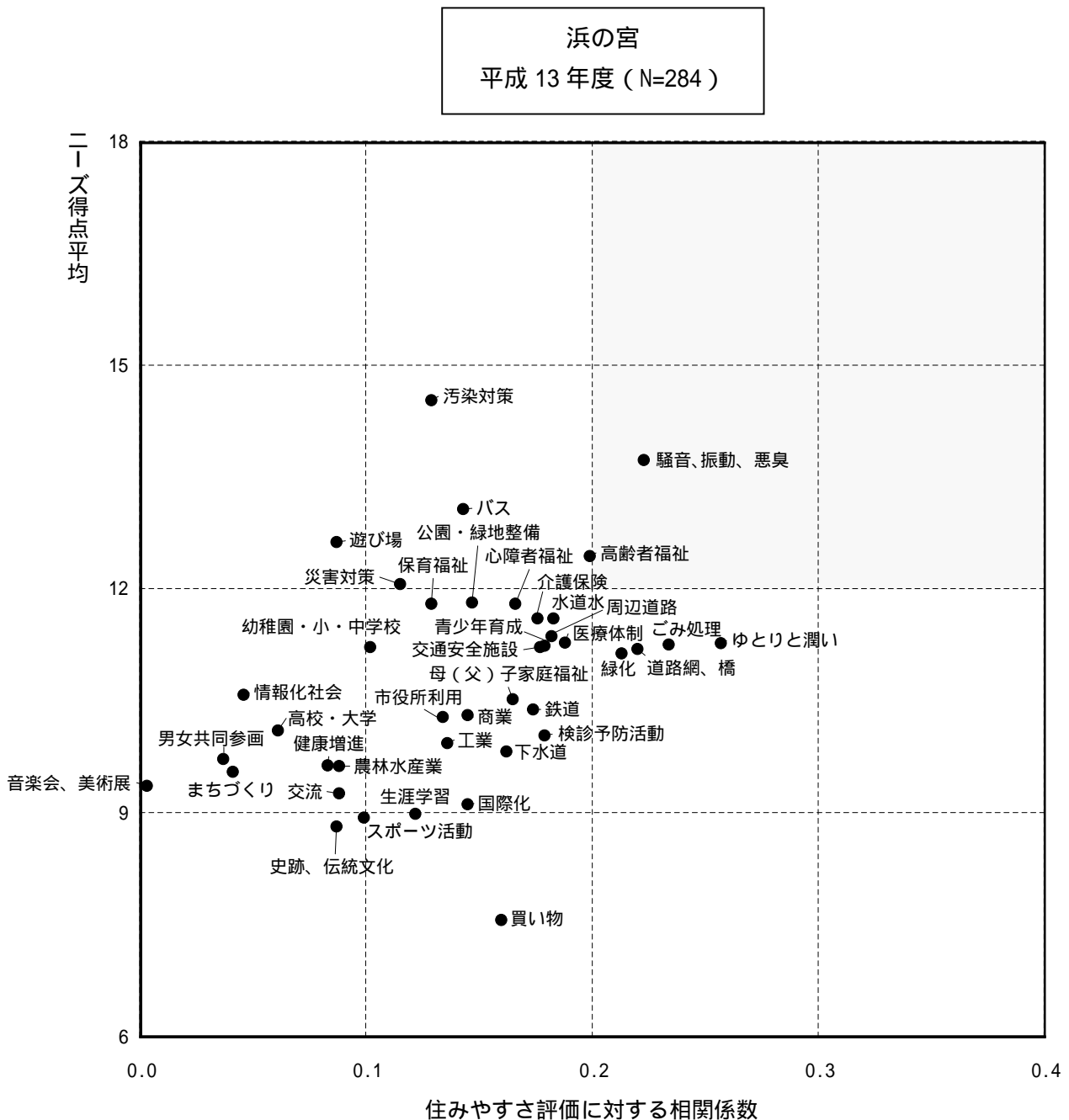
平成11年度調査結果と比較すると、前回ニーズの高かった「河川等の水質や大気の汚染対策」「バスの利便性」「道路網や橋の整備」「騒音、振動、悪臭等の対策」「自宅周辺の道路の広さや舗装」ではニーズ得点、相関係数ともに大きく低下している。

【図9 - 3 - 6 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

【図9 - 3 - 7 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との間の関係（相関係数）】

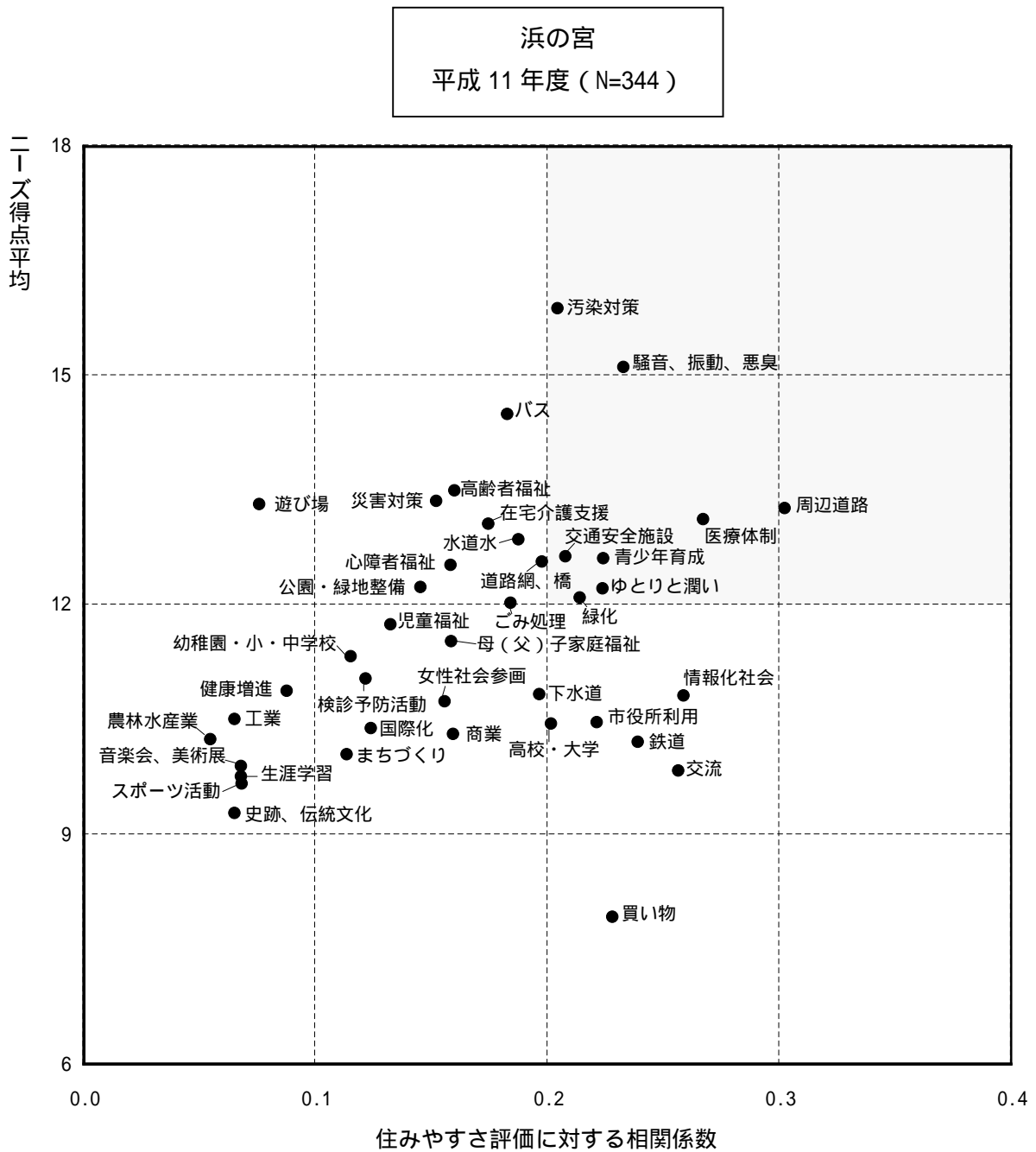


注) 相関係数の絶対値を図示している。

浜の宮地区では、「騒音、振動、悪臭等の対策」「高齢者への福祉対策」などが上位にあがっている。

平成 11 年度調査結果と比較すると、「河川等の水質や大気汚染対策」は前回と変わらず最もニーズが高いものの、前回にくらべて得点、相関係数は低下している。同様に「騒音、振動、悪臭等の対策」「自宅周辺の道路の広さや舗装」「医療機関や診療体制」「バスの利便性」など、前回上位項目にあがっていた項目のニーズ得点、相関係数の低下は著しい。

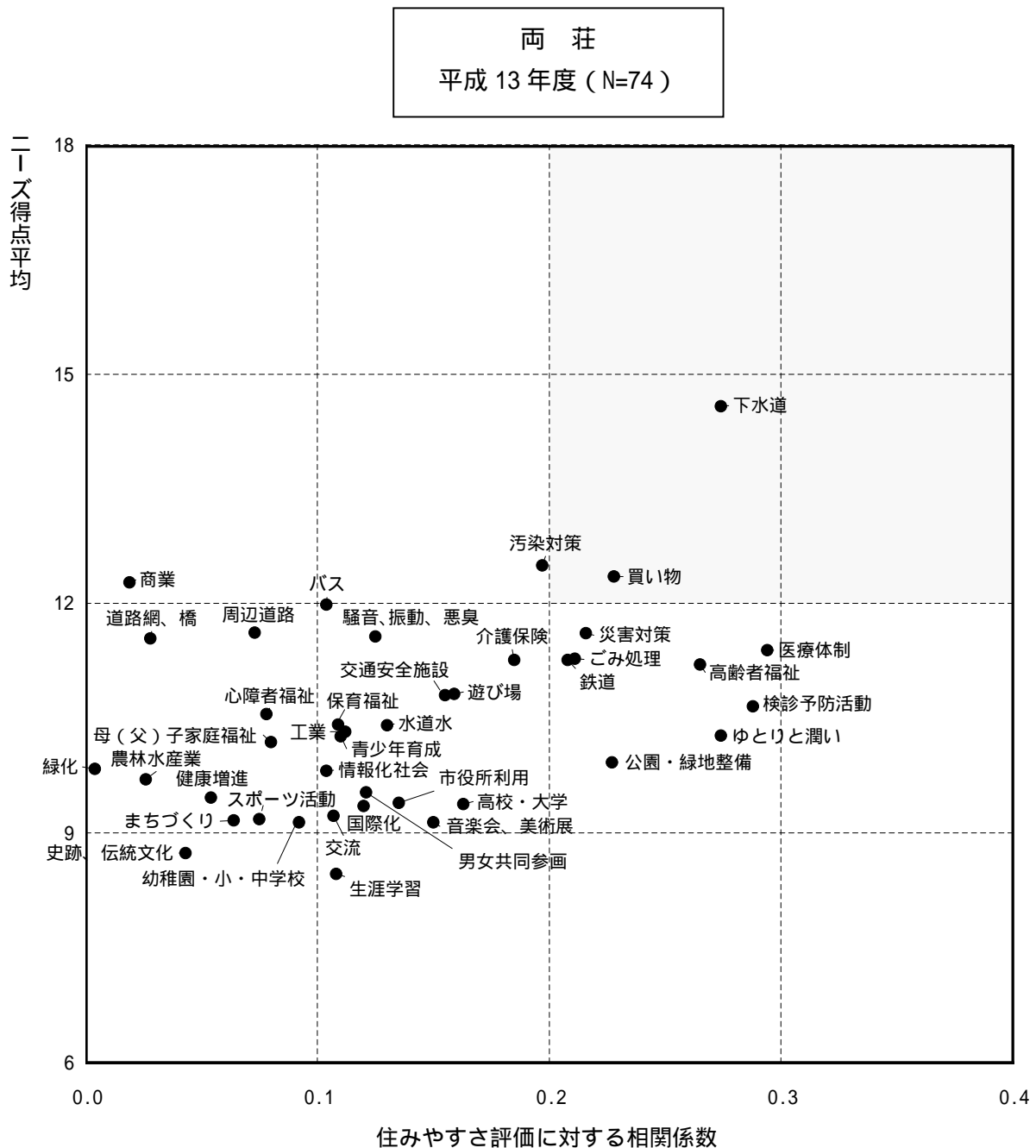
【図9 - 3 - 7 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

「ごみの収集、処理対策」「ゆとりと潤いのあるまちなみ」は、前回に比べてそれほどニーズは高くないものの、相関係数は高くなっている。

【図9 - 3 - 8 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との間の関係（相関係数）】

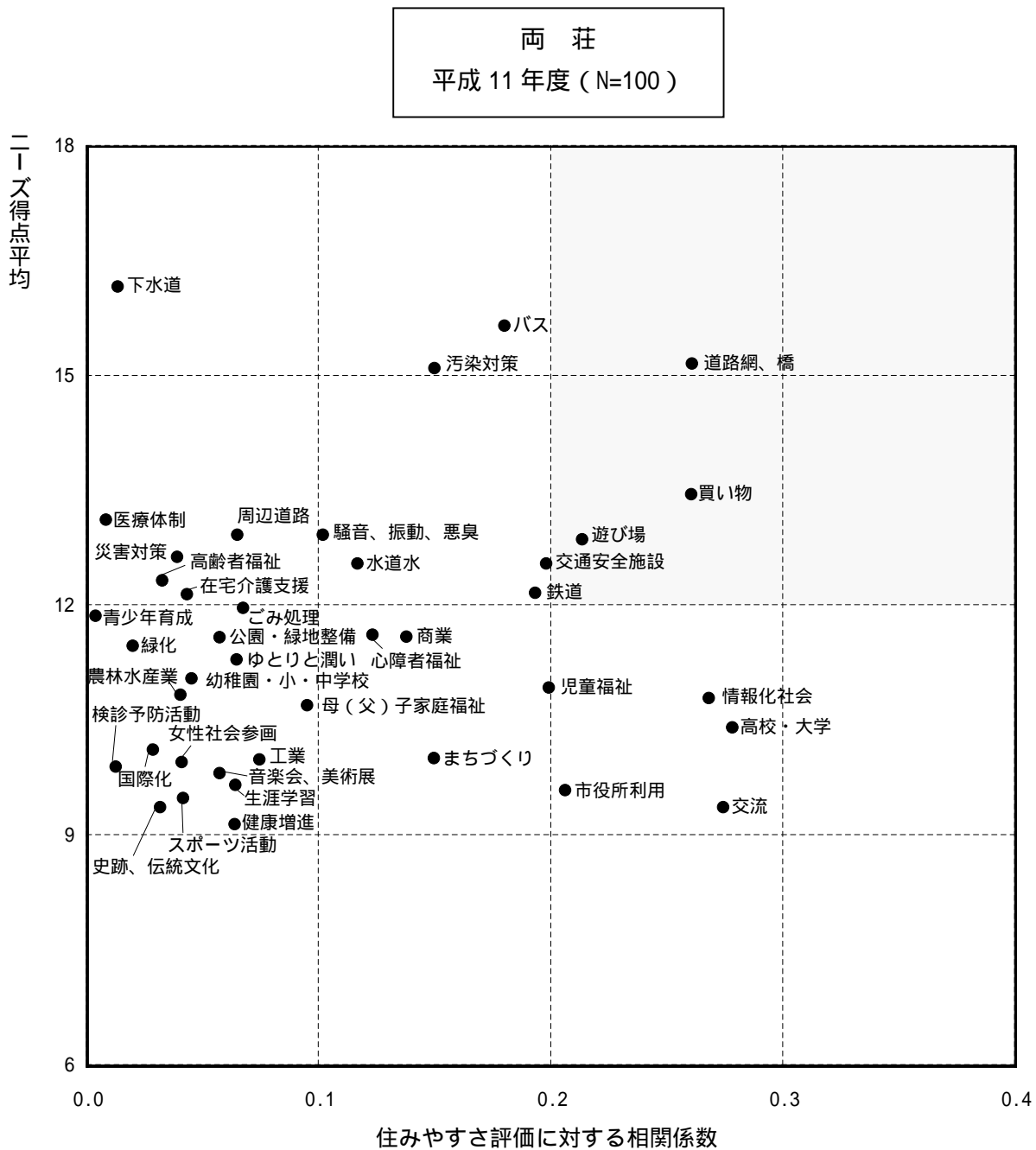


注) 相関係数の絶対値を図示している。

両荘地区では、「下水道の整備」「日常の買い物の利便性」「河川等の水質や大気の汚染対策」が上位にあがっている。

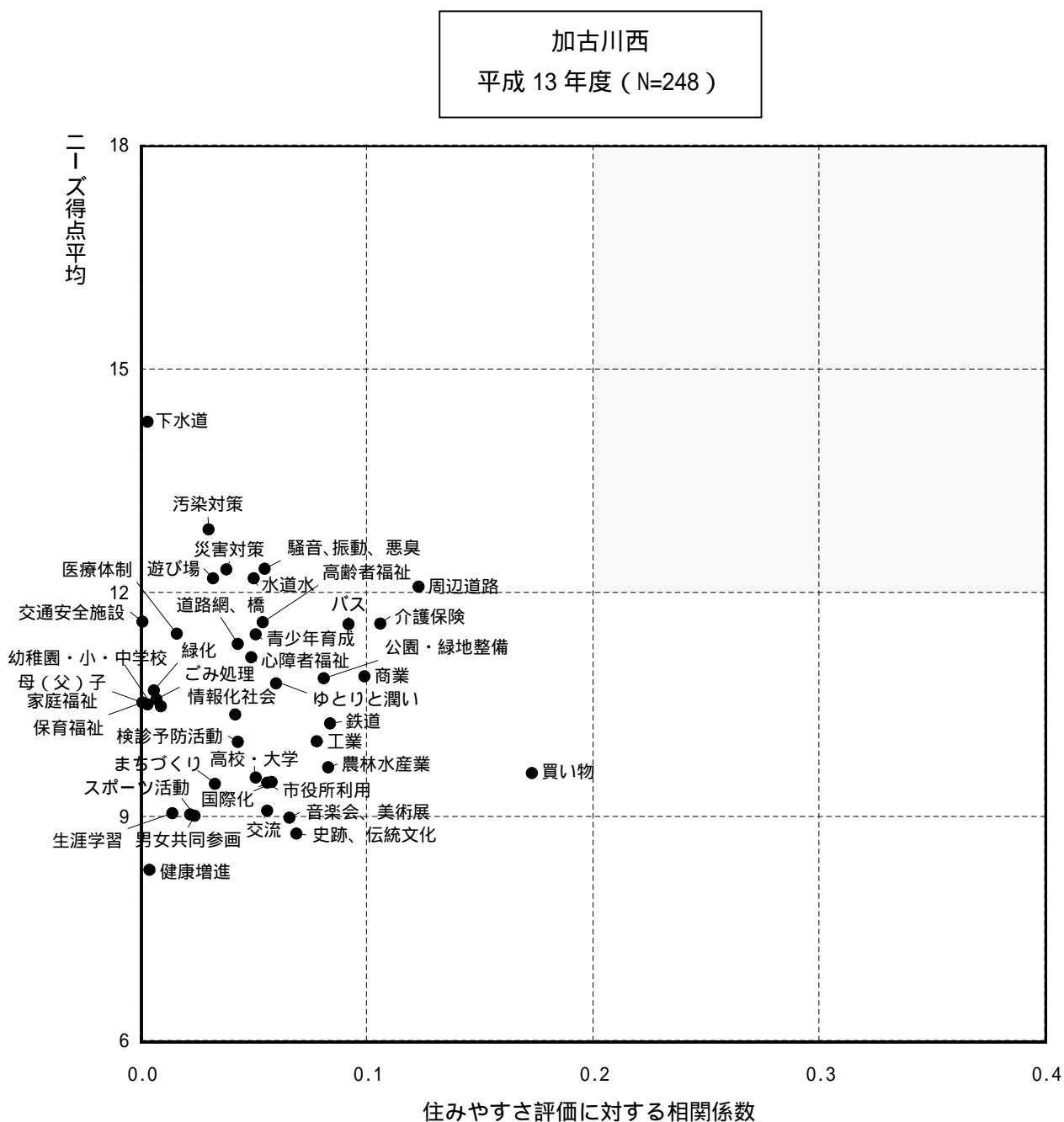
平成 11 年度調査結果と比較すると、前回上位項目にあがっていた「道路網や橋の整備」は、ニーズ得点、相関係数ともに大幅に低下し、あまり相関がみられない。また、「医療機関や診療体制」「高齢者への福祉施策」「住民健診や生活習慣病予防活動」「ゆとりと潤いのあるまちなみ」はニーズ得点はあまり高くないが、相関係数の伸びが著しい。

【図9 - 3 - 8 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

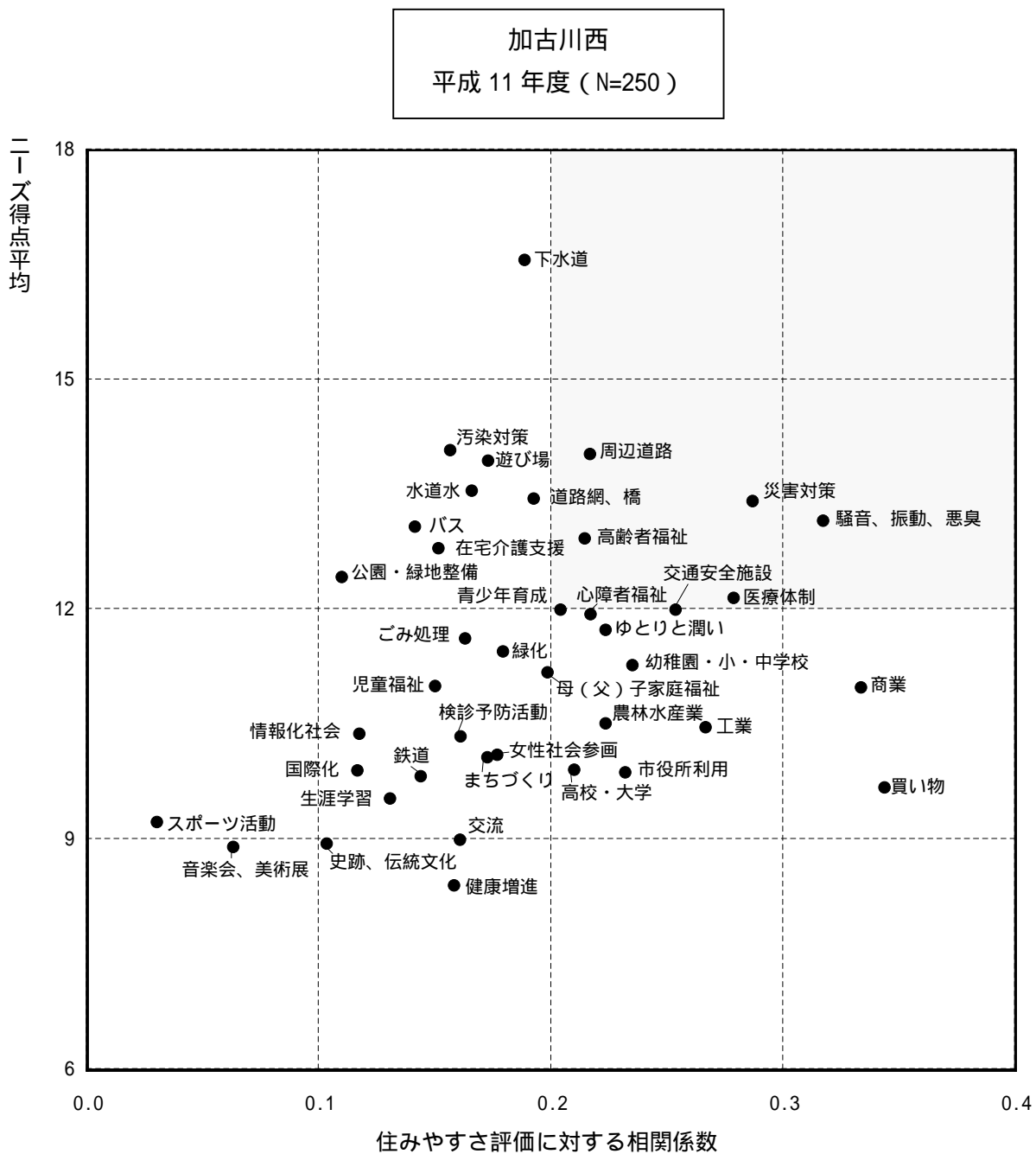
【図9 - 3 - 9 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

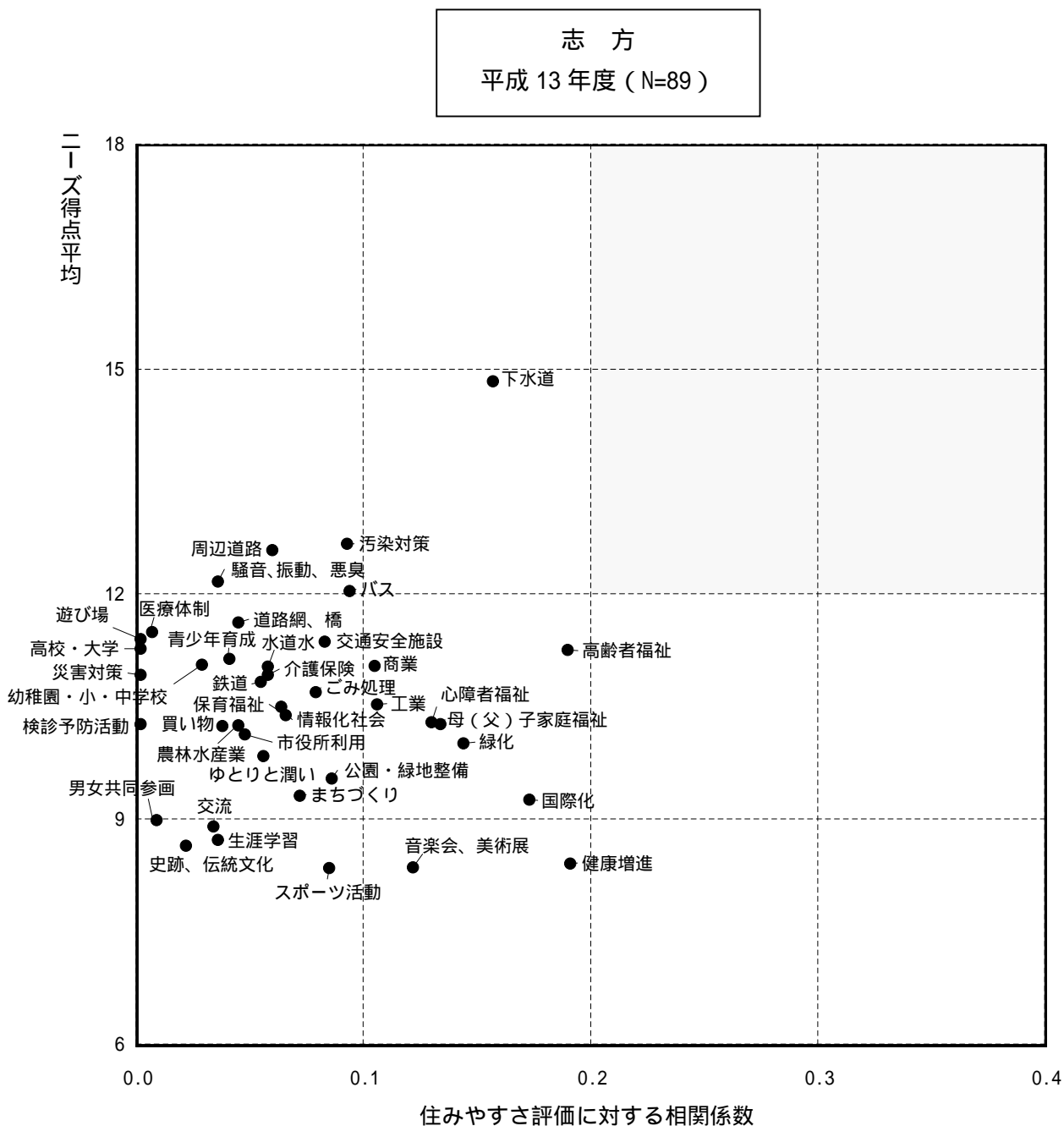
加古川西地区では、全体的に相関係数が低く、平成 11 年度調査結果と比べてもほとんどの項目が低くなっている。特に、平成 11 年度で上位項目に入っていた「地震、火災、水害などの災害対策」「騒音、振動、悪臭等の対策」「高齢者への福祉施策」「医療機関や診療体制」「信号機、ガードレールなどの交通安全施設」「青少年の健全育成」「心身障害者(児)への福祉施策」などでは、ニーズ得点、相関係数ともに大きく低下している。なお、「下水道の整備」については、ニーズ得点は依然として高いものの前回に比べて得点は低く、今回はほとんど相関がみられない。

【図9 - 3 - 9 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

【図9 - 3 - 10 - 1 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】

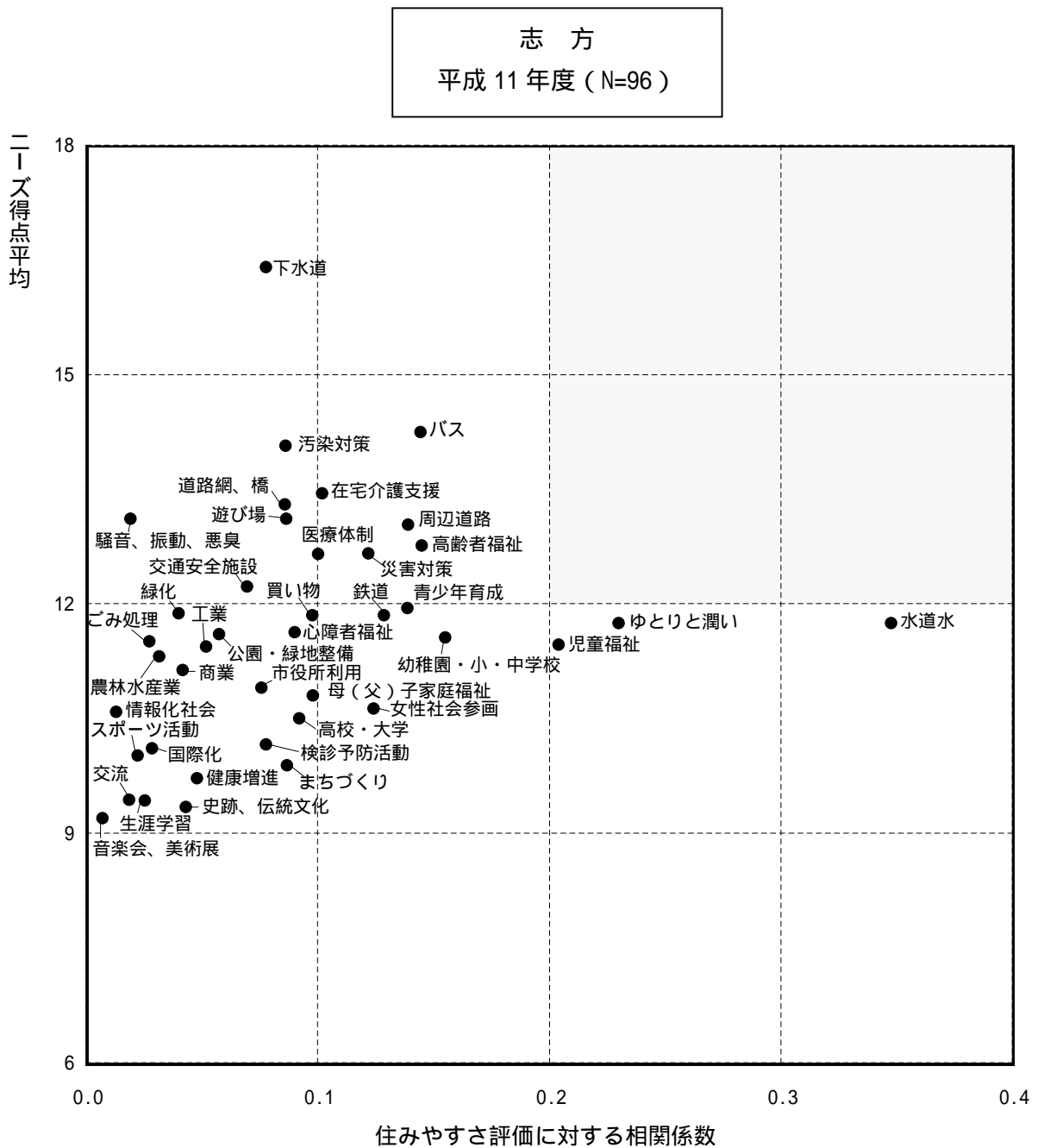


注) 相関係数の絶対値を図示している。

志方地区では、全体的にニーズ得点、相関係数ともに低下している。

平成11年度調査結果と比較しても、前回の上位項目であった「ゆとりと潤いのあるまちなみ」「水道水の安定供給と水質」については、他の項目に比べて相関係数の低下が著しい。

【図9 - 3 - 10 - 2 ニーズ得点平均と住みやすさ評価との関係（相関係数）】



注) 相関係数の絶対値を図示している。

10. 自由意見のとりまとめ

最後の質問として、市政全般についての意見・要望・提案などを記入してもらったところ、全回答者数 1,819 人中、579 人（全体の 31.8%）の方からの声がよせられた。（性・年代別 自由意見数参照）

なお、複数の意見をあげている人もあり、意見数は延べ 1,052 件になっている。これらの声を項目別に整理すると以下の通りである。（自由意見とりまとめ、参照）

【性・年代別 自由意見数】

	男性	女性	不明	合計	全回収数	回収数に占める割合(%)
20 歳代	25	61		86	227	37.9
30 歳代	37	60		97	293	33.1
40 歳代	37	54		91	293	31.1
50 歳代	55	78		133	435	30.6
60 歳代	46	58		104	329	31.6
70歳以上	34	33		67	237	28.3
不 明			1	1	5	20.0
合 計	234	344	1	579	1819	31.8

【自由意見とりまとめ】

大項目	中項目	件数	対全件率(%)	備考
1. 生活環境	公園・緑地	37	3.52	(6)
	街路樹	7	0.67	
	自然環境	19	1.81	
	ごみ問題	39	3.71	(6)
	上下水道・ガス	31	2.95	
	公害対策	9	0.86	
	防犯対策	44	4.18	(9)
	その他生活環境	26	2.47	
	小 計	212	20.15	
2. 福祉関係	高齢者福祉	25	2.38	
	障害者福祉	4	0.38	
	児童福祉	6	0.57	
	その他福祉	19	1.81	
	小 計	54	5.13	
3. 医療・救急体制	公立病院関係	8	0.76	
	夜間・休日の救急医療体制	3	0.29	
	その他医療	6	0.57	
	小 計	17	1.62	
4. 道路・交通安全関係	道路整備	106	10.08	(2)(3)(9)
	交通安全対策	25	2.38	
	渋滞対策	18	1.71	
	小 計	149	14.16	
5. 交通体系	公共交通	57	5.42	(8)
	駐車対策	24	2.28	
	小 計	81	7.70	

大項目	中項目	件数	対全件率(%)	備考
6．市街地及び地域の整備	地域の整備	17	1.62	
	市街地の整備	26	2.47	
	住宅関係	11	1.05	
	商業施設	14	1.33	
	小計	68	6.46	
7．教育関係	学校教育・学校施設	33	3.14	
	幼稚園・保育園	32	3.04	
	小計	65	6.18	
8．文化・スポーツ関係	文化施設・施策	27	2.57	
	スポーツ・レクリエーション施設・施策	17	1.62	
	小計	44	4.18	
9．市政全般	市役所関係	30	2.85	
	市の施策	80	7.60	(4)
	情報提供	32	3.04	
	税金・公共料金	53	5.04	(9)
	公共施設	20	1.90	
	議員・職員について	97	9.22	(1)(5)
	小計	312	29.66	
10．その他	地域活動	21	2.00	
	その他	29	2.76	
	小計	50	4.75	
合	計	1,052	100.00	

* 備考欄は、小項目（件数の多い意見）の含まれている中項目を示す。

自由意見の全件数は 1,052 件で、対全件率は全件数に対する当該意見の占める率を示す。

【自由意見とりまとめ】

小項目（件数の多い意見）	件数	対全件率(%)
(1) 職員の対応の改善、意識改革	61	5.8
(2) 歩道の確保、段差の解消	34	3.2
(3) 道路の拡幅・整備・凹凸の解消	33	3.1
(4) 住み良いまちづくり	23	2.2
(5) 市会議員、職員の削減	21	2.0
(6) ゴミのポイ捨て、不法投棄対策	20	1.9
公園、緑地の増設	20	1.9
(8) バス路線の拡大、増便、料金値下げ	18	1.7
(9) 南北道路の早期整備	15	1.4
税金の有効活用	15	1.4
治安の維持	15	1.4
外灯の増設、点検	14	1.3
交通網の充実	13	1.2
財政赤字からの脱却	10	1.0
無駄な道路工事が多い	9	0.9
幼稚園の2～3年保育の早期実現	9	0.9

平成 13 年度 加古川市民意識調査

まちづくりにあなたの声を - 新しい世紀を迎えて -

市民のみなさまには、日頃より、加古川市政に格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

加古川市では、本年 4 月に、新たな総合基本計画を策定し、将来の都市像「ひと・まち・自然がきらめく 清流文化都市 加古川」の実現をめざして現在、各種の施策を進めているところです。

このたび、20 歳以上の市民の方から 5,000 人を無作為で選び、「市民意識調査票」を送付させていただきました。この調査は、総合基本計画の基本理念である「協働によるまちづくり」を進めるうえで市民の皆様の意見を広く取り入れ、各種施策に反映していくことを目的としたものです。回答いただいたご意見は、これから様々な施策を実施していくときの貴重な資料とさせていただきます。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、みなさまの率直なご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。

平成 13 年 7 月

加古川市長 木下正一

回答についてのお願い

あて名のご本人のお考えやご意見を回答してください。

質問ごとに、あてはまる番号を で囲んでください。

「その他」の場合は、()内に具体的に記入してください。

回答の内容は、他の目的には使用いたしません。

回答後の調査票は、同封の返信用封筒で、**7月19日(木)までに**投函してください。なお、切手は不要です。

<お問い合わせ先>

加古川市企画部広報広聴課 広聴相談係

T E L : 27 - 9120 (直通)

M A I L : kik_kouhou@city.kakogawa.hyogo.jp

まず最初に、加古川市を全体的に見てどう思いますか。

問1．あなたは、加古川市が住みよい所であると思いますか。それとも住みにくい所であると思いますか
(は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1．非常に住みよい | 3．住みにくい |
| 2．住みよい | 4．非常に住みにくい |

問2．あなたは、これからも加古川市に住み続けたいと思いますか(は1つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1．ずっと住み続けたい | 3．できれば市外に移りたい |
| 2．当分の間は住み続けたい | 4．市外に移りたい |

つぎに、あなたのまわりの生活環境や市政全般についてお聞きします。

問3．あなたは、次の項目についてどの程度満足していますか。また、どの程度重要だと思えますか。
それぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んでください(は1つずつ)

	満 足 度					重 要 度				
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	特に重要である	重要度が高い	普通である	重要度が低い	全く重要でない
1．高校、大学などの整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2．男女共同参画社会の取り組み	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3．情報化社会への対応	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4．市役所、市民センターの利用のしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5．地震、火災、水害などの災害対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6．音楽会、美術展等の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7．まちづくりへの市民参加	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8．隣近所とのつきあい、交流	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9．日常の買い物の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10．商業の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11．工業の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12．農林水産業の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

(次のページへお進みください)

(問3のつづき)

	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	特に重要である	重要度が高い	普通である	重要度が低い	全く重要でない
13. 健康増進（ウェルネス）のための施策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14. 国際化への対応	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15. 緑化、自然保護の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16. ごみの収集、処理対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17. 河川等の水質や大気汚染対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18. 騒音、振動、悪臭等の対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19. 高齢者への福祉施策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20. 心身障害者（児）への福祉施策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21. 母（父）子家庭への福祉施策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22. 保育所などの児童福祉施策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23. 住民健診や生活習慣病予防活動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24. 医療機関や診療体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25. 介護保険の取り組み	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26. 自宅周辺の道路の広さや舗装	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27. 信号機、ガードレールなどの交通安全施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28. 道路網や橋の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29. 鉄道の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
30. バスの利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31. ゆとりと潤いのあるまちなみ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32. 公園や緑地の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33. 自宅周辺での子どもの遊び場の確保	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34. 下水道の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35. 水道水の安定供給と水質	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36. 幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37. 生涯学習、文化サークル活動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38. 史跡、伝統文化等の保護	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39. 体力づくり、スポーツ活動の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
40. 青少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

(次のページへお進みください)

あなたが望むまちについてお聞きします。

問4．あなたは、次にあげるまちの中でどのようなまちに暮らしたいですか（ は3つまで）

- 1．住環境がよく整備され、暮らしやすい「快適居住のまち」
- 2．道路や鉄道などが整備された「交通の便利なまち」
- 3．娯楽や買い物を楽しめる「商業のまち」
- 4．産業が盛んで、働く場も多い「産業のまち」
- 5．情報や通信機能の発達した「高度情報化のまち」
- 6．障害者や高齢者などを大切にする「福祉のまち」
- 7．心の交流を重視する「ふれあいのまち」
- 8．スポーツに親しみ、健康増進を重視する「スポーツ・健康のまち」
- 9．史跡や文化財、伝統などを大切にする「歴史のあるまち」
- 10．芸術や文化活動の盛んな「文化のまち」
- 11．年齢を問わず教養や能力を高められる「生涯学習のまち」
- 12．緑が豊かで、土や水に親しめる「自然豊かなまち」
- 13．事故や災害、犯罪のない「安全なまち」
- 14．外国との交流が活発な「国際交流のまち」
- 15．その他（)
- 16．特にない

あなたの文化に対するイメージや要望についてお聞きします。

問5．あなたは、「文化」という言葉に対して、どのようなイメージをお持ちですか（ はいくつでも）

- 1．音楽や美術、文学など芸術が盛んなこと
- 2．歴史的遺産が保存されていること
- 3．文化会館、博物館、図書館、美術館等が整備されていること
- 4．新しいものが創造されていること
- 5．伝統的なお祭、行事、芸術などが盛んなこと
- 6．みんなが美しさを求める心を持ち、心豊かに暮らすこと
- 7．便利な生活ができること
- 8．グループ、サークル活動が盛んなこと
- 9．生活の中から生まれた知恵や工夫が生かされていること
- 10．都市環境が快適なこと
- 11．学問が盛んで、教育水準が高いこと
- 12．科学や技術が発達していること
- 13．その他（)

（次のページへお進みください）

問6．あなたは、「加古川の文化」という場合、どのようなものを思い浮かべますか（はいくつでも）

- 1．音楽（クラシック音楽・邦楽など）
- 2．演劇（現代劇など）
- 3．伝統芸能・伝統芸術（能・茶道・華道など）
- 4．映画
- 5．舞踊（邦舞・洋舞など）
- 6．美術（絵画・彫刻・写真・書道・工芸など）
- 7．文学（小説・詩・短歌・俳句など）
- 8．自然（山・川・緑・水・海など）
- 9．人情（気質・精神など）
- 10．郷土芸能（太鼓・民謡・民舞踊など）
- 11．食
- 12．ファッション
- 13．祭りやイベント
- 14．歴史（寺社・町並み・史跡など）
- 15．その他（)

問7．あなたが、今後の加古川の文化振興を図るために、行政に望まれることは何ですか（は3つまで）

- 1．公演・展示等発表・鑑賞のための施設整備、充実
- 2．創作、製作のための拠点施設整備
- 3．創作、製作、発表のための支援
- 4．質の高い芸術文化公演や美術展の開催、支援
- 5．文化に関する情報の提供、発信
- 6．後継者の育成
- 7．歴史的文化財の保存
- 8．自然や歴史と調和したたたずまいの整備
- 9．都市デザインを配慮した都市景観の整備
- 10．学術研究への支援
- 11．国際親善などの他地域との交流
- 12．学校教育の中での文化活動の支援
- 13．子どものころから文化活動に携わる機会の提供
- 14．その他（)

（次のページへお進みください）

問8．あなたが、文化活動にもっと積極的に参加できるようになるには何が必要だと思いますか（ は3つまで）

- 1．文化活動に関する情報の提供
- 2．文化活動に関する入門講座や基礎講座などの充実
- 3．適切な指導者
- 4．文化活動に参加するボランティアグループの設立
- 5．文化活動に対する公的な支援
- 6．文化活動に対する私的な支援
- 7．音楽・美術・演劇など魅力的な芸術文化にふれる機会
- 8．利用しやすい（安い料金で使用できる等）ホールやギャラリーがあること
- 9．各活動の練習場所が身近にあること
- 10．その他（)

問9．あなたは、過去1年間に市内にある施設（市民会館・ウェルネスパーク音楽ホール・総合文化センター・松風ギャラリー）の文化的な催しを鑑賞したことがありますか。

1．ある

2．ない

【問9で「1」に をつけられた方にお聞きします。】

問9 - 1．あなたが、今後より多くの文化的な催しを鑑賞するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか（ は3つまで）

- 1．安い料金で鑑賞できること
- 2．施設が身近なところにあること
- 3．施設や催し物などの情報が数多く提供されること
- 4．魅力的な企画であること
- 5．夜のコンサート・公演等の開演時間を遅くすること
- 6．時間に余裕ができること
- 7．一緒に行く仲間がいること
- 8．家族の協力が得られること
- 9．保育設備や保育体制が整っていること
- 10．その他（)
- 11．特に必要はない

【問9で「2」に をつけられた方にお聞きします。】

問9 - 2．市内にある施設を利用されなかった理由は何ですか（ は2つまで）

- 1．興味のある催し物がない
- 2．催し物の情報がない
- 3．入場料が高い
- 4．交通の便が悪い
- 5．時間的な余裕がない
- 6．その他（)

（次のページへお進みください）

公園の現状や公園におけるボランティア活動についてお聞きします。

問10. あなたは、公園を利用していますか(は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 週1回程度 | 3. 好季節のみ |
| 2. 月1回程度 | 4. 年1回程度 |

問11. あなたは、公園について『こうしたい』といった希望がありますか。

1. ある

2. ない

【問11で「1」に をつけられた方にお聞きします。】

問11-1. それは、どのようなことですか(はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 新しい公園のデザインをしたい | 4. 気の合った仲間と維持管理に参加したい |
| 2. 今ある公園を造り替えたい | 5. 何かしたいが、具体的にはわからない |
| 3. 花壇をつくり手入れをしていきたい | 6. その他 () |

【全員の方にお聞きします。】

問12. あなたは、できる範囲で「公園ボランティア」をやってもよいと思いますか(は1つだけ)

最近では価値観が多様化し、ボランティアの解釈も『奉仕』『善行』といったイメージよりも、自分の能力や技術を社会に生かしてみたいという発想が生まれてきています。進んだ都市では、「プレイヤー」といった遊びを教えるボランティアも存在しています。したがって、「公園ボランティア」も草引きや掃除といったことばかりにとどまっていません。

- | | | |
|-----------------|------------|----------|
| 1. ぜひやってみたい | 3. 気がすすまない | 5. わからない |
| 2. 機会があればやってもよい | 4. やりたくない | |

問13. あなたは、公園ボランティアでどのようなことができると思いますか(はいくつでも)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 公園計画への参加 | 5. 花壇づくりとその手入れ |
| 2. 公園のデザインへの参加 | 6. 子どもたちの相手 |
| 3. 掃除や草引き | 7. 夜間の見回り |
| 4. 樹木の剪定や仕立て | 8. その他 () |

問14. あなたは、公園ボランティア活動の障害になると思うことはどのようなことですか。(はいくつでも)

- | | | |
|---------|------------|---------------|
| 1. 資金 | 3. 役所の規制 | 5. 自分の都合に合わない |
| 2. 人手不足 | 4. 気軽にできない | 6. その他 () |

(次のページへお進みください)

問 15 . 公園全般に関して、あなたのお気持ちに近いものを選んでください(は1つずつ)

	良い状態 である	まあまあ 良い状態 である	どちらとも 言えない	あまり 良い状態 ではない	悪い状態 である
1 . 樹木に関して	1	2	3	4	5
2 . 掃除に関して	1	2	3	4	5
3 . 景観やデザインに関して	1	2	3	4	5
4 . その他	(具体的に記入してください。)				

あなたを取り巻く社会の中での、男女の役割や考え方についてお聞きします。

問 16 . あなたは、「男女共同参画社会」という言葉をお聞きになったことがありますか(は1つだけ)

- 1 . 言葉の意味を知っている
- 2 . 聞いたことはあるが、意味はわからない
- 3 . 聞いたことがない

問 17 . あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(は1つずつ)

	男性の方が非常に 優遇されている	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男女平等である	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
1 . 家庭生活で	1	2	3	4	5	6	
2 . 職場で	1	2	3	4	5	6	
3 . 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	
4 . 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6	
5 . 政治の場で	1	2	3	4	5	6	
6 . 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6	
7 . 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6	

(次のページへお進みください)

問18. あなたは、性別にかかわらず、ともに男女の人権が尊重され、その個性と能力を発揮することができる社会をつくるためには、何が必要だと思いますか（はいくつでも）

1. 「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める
2. 家庭において、「男らしさ」「女らしさ」にとらわれない子育てをする
3. 学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える
4. 市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する
5. 子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する
6. 女性の経済的、精神的な自立意識を高める
7. 男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する
8. 女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める
9. 男は仕事、女は家庭にいる方がよい
10. 男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい
11. すでに、男女の平等は進んでいるので、特に問題はない
12. その他（)
13. 特にない
14. わからない

市の行財政改革の取り組みに対するあなたの考え方をお聞きします。

問19. あなたは、市役所（又は職員）に対してどのような印象をお持ちですか（はいくつでも）

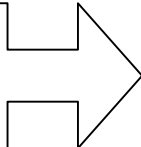
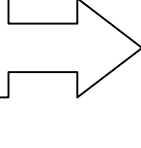
- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 仕事ができぱきしている | 8. サービス精神が足りない |
| 2. 親切的な対応をしてくれる | 9. コスト意識が低い |
| 3. 少ない人数で一生懸命働いている | 10. 勉強不足である |
| 4. 公平な取扱いをしている | 11. 縦割り意識が強い |
| 5. 幅広い視野を持っている | 12. 前例や慣習にこだわりすぎる |
| 6. 柔軟なものの見方ができている | 13. その他（) |
| 7. 仕事が緩慢である | 14. わからない |

問20. 市民サービス（行政が市民に対して提供するサービス）の水準と市民の負担の関係についてどのように思いますか（は1つだけ）

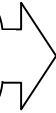
1. 市民サービスの充実のためには、市民全体の負担が増えるのは仕方がない
2. 市民サービスを直接受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担が増えることには反対である
3. 市民の負担を増やさないように、ある程度市民サービスを見合わせることは仕方がない
4. 市民サービスの充実のためには、徹底した行財政改革により、財源を生み出すべきである
5. わからない

（次のページへお進みください）

問 21 . 市役所の仕事でも、公共施設の管理運営や学校給食、ごみ収集などのように役所が直接処理せずに、民間に委託する場合があります。あなたは民間委託について、どのように思いますか(は1つだけ) また、その主な理由をお書きください。

<p>1 . 積極的に委託すべきである</p> <p>2 . サービスの低下を招くことなく、経費の節減につながるのであれば、委託する方が望ましい</p>		<p style="text-align: center;"><u>主な理由は何ですか</u></p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
<p>3 . あまり賛成できない</p> <p>4 . 委託すべきでない</p> <p>5 . わからない</p>		<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>

問 22 . あなたは、市の行財政改革の取り組みについてどのように思いますか。(は1つだけ)

<p>1 . 大いに推進すべきである</p> <p>2 . 推進すべきである</p>		<p>3 . あまり必要でない</p> <p>4 . 全く必要でない</p> <p>5 . わからない</p>	 <p style="text-align: center;">次のページの間23へお進みください。</p>
--	--	---	--

【問22で「1」又は「2」に つけられた方にお聞きします。】

問 22 - 1 . あなたは、行財政改革の取り組みで特に力を入れる必要があるのはどのような事柄だと思いますか。(は5つまで)

<p>1 . 無駄な仕事をどんどんやめること</p> <p>2 . 無駄な施設をつくらないこと</p> <p>3 . 行政組織をスリムにすること</p> <p>4 . 民間委託を進めること</p> <p>5 . 事務処理を迅速に行なうこと</p> <p>6 . 公費の支出をもっとチェックすること</p> <p>7 . 職員数を減らすこと</p> <p>8 . 職員の給与を適正にすること</p> <p>9 . 職員の対応を改めること</p> <p>10 . 職員が幅広い見識を身につけること</p> <p>11 . 民間の経営手法を見習い、合理的な行財政経営を行なうこと</p> <p>12 . 行政評価制度など新しい制度やしくみを積極的に採り入れること</p> <p>13 . 行政の守備範囲を見直し、民間の経営活動に任せるべきものは民営化すること</p> <p>14 . 市民と行政の役割分担を見直し、受益者から適正な負担を求めること</p> <p>15 . 行政内部の経費を徹底的に節減し、市民サービスを充実(維持)すること</p> <p>16 . もっと行政情報を積極的に公開すること</p> <p>17 . 市民が行政の活動に参加できること</p> <p>18 . 市民の意見を積極的に採り上げること</p> <p>19 . 近隣の市町と合併すること</p> <p>20 . その他 ()</p> <p>21 . わからない</p>	
---	--

(次のページへお進みください)

【問22で「1」又は「2」に つけられた方にお聞きします。】

問22 - 2 . あなたは、行財政改革の推進にあたって、何が重要であると思いますか(は2つまで)

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 . 市民の意識向上と市民によるチェック | 5 . 他の自治体との連携 |
| 2 . 市民への行政情報の公開 | 6 . 議会のチェック機能 |
| 3 . 職員の意識改革 | 7 . その他 () |
| 4 . 市の姿勢(市トップのリーダーシップ) | 8 . わからない |

『広域的なまちづくり』についてお聞きします。

【全員の方にお聞きします。】

問23 . あなたは、今後、広域的なまちづくりを進めるために、どのような取り組みが必要だと思えますか。
(は1つだけ)

- | |
|--|
| 1 . 福祉や医療などの分野で、近隣の市町が共同して事務を処理し、広域的な結びつきを強化していく
ことが必要である |
| 2 . 近隣市町との合併を進めていくことが必要である |
| 3 . 今まで通りでよい |
| 4 . わからない |

(次のページへお進みください)

あなたご自身のことについてお聞きします。

F 1 . あなたの性別は。

- | | |
|---------|---------|
| 1 . 男 性 | 2 . 女 性 |
|---------|---------|

F 2 . あなたの年齢は。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 . 20 歳代 | 3 . 40 歳代 | 5 . 60 歳代 |
| 2 . 30 歳代 | 4 . 50 歳代 | 6 . 70 歳以上 |

F 3 . あなたの家族構成は。

- | | | |
|----------|------------------|---------------------------------|
| 1 . 単身 | 3 . 二世帯世帯（親と子） | 5 . 兄弟（姉妹）だけ |
| 2 . 夫婦だけ | 4 . 三世帯世帯（親と子と孫） | 6 . その他（ ） |

F 4 . あなたの職業は（ は主なもの1つだけ）

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 1 . 農林水産業 | 7 . 主 婦 |
| | 8 . 無 職 |
| | 9 . その他（ ） |

- | |
|----------------------------|
| 2 . 自営業および家族従業員 |
| 3 . 会社員、公務員 |
| 4 . 専門職・自由業（医師、弁護士、大学教授など） |
| 5 . パートタイマー、アルバイトなど |
| 6 . 学 生 |

次のページの F 5 へお進みください

【F 4 で「2」～「6」に をつけられた方にお聞きします。】

F 4 - 1 . どちらまで通勤（通学）していますか（ は1つだけ）

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 . 加古川市内 | 6 . 三木市、小野市、加西市 |
| 2 . 高砂市、稲美町、播磨町 | 7 . その他の県内 |
| 3 . 神戸市 | 8 . 大阪府 |
| 4 . 明石市 | 9 . その他（ ） |
| 5 . 姫路市 | |

F 4 - 2 . 通勤（通学）先までの片道の所要時間をお答えください（ は1つだけ）

- | | | |
|------------|-----------------|--------------|
| 1 . 15 分以内 | 3 . 1 時間以内 | 5 . 2 時間以内 |
| 2 . 30 分以内 | 4 . 1 時間 30 分以内 | 6 . 2 時間を超える |

（次のページへお進みください）

【F4で「2」～「6」に つけられた方にお聞きします。】

F4 - 3 . 通勤（通学）の主な利用交通手段をお答えください（は主なもの1つだけ）。

1 . 徒 歩	4 . 自動車	6 . 鉄 道
2 . 自転車	5 . バ ス	7 . その他（
3 . バイク		）

【全員の方にお聞きします。】

F5 . あなたは、加古川市に何年くらい住んでいますか（は1つだけ）。

1 . 生まれてからずっと	3 . 10年～20年未満	5 . 1年～5年未満
2 . 20年以上	4 . 5年～10年未満	6 . 1年未満

F6 . あなたは、どちらにお住まいですか（は1つだけ）。

1 . 加古川町	5 . 山 手	9 . 別府町	13 . 東神吉町
2 . 神野町	6 . 野口町	10 . 八幡町	14 . 西神吉町
3 . 新神野	7 . 平岡町	11 . 平荘町	15 . 米田町
4 . 西条山手	8 . 尾上町	12 . 上荘町	16 . 志方町

市政へのご意見・ご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
--

以上で終わりです。ご記入いただいた調査票は、ごめんどうですが、同封の返信用封筒（切手不要）を使って、7月19日（木）までに投函してください。ご協力ありがとうございました。